

ふるさと加東の「学校の歴史遺産」

— 未来に伝えたい教育・歴史遺産 —

5期目がスタート 仮議場の1年

— 2年連続の議会運営委員長 —

- ◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より
- ◆議員活動ブログ「百聞百見」より



▲昭和7年建立の令旨塔



▲築山に横たわる令旨塔の石



▲三条実美公筆の八城学校扁額

県政資料

ふるさと加東の歴史再発見シリーズ XI

ふるさと加東の「学校の歴史遺産」

— 未来に伝えたい教育・歴史遺産 —

5期目がスタート 仮議場の1年

— 2年連続の議会運営委員長 —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より



▲昭和7年建立の令旨塔



▲築山に横たわる令旨塔の石



▲三条実美公筆の八城学校扁額

兵庫県議会議員 藤本百男

目次

- I ふるさと加東の「学校の歴史遺産」 ……………1
—未来に伝えたい教育・歴史遺産—
◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より
- II 5期目がスタート 仮議場の1年 ……………103
—2年連続の議会運営委員長—
令和5年5月～6年3月の議員活動記録
◆議員活動ブログ「百聞百見」より
- III 県議会での一般質問 ……………225
(令和6年2月議会)
- IV 令和5年5月～6年3月の活動記録 ……………243

まえがき

この「県政資料」は、私の議員活動ブログ「百聞百見」、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」に投稿してきた記事の中から、テーマに沿って、選び、まとめたものです。

第XI集のI部では、ふるさと加東の「未来に伝えたい学校の歴史遺産」をテーマにまとめてみました。加東市では、東条学園小中学校に続いて、社地域、滝野地域で、小中一貫校の開設に向けた取り組みが進められています。長い歴史を持つ小、中学校が幕を閉じ、新たな学校の歴史の幕が上がろうとしています。その舞台転換の時にあって、各学校に伝えられてきた教育の歴史を物語る貴重な資料を地域の歴史遺産として遺し、未来に伝えていくことが必要だとの思いからです。

そこで、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史遺産」に投稿してきた学校の歴史遺産に関する記事から抜粋してみました。記念物、教科書、行事、文書、写真、エピソードなど貴重な資料が数多くあります。

次にII部では、令和5年5月から令和6年3月末までの11ヶ月間の議員活動のうち、主なものをまとめてみました。令和5年4月の県議会議員選挙で5回目の当選を果たし、5月の臨時議会で議会運営委員長に選任され、前任期4年目に引き続いて2年連続で議運委員長の重責を担うことになりました。折しも、本会議場がある議会棟が詳しい耐震調査の結果、直下型地震で倒壊する恐れがあり、使用できなくなりました。それから6月、9月、12月、2月の4定例議会は、県公館や県庁3号館の大会議室を仮議場として開いてきました。各会派代表者会議で議場のあり方を検討してきましたが、未だ見通しが立っていません。しかし、議場は、県政の殿堂であり、いつまでも仮議場というわけにはいきません。兵庫県に相応しい品格と新しい機能を備えた新議場が必要です。

議会運営委員会では、議会改革に取り組み、ペーパーレス化の実施、委員会のオンライン環境の整備、感染症や自然災害に備えた議会BCPをまとめることができました。

コロナを克服し、新たな時代へと立ち向かう兵庫県政の動きを書き留めたこの県政資料を発刊することができたことに感謝しつつ皆様にお届けいたします。

令和6年5月吉日

兵庫県議会議員

藤本百男

未来に伝えたい加東の学校の歴史遺産

郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より —学校にある歴史遺産の記録と保存について—

令和5年の秋、市内の小、中学校の運動会を回ってみて、一つ思ったことがあります。それは、長い歴史を持つ学校には、創立、移転、再建等の変遷を経ながらも、現在も残っている記念物などが少なくないということです。

その代表例として、校門近くに建てられている二宮金次郎像があります。戦前の金次郎はその多くが戦争に出征（供出）しましたが、戦後、再び寄贈されるなどして、今も子供達を見守っています。また、国旗掲揚柱の柱を固定する石柱も残っています。その他にも、廊下や体育館、校長室などに掲げられている額や絵画、旧校舎の瓦、始業合図の鐘、教科書、歴代校長の肖像画や写真、歴代校舎の写真、校区の地図、手紙、寄贈された農具などなど、気をつけて見回してみると、多くの歴史を物語る資料、遺物があります。

各学校で、創立周年記念誌、例えば百年誌などが作成された時には、そうした歴史資料も収集され、記録されていることもあると思います。こうした多くの遺物、文書、写真類はその地域の先人の学校づくりの苦労や思い、児童生徒の学びの足跡を辿ることができる貴重な資料となります。

私も父親の日記に書いてあった青年団時代の活動で建立した記念碑の石を社小学校の校庭で発見したことがあります。それは、

「令旨塔」建立を記録した写真を手がかりにして校庭を歩き回って調べてみると、令旨塔の石碑や台石などに使われた石を築山で見つけたことでした。解体され、裏返しにしたりして、築山に庭石としてそっと置いてあったのです。

今、私たちは、こうした学校にある歴史的記念物をきちんと記録し、保存していくことを真剣に考えていかなければなりません。

子供の減少が続き、学校の統廃合が全国各地で進んでいます。廃校となった学校の跡地利用が話題となっていますが、校舎の撤去などの際、学校の歴史を物語る遺物、資料等の扱いはどうなっているのか気がかりです。確かにあった二宮金次郎像が移転後の学校に移設されず、その後どうなったか誰もわからないという例もあります。学校に残る貴重な歴史的資料（遺物、文書、写真等）を地域のお宝すなわち、貴重な歴史遺産として保存し、未来に伝えて行くことが必要だと考えます。

そこで、県教育委員会にこうした学校の歴史遺産の保存や記録についてどのような取り組みを考えているかを尋ねたところ、県立学校では、学校として記念物などを保管し展示している例もある。市町立学校においても台帳をつくるなどするよう呼びかけているが、保存、継承等については、各自治体や学校の判断によるということでした。

強い関心をもって調査し、記録、保存、展示などの対応を考えておくことが大切です。

そこで、第XI集では、「未来に伝えたい加東の学校の歴史遺産」をテーマに、これまで歴史ブログで紹介してきた記事の中から抜粋して掲載することにしました。第VIII集で特集した二宮金次郎像他再掲したものもあります。

令旨塔物語－青年団の情熱と汗の結晶

昭和7年－社小学校に令旨塔建立

2009年05月14日

古いアルバムの中に忠魂碑のような石塔の写真を見つけました。裏書きがなかったので写真をよく見直してみると、石塔の真ん中に「令旨塔」と刻まれているのが読み取れました。「令旨」という言葉は歴史の中で聞いたような覚えがあります。「以仁王の令旨」です。源頼政がこの令旨を受けて平家を討つために兵を挙げたわけですが、その「令旨」が浮かんできました。



調べてみると、天皇の詔のほかにも、皇太子や皇后などが出されるのが「令旨」というそうです。では、この「令旨塔」は？。どこかで見たとような・・・と記憶をいろいろさぐってみたところ、どんぴしゃりで社小学校の「創立百年誌」の年表にその石塔のことが掲載されていました。

昭和7年（1932）に「校門東側に令旨塔建設」の記録がありました。もちろん今は令旨塔はありません。私が通っていた昭和30年代もそのような石塔があった記憶がありません。

この「令旨」とは何なのか。調べてみると、大正9年（1920）に皇太子殿下（昭和天皇）から全国の青年団に下賜されており、その令旨をさすのではないかと思います。令旨は次の通りです。

国運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク内外ノ情勢ニ顧ミ恆ニ其ノ本分ヲ尽シ奮励協力以テ所期ノ目的ヲ達成スルニ勗メムコトヲ望ム

当時青年団活動が活発だったようです。その青年団に下された令旨を記念して石塔が建設されたものでしょう。もう少し確かなことを調べてみたいと思います。

昭和7年—令旨塔建設費の内容

2009年05月16日

昭和7年に社小学校に建立された令旨塔について、写真とともに2日前のブログで紹介しましたが、その後資料を見ていると、令旨塔の建設費の内容に関する文書が見つかりました。

文書は「昭和六年 雑書綴 社町 社区長」に綴られており、日付はありませんが、前後の文書の日付から類推して、昭和7年1月はじめのものと思われる。文書から青年団が令旨塔建設を行ったことが読み取れます。

この写真は令旨塔の拡大写真ですが、はっきりと「令旨塔」と刻まれているのがわかります。また下の石に銅板のような長方形の部分が見えます。

令旨塔についてはさらに探索を続けていきたいと思っています。もし情報をお持ちの方は教えて下さい。



支払ノ部

- 一 七拾五円 石代
 - 一 四拾五円 石搬出運賃
 - 一 七円 砂、小石代
 - 一 拾五円七拾銭 石工賃
 - 一 参円 ボロツコ借料
 - 一 拾六円七拾八銭 雑費
 - 一 弍円四拾銭 人夫賃
- ✂ 弍百七円参拾八銭
- 内七拾五円（先年ノ団費ヲ活用）
- 内参拾弍円参拾八銭（積立金流用）
- 内壹百円（他ヨリ借入レタ）

未払ノ部

- 一 五拾円 令旨ト奉仕者連名銅板代
 - 一 五拾円 石工代柱石石文字裏表分
 - 一 拾九円五拾銭 セメント拾五袋
 - 一 弍拾五円 植木職ノ分
 - 一 五拾円 除幕式招待者百名
 - 一 弍拾五円 仕上ゲ迄ノ雑費
 - 一 弍拾五円 除幕式祭司料供物料其他
- ✂ 弍百五拾四円五拾銭

総額料金 四百六拾壹円八拾八銭也

不足額 参百五拾四円五拾銭

昭和7年—「令旨塔除幕式」青年団員だった父の日記から

2009年05月18日

このブログで社小学校の令旨塔の写真を紹介してから探索が続けていますが、昭和7年建設という社小学校百年誌の記述をもとに当時社町青年団社支部の団員だった父の日記を読み直してみました。

昭和7年2月28日の日記に「令旨塔除幕式」という表題がつけられており、その様子、昂揚した気分などが書きとめられていましたので紹介します。(文章や漢字はそのままです)

二月二八日

令旨塔除幕式 二事会 肥田 十名

涙だ。熱の塔だ。血の結晶だ。汗の石魂だ。思ひ起すも昭和五年の十一月二十七日、寒風漸く強くして人襟を立てるのあの朗らかにして且つ元気一杯で石取の門出。それが幾度か続けられて来る事か。弁当を枯れて行く山の木々に比して嬉しきと希望と期待と完成への張り詰めた気分一杯で食べた事が幾回とも知れぬその過程。思ひ起す度に懐かしく、そして偉然と今日の日に輝かねばならない。そしてこんな大した完成が出来るとは誰が期した事だらう。思い起す度に奇蹟と感じ偉大と感ずるのが今日の嬉しき胸であり気分だ。朗らかに唄え。そして、この記念ある日を祝ひ俺等は若くして永久にこの地に残り忘れ得ぬ印象だらう。

午前五時半、折弁当の用意と会場の用意。次いで来賓の来るのを待つて午前十一時式挙行。午後一時宴会も終了。以上で倶楽部で心からの祝いぞ。而かも青年の手製で。午後五時過解散。午後七時過から肥田文店で慰労会。少なからず酔態の有様。—唯喜悅

と嬉しさで一杯だ。

※青年団の情熱と血と汗の結晶として建立にこぎ着けた当時の社町青年団員の感激が伝わってきます。

令旨塔建設まで一父の日記から

2009年05月19日

昭和7年（1932）年1月1日の父の日記の終わりの2行に令旨塔のことが書かれていました。

「令旨塔の揮毫が今日届いた。白川義則大将の筆書だ。大万歳だつた。」

社小学校の校門東側に建設された令旨塔の揮毫は白川義則大将だったことがわかりました（揮毫部分の拡大写真）。

白川大将は昭和7年1月に起こった上海事変の派遣軍司令官に任命され、昭和天皇の信頼が厚い軍人だったと聞いています。同年4月29日の天長節の式典会場で爆弾テロにあって重傷を負い、これがもとで5月26日に亡くなっています。その白川大将の揮毫ということになると、亡くなる3ヶ月前に令旨塔除幕式が行われたということになります。



昭和5年—令旨塔建設準備の石取り(父の日記から)

2009年05月20日

昭和7年(1932)2月に社小学校に建立された令旨塔の建設は、当時の社町青年団の情熱を注いだ一大事業だったことが父の日記や区長文書綴の資料などから明らかになってきました。

建立から溯ること1年半ほど前の、昭和5年晩秋の父の日記を読んでいると、「石取り」の表題が時折り出てきます。これは青年団員による令旨塔の石取り作業のことで、その様子が書かれています。今日はその一節を紹介します。文中の山口、馬瀬、三草、鴨川は地名で加東市上福田地区、鴨川地区の集落です。青年団の面々が自ら令旨塔の石を取りに弁当持ちで山や川へ出かけて作業をしていたことがこの日記からわかりました。写真はその令旨塔全景ですがこの石を父やその青年仲間がその手で取ってきたものだと思うと感慨深いものがあります。

昭和五年十一月二十七日

令旨塔建設石取り

朝七時起床。令旨塔の石取りのために九時半拾名山口の方面に出発。寒さと冷たさは又格別である。長い間の握り弁当を食べなかったものを今日は食べられると思った。元気でいい。偉勢が揃ってゐる。磯貝、松原、三木、黒石、堀本、近藤、山下、川崎支部長。三草の若藤で石をかく道具や針金や等を購入と借入れをして西山先生の裏山の石をもらふ交渉をすませて山口の西山先生の裏山から百五六十貫の石を拾時から拾貳時迄、山口と馬瀬との間の河中から午後三時過ぎまで石をあげた。正午弁当を開いたときの味は又久しい間味はなかつたものとて痛快だつた。鴨川の小山

迄行つて石を見て午後六時帰つた。 一後略一

こうした石取りはこのあとも昭和5年の日記には数回記述されています。除幕式の日記に「涙」「血の結晶」といった感激の言葉が出てくるのはこのような苦労があったからだったんですね。

令旨塔の石が社小学校の築山に

2009年05月21日



ここ数日、昭和7年(1932)に建立された令旨塔について探索を続けていますが、写真から始まり、社区文書や父の日記からいろいろな事が明らかになってきました。それらについてはこのブログで紹介してきましたが、今日は衝撃の発見!について報告します。

休日の朝、ウォーキングの途中で、社小学校の前を通ったときに令旨塔のことを思い出し、校門を入れて塔があったと思われる校門東側のところを見ってみました。もちろん、塔はありません。

本館正面の築山はかつて奉安殿があった場所ですが、玄関正面の2つの築山のうち、東側の築山の植木の中に大きな石がいくつか配置してあるのですが、そのうち一番大きな石を見てピンとききました。大きさといい、形といい、これはもしかして・・・。

令旨塔の石にちがいはありません。なんと字が彫られているではありませんか。

「令旨奉戴十周年記念
社支部建之」
「昭和五年十一月二十二日」

と刻まれています。これは令旨塔の裏書です。令旨は大正9年(1920)11月22日に皇太子殿下(のち昭和天皇)から青年に下賜されたもので、昭和5年(1930)は令旨奉戴10周年にあたります。この石の土に埋まっている部分が表、そこには写真にあった白川義則大将の揮毫になる「令旨塔」の字が刻まれているはずですが、おそらく、敗戦後の占領時代に戦前の国家主義に通じるとして撤去され、そのまま築山の庭石として置かれたままになっているのではないのでしょうか。

父等、当時の青年団員が汗と血の結晶と感激しつくりあげた令旨塔と、約80年後の今、こうして出会うことができ感激してしまいました。自分自身も昭和30年代後半に在学し、また一番下の娘の在学時にPTA会長もさせてもらうなど、母校社小学校とは縁が深かったわけですが、令旨塔やこの築山の石についてはまったく知りませんでした。

小学校時代の恩師に令旨塔のことをお聞きしたところ、奉職された昭和28年にはもう撤去されていたということで、奉安殿とともに撤去されたのではないか、ということでした。その際、撤去された石がこうして築山の庭石として置かれたものと考えられます。それにしてもこうして残されていてよかったという思いでいっぱいです。かつての社小学校の記憶を伝えるものがほとんどないなかで、この令旨塔の石は貴重な遺産だと思えます。

紀元2600年記念の石碑が―社小学校の築山に

2009年05月23日

社小学校の校庭の築山に令旨塔の石が庭石として置かれていることは先日のブログで紹介したところですが、その石のすぐ側に何やら表面に字が刻まれているように見える石があったので、よく見てみると「紀元二千六百年記・・・」と読めるのです。高さは1メートルほどでしょうか、先端が丸くなった石で、地中にどれぐらい埋まっているのかは分かりませんが、元は記念の石碑だったものが庭石として置かれています（写真）。



紀元2600年は神武天皇の即位を建国の紀元として数えて昭和15年（1940）にあたるということで、国をあげて奉祝の式典や行事が開催されました。社小学校でもそうした行事が行われたのでしよう。

今は築山の庭木の側にひっそりと立つこの庭石が実は約70年前の紀元2600年の記憶を今に伝えてくれる記念の石だったので。

紀元2600年記念の石碑も青年団が―社小学校

2009年06月09日

5月23日付のこのブログで、加東市立社小学校の築山に置かれている庭石が紀元2600年記念の碑であったということを紹介しましたが、その記念碑を囲んで記念撮影をしている当時の青

年団と思われる写真を発見したので紹介します。

写真はわが家の古いアルバムの中にあっただのですが、この写真の真ん中に写っている石を見た時、先日社小学校の築山の中に立っ



たあの庭石にちがいないと思いました。写真の前列左から4人目、石碑のすぐ左にいるのが父、藤本豊治です。当時は青年団員として活動していたはずです。写真の背景には学校の校舎のような建物が写っているので、社小学校の校庭に建てられたものだと思います。

紀元2600年記念石碑—社小学校の築山

2009年06月19日

この歴史ブログで、加東市立社小学校の校庭の築山にある石の一つが戦前の紀元2600年記念に建立された石碑だったというを紹介しましたが（5月23日、6月9日付）、石の側面に刻まれた字から、やはり当時の青年団の建立だったことを確かめることができました。（紀元2600年は昭和15年・1940年）

側面に刻まれた字は彫りが浅くて判読しにくいのですが、「社町青年□建立」「昭和一□年□□・・・」とかろうじて読むことができます。さらに20数名の名前が刻まれていることがわかりました。そのうち、はっきり読めるものを紹介します。

□ □枝樹□

団長 藤本豊治

副団長 亀野正□
全 大□□□
理事 酒□□□
□□ 大□治郎□
全 岸野□□
全 ・
藤本栄次
山本健次
藤本正雄
藤本正司
稲岡□□

また、父の日記の昭和15年9月1日に記念碑に関する次のようなことが記されていました。

興亜記念日だ。そして二百十日だ。静穏だ。

支部長が二百十日をかまわず二千六百年記念塔建立□□石を取りに行った。

～中略～

石取りが四時頃帰った。皆□酒一升をもらってするめで飲む。

この日記を読むと、やはり青年団が紀元2600年の記念碑を建立したんだろうと考えられます。

令旨塔の建設といい、この記念碑の建立といい、今から70年余り前のことですが、当時の青年の熱いところが伝わってきます。その確かな証拠が今も社小学校の校庭の築山の中にひっそりとあ

る、というのが嬉しいですね。

現在社小学校の築山に庭石のように置かれている石の表面には「紀元二千六百年記・・・」とかろうじて読める程度の字が刻まれているのですが、写真の字は非常にはっきりと字が写っています。字を消すかのように削ったのではないかと思います。高さといい、形といい、写真の記念碑であることはまちがいないでしょう。

紀元2600年は神武天皇の即位を建国の紀元として数えて昭和15年（1940）にあたるということで、国をあげて奉祝の式典や行事が開催されました。石の側面には建立者等の名前が刻まれているようなのですが、彫りが浅くて判読しにくい状態です。時間があればまた朝のウォーキングで調べてみたいと思います。

それにしても令旨塔、紀元2600年記念の石が今も小学校の庭石として置かれていたこと、そして、それらが青年団員だった父親達、先人と大いに関係があったことに不思議な縁を感じます。

令旨塔の台座石にちがいないー社小学校の築山

2009年05月26日

昭和7年（1932）に社小学校校庭に建立された令旨塔（大正9年、皇太子殿下から青年に下賜された令旨を記念して建立）について、このブログで建設にまつわるエピソードを紹介してきました。

そして、その令旨塔を刻んだ石が社小学校の庭石として置かれていることも確認できました。これらの石には建立にあたった当時の青年団員の熱い思いが込められていることも父の日記から知りました。

そしてこの話はこれで終わることはなかったのです。その後

の朝のウォーキングの際、また社小
学校の築山にふと目に飛び込んできた
石があったのです。それは「なか
よしの像」のすぐそばに置かれた平
たい庭石で、よく見てみると、正面
の地面に埋まったところに表面を削
り取ったような部分が見えたのです。
近寄ってさらによく見ると、地中に
埋まっていて下部はわかりませんが、



長方形に表面が削られたようになっていて、銅板をはめてあった
あとのようになっています。直感的にこれは令旨塔の最上部の石
のすぐ下の台座の石で、正面に令旨を刻んだものに違いないと思
いました。

石の形の特徴をよく覚えておいて帰宅し写真で確かめてみまし
た。天地がさかさまになっていますが、まさに台座石に間違いあ
りません。父らが上福田の馬瀬や山口の山、そして川から取り出
して建設した「汗の結晶」である令旨塔のその情熱がこめられた
石に対面することができたことに感激してしまいました。

令旨塔建立まで一昭和初期の青年団員の記録

2009年05月31日

加東市立社小学校の校庭の築山に今は庭石として置かれている
「令旨塔」の石について、一枚のの写真を手がかりにしてその経
緯を探ってきましたが、この令旨塔建設に当時青年団員として熱
い思いで関わっていた父の日記から関連する記述を抜き出し、も
う一度建設までの過程を見たいと思います。

最初に出てくるのは昭和5年の11月22日、すなわち「青年記念日」(令旨下賜記念日)です。青年団の社支部で何か計画しようという支部長の提案があったようです。

そして、11月27日は第1回目の令旨塔を建設するための石取りのことが日記に書かれています。これについてはすでに5月20日のブログで紹介しました。今日はその後の動きを日記から紹介します。

●昭和5年

○11月29日

「第二回令旨塔石取り」

仕事が馬鹿につかえてゐるのにまた岩をとりに出かけねばならなかった。八時半頃から足袋もはかず草履をはいて山口と馬瀬の間の河に入った。河の水は馬鹿に冷えてゐる。じつとしてみられない程だ。一の石、二の石全部が失敗に終る。そして遂に昼食となつてしまつた。唯昼食をする時が一種の興味をもたれてゐるようにも思はれて来る。午後から社町有林に入って二、三の石をあげて滝野の山から又馬鹿に高い所から遊び半分に大岩を崩した。豪快か、痛快か、とかく興味はあつた。～後略～

○12月1日

「岩取り」

ゆつくりと眠れる筈に思つてゐたのが電鈴がはげしくなつてまた令旨塔の岩とりとなつた。仕方ない。～中略～馬瀬の山奥で昼食をたべた。風が強いのでそれ程に美味くなかつた。一日から山の上で飯をたべるなんて。車力の下敷になつたりした。午後六時

帰着。～後略～

○12月11日

「岩取り」

～前略～ 拾時過迄に山に出かけた。皆が岩をとりに出かけてみたので。拾時頃着。体は従前の通りになった。滝野山から崩した岩を二拾□名かかつて二十二三ヶをあげた。昼食の面白さは又格別なものだつた。日曜なので○○○君迄が来てみた。昼弁当を食べに来たのかも知れない。夕刻に帰った。途中で岩の中に大方右足をしかれてみたのが助かってよかった。～後略～

○12月28日

「石取り 鴨川に行く 支部長会」

～前略～ 青年の石取りだと言ふので弟に仕事をまかせて行く。呑気でいいんだもの。鴨川から小山まで行った。なんとなく鴨川がなつかしかった。～後略～

昭和5年の日記には附録に「家庭ノート」の頁があり、誕生日や先祖祭の日を書き込むようになっていますが、父は誕生日と「青年記念日」を書き込んでいます。

○青年記念日 十一月二十二日 摂政宮殿下令旨御下賜記念日

父等青年団員にとって、令旨が大切なものとして意識されていたことがよくわかります。

令旨塔建立まで—昭和初期の青年団員の記録②

2009年06月01日

昨日に続いて、昭和7年（1932）年に社小学校に建設され、戦後取り除かれた「令旨塔」の建設までの経緯を当時青年団員として熱い思いで関わった父の日記から記述を抜き出してみたいと思います。

●昭和6年

○三月十二日

令旨塔 題字返信有 ※見出し欄にこの記述があるのみで本文には記述無し

○三月二十一日

～前略～ 令旨塔建設に就て県の□□を言ふ人がやって来たので待ったが結局出会はず肥多孤田さんがよく伝えてくれた由。
～後略～

○四月二日

～前略～ 令旨塔の建設が急はしくなつて来た。明日も土取りが迫って来ると神主に面会の必要は生れて来る。～後略～

○四月三日

～前略～ 八時半二十三名揃ってから車をひいて山に行った。ポカポカと照る太陽、春光に輝く山の沈黙。おおこの大自然に俺はゆつくり浸って汗をかき腹を減らして働こう。令旨塔建設のその為にこの努力を捧げるんだ。

○四月二十一日

中畑に令旨塔の石を買ひに行く

～前略～ 午前拾壺時過ぎ小林が訪ねて来たので西脇から中畑へ石を買ひに行った。いい散歩だ。いい山行きだ。岩間の流れに添ふて足とりも愉快に思えてよかった。台石、碑石、二つで三十円。～後略～

○四月二十二日

小学校長を訪ねる。令旨塔敷地に関し。

～前略～ 令旨塔の建設は完全にその域に達してゐるのに敷地の問題で神社はオヂャンになったので小学校を岸野さんと訪ねた。感じのいい人だ。～後略～

○五月七日

令旨塔の石の整理

～前略～ 仕事すすむと令旨塔の石置場の位置変更の件だ。二十人余りでゴトゴトと車力をひいた。そして思ふ存分力の入る仕事だったのでうれしかった。池の札を立てたりして夕方七時頃終わった。

○七月八日

令旨塔建設に就て植木屋が訪ねて来たので予定を話してやつた。完全に進めば結構だがそれも工事の都合で確實とは言い切れない。

○七月九日

～前略～ 植木屋が七時過ぎに来てみたので学校に行ってから

いろいろと着□の手順を決したのだが可成り□□ひし来てくれる筈のに松原君一人位しか来てくれない。

地鎮祭、それ等に就いていろいろ準備をなして十一時式も少数ではあったが終わった。～後略～

○七月十八日

令旨塔の柱の作業 石取り

～前略～ 増田兄、菅井君の声援を得てコンクリートの作業だ。最も至難とされてみた工事であったが午後四時迄に軽く終る。夜は石をトラックで小学校迄運んだ。左腕に傷を負ったが、体の疲労も甚だしい。～後略～

以上、昭和6年前半の動きを拾ってみました。建設場所が最初は神社の予定がうまくいかずに小学校に変更になったこともわかりました。また、台石、碑石は30円で購入したものだということもわかりました。

令旨塔建立まで—昭和初期の青年団員の記録③

2009年06月02日

昨日に続いて、令旨塔建設への昭和6年（1931）後半の取り組みを日記から見てみます。写真は令旨塔です。

●昭和6年

○七月二十二日

～前略～ 令旨塔の建設は馬鹿に近頃になってから進行した。九分通り迄出来るのだが人出の少ない事が植木屋を数多く使った

と言ふ事になるので結局経費の負担が大なる訳だ。 ～後略～

○七月二十三日

朝から令旨塔の人夫変りである。松原、三木、山下位の順位で石を釣り上げる機械を借りて来たり種々仕事は出来上った。 ～中略～ 今日的全生活がこの令旨塔の建設で埋まってゐるんだ。それ意外何にも俺は感じない。明日比延庄の奥畑え軸石と台石を見に行く事を約して散会。

○七月二十四日

比延庄の中畑に石を見に行く

～前略～ 比延庄奥畑の山は大した岩だ。三、四ヶ所の山を歩いた。岸野さんは大した□り方だ。奥畑のかくりで軸を見て台と一任して帰る。

○七月二十六日

～前略～ 令旨塔の基礎的工作が今日で終るので職人がせわしくやって来る。雨が降れば上から何かをかむせてくれと言ったりするので堀本、松原君に依頼する。

○十一月四日

令旨塔第三期工事着手

○十一月六日

令旨塔の土台が雨降りが余り激しいので見に行つてやろうかとも思はれた。～後略～

○十一月七日

工事

朝から令旨塔の工事の監督に出かけてみた。これで会社の用は完全に葬られた訳だ。苦節一年有余を自分は苦心惨憺まるで自分のものを完成する様に努力して来たものだ。その完成物が今正に八分通り迄完成した事を思ふと心から喜びがこみあげて来る。

～後略～

○十一月八日

工事

会社の用は差程に大したものでなかったのて休んだ。そして工事場に出かけて行った。雇った秀さんはその仕事を少しもしないんだと言うと職人が云ってゐたのと聞いた。土方の練習か、それとも真似事だ。それが個人のものだったらとてもやってみない。

～中略～ 小野の王子に石を明日あげる機械をとりに山下、小枝、藤原と四人で出かけた。暗くなって竹内食堂で二日□を食べてトラックで□ひに来てもらって帰った。 ～後略～

○十一月九日

工事

今日も工事場だ。会社の仕事は三日も四日も遊ばしてゐるんだ。仕方がない。普通の勤め人と違ふので安心だ。昨夜苦心して借って来た機械は役にたたなかった。何故なら余りにむつかし過ぎたからだ。自動車組合の機械を借りた。易く台石は上がってしまった。一先づ安心だ。

○十一月十日

午後工事

～前略～ 令旨塔の建設は自分のものを建設してゐるように毎日独りでもいく出かけてゐる俺だ。 ～後略～

令旨塔建立まで—昭和初期の青年団員の記録④

2009年06月03日

今日も昨日に続いて、令旨塔建設に向けた当時の青年団の取り組みを昭和6年（1931）晩秋から翌昭和7年のはじめにかけての日記から拾って紹介します。令旨塔の建設もほぼ完了し、白川大将の揮毫や令旨文や奉仕者の銅板のことなども書き込まれています。写真は令旨塔です。

●昭和6年

○十一月十一日

朝から学校に出てみると呑気でいいかも知れない。むしろ今日の全部をこの職人と共に暮らすのかと思ふと一つの興味が生れて来る様名気がして仕方がなかった。毎日来てゐるのに今日に限ってそう思った。 ～中略～ 午後、三木君と出かけた。大半も終つてゐる。これで塔が出来てゐたなら除幕式を□□するのと思ふと急げてくる。

○十一月十二日

～前略～ 令旨塔の工事は今日でもって終る。之で第三期の工事も終る訳だ。金のない、奉仕の少ない支部が今日まで自分のものの様に奉仕した事を嬉しく思ふ。 ～後略～

○十一月二十日

～前略～ 令旨塔が完成近くなって来た。神戸から永楽堂の主人が夜になってからやつて来た。調度集会でみたのを幸ひに学校に行行って寸法をとって三階楼で協議して金三拾円程度で注文をしてそれは令旨文と奉仕者の名前だ。

○十一月二十九日

～前略～ 青年の砂利採取の日として嬉しい様な天候に恵まれてゐる。二十名余りも奉仕してくれた。白い石を拾って自慢した幼な頃、青い字の書ける石を見つけては嬉しんだ頃。真白い石をもって帰ったら母が死ぬと言ったが実際死んだ母。そして河の中で祭事をした死後の事。何故かこの千鳥川は思ひ出と懐しさの河原だ。学校に帰ってから砂利の洗出し等を終ってから記念撮影を作業中として撮った。後はせんべいで皆美しくくつろいで呉れた。

○十二月三日

～前略～ 令旨塔の道具を借りたまま捨てたので中村氏に謝る。之も青年の為だ。 ～後略～

●昭和7年

○一月一日

～前略～ 令旨塔の揮毫が今日届いた。白川義則大将の筆書だ。大万歳だった。

○一月八日

石屋が来ないので憤慨してみた俺の心をやわらげるべくか植木

屋が朝の市を振ってゐる時にやって来てゐたが出会はずに帰つたらしい。十日の午後からやって来るとのこと。そして十一日の朝から仕事にかかると言ってゐた。 ～後略～

○一月十三日

～前略～ 石屋が今日来ると言ったが来ないので余り馬鹿にしてゐるので電報を打ってやると二時過ぎに来た。そして学校に於て一寸した式をして厄払ひをやってから仕事にかかった。

令旨塔建立まで一昭和初期の青年団員の記録⑤

2009年06月04日

昭和7年（1932）2月28日、青年団員が情熱を傾けた令旨塔の建設が完了し除幕式の日を迎えました。父の日記には、その昂揚した精神からほとぼしる言葉が記されています。

●昭和7年

○一月十四日

～前略～ 石屋が寒いのに子供が見に来て仕方がないので小屋でも造って欲しいと言ふので堀本と二人で高瀬も加えて作ってやった。二人来てゐる。どうせ除幕式には盛大にやる自分だけに今日の一日が力になって来るのだ。

○一月十七日

～前略～ 学校に三度余り行った。うどんももって行ってやった。石屋は喜んでゐやがる。 ～後略～

○一月十九日

～前略～ 石屋えうどんと茶の子をもって行ってやった。自分も一緒に食べた。とてもうまい。この令旨塔の建設に就ての苦勞なり献身はとても俺がかつて体験しなかった程印象深い一つの存在になった事を嬉しく思はれる。生涯を通じて最も血の気の多いこの若い頃の仕事として馬鹿に飛んで出てゐると思える。

～後略～

○一月二十二日

～前略～ 令旨塔の裏の字が終って表字になった。書いた紙は保存と言ふ事になったがどうしても大橋さんに保存出来ないと依頼してそのまま書から写してしまった。共に三人で写した。完全に出来た。早く彫って終ってほしいが。 ～後略～

○一月二十四日

～前略～ 石工は精く働いてゐる。パンをもって行ってやった。二月十一日の落成式も充分に出来そうになさそうだ。 ～後略～

○一月二十八日

～前略～ 石屋が呑氣をしてゐるだろうと思って茶菓子と二十銭か三十銭を毎日持参してやるのだが彼等はどんなに思つてゐるか知らん。二月十一日の完成もあとあとあてられない様子だ。

～後略～

○二月一日

～前略～ 令旨塔が今日で出来上るので石屋は早く上げて呉れ

と言ったが果して節季前に出て来れるのであろうかと言ふ事が問題だ。集合は延期だ。そして明日石をあげる用意をするという事一決。 ～後略～

○二月二日

八時十分山下小枝堀本と三人でお宮の幟竿を三本と予備一本とを借って自動車屋から巻き上げる機械を取り出して学校に行くと石屋は岸野さんも今日位上げて欲しいとの事だったので岸野さんの宅に帰って地神さんの台石を三人で起して西脇の郷之瀬に植木屋を呼びに行く事にした。一自動車で西脇の年の市で見つけて植木屋の家から得意先を訪ねて帰る。午後一時。それからポツポツと仕事にかかった。十三日の敬老会から工を起して今日迄二十日。天幕はとられた。雨が降り出す。小枝、堀本、松原、菅井。俺自身が夜の十二時になっても上げてしまってくれと叫んだ。そして、辛苦もその働がない程の努力を続けた。体は濡れる。寒くなる。肥田文の弁当で舌鼓を打ち村上のうどんは又格別だった。過去三ヶ年間の真実かけて自分の事の様に努力したこの令旨塔が今眼の前に出来上ってゐる所を思ふ時写真に向うた殺即は涙ぐましかった。十二時終了。風呂を浴びて壽で慰労会。酔態も甚だし。寝込みを知らず。

○二月二十三日

植木屋が来てゐる。俺自身に於て力一杯に努力したあの令旨塔が今その完成を目前に見んとしてゐる。涙あり、屈辱あり、努力あり、唯あの偉然として光る令旨塔を眺めた時、そこに何かしら涙ぐましい一つの思ひ出が呼び起こされて来るのを覚えて来る。

午前中は会社の用が一杯だ。選挙が終ると平凡になりそうな生活気分がこの令旨塔を完成せしめると言ふ一念に於て何か期待を直接的な生氣のあるのを感じて仕事も出来そうに思はれる。～後略～

○二月二十六日

～前略～ 令旨塔の用意だ。三ヶ年の結晶を明後日その式を終え為に活版所にも走った。配布する印刷に就てだ。～中略～ 唯肩の荷が降ろされる様な一つの活気と熱とが心の中に一様に溢れて来るのを思はれて来る。あの自然石の輝かしい記念塔を眺めた俺の心と又旦て初めて味ふ一種の快味でなければならないんだ。

○二月二十七日

山下君が準備に行く前に起してやろうとの事だった。昨夜はまだとけない雪を踏み乍ら明日の除幕式の案内状を配ってやった。之で青年としての過去三ヶ年の最大の努力が完成されて社会的に現はれる社青年として異彩としてその第一頁が開かれる訳だ。

八時皆集って来た。炊事、そして川原に石を拾って来る者皆が完成への努力を続けるんだ。こうしてこの偉大ななる結晶が明日出来るのだ。炊事は中川君が商売柄十分やってくれる。令旨塔のかたづけは堀本さんや山下君がやって呉れる。

之で気になるのは銅板屋の方だった。二、三度電話をかけた。夕方迄とか、夜迄とか、馬鹿気た程待ったが出来なかった。

銭湯に行って帰った。そして寝ようと思った。何故なら歯が痛み出したからだだった。而し永楽堂が八時に神戸を出たとのこと。三木迄自動車で迎ひに行く。高瀬、山下、小枝、富田等。午後十

時に行って午前一時過ぎだった。三木で待つ間は食堂でうどんと酒四本を呑んだりした。

○二月二十八日

涙だ。熱の塔だ。血の結晶だ。汗の石魂だ。思ひ起すも昭和五年の十一月二十七日、寒風漸く強くして人襟を立てるのあの朗らかにして且つ元気一杯で石取の門出。それが幾度か続けられて来る事か。弁当を枯れて行く山の木々に比して嬉しきと希望と期待と完成への張り詰めた気分一杯で食べた事が幾回とも知れぬその過程。思ひ起す度に懐かしく、そして偉然と今日の日を輝かねばならない。そしてこんな大した完成が出来るとは誰が期した事だらう。思い起す度に奇蹟と感じ偉大と感ずるのが今日の嬉しき胸であり気分だ。朗らかに唄え。そして、この記念ある日を祝ひ俺等は若くして永久にこの地に残り忘れ得ぬ印象だらう。

午前五時半、折弁当の用意と会場の用意。次いで来賓の来るのを待つて午前十一時式挙行。午後一時宴会も終了。以上で倶楽部で心からの祝いぞ。而かも青年の手製で。午後五時過解散。午後七時過から肥田文店で慰労会。少なからず酔態の有様。一唯喜悅と嬉しさで一杯だ。

○二月を送る言 ※月末の総括の一部

～前略～ 三ヶ年の熱血を注いだ令旨塔は成った。吾等の母校の玄関に偉然として輝く塔は今後永久に俺等の熱血が見えなく共光る事だろうよ。斯くして春を受ける。朗らかに唄ひ、恋を感じ、唄ふ鳥の声に感激した頃の思ひ出が今現はれて来る。春よ。幸に来れ。

学校の歴史を物語るもの、写真、人、文書等

社小学校の沿革と八城学校の扁額

2006年11月08日

ここに昭和元年の「加東郡社町立社尋常高等小学校一覧」があります。現在の学校要覧にあたる小冊子です。冒頭に「沿革」が書いてあります。内容は、次の通りです。



明治5年10月社町字坊ノ前涌羅山一乗寺を仮校舎として、知新小学校という名前で上等下等の両小学科の教授が始められた。

明治8年11月から八城小学校と改称し、明治12年8月、社町下町に校舎を新築し移転した。同33年6月に社尋常小学校と改称、40年5月には高等小学科を併設し、41年尋常科の大部分が現在地に移転し、翌42年5月校舎完成とともに全部が移転完了した。

社小学校には裁縫学校が39年に設置され、42年3月には女子技芸学校とした。さらに45年4月に高等科3学年を設置、大正6年4月に実業補習学校を附設、同15年4月に女子技芸学校を農業補習学校女子部と改称した。

以上のように、社小学校は市街地を三度移転しています。一条院（現在の持寶院の大師殿の地）→下町（公会堂建設地※現在の明治館の地）→現在地と。児童数は尋常科6年まで合計が732人。

高等科3年まで192人。合計924人。教師数は22人でした。

写真は現在の社小学校の講堂・体育館の壁に掲げてある「八城学校」の木製の扁額です。

右から「八城学校」と書いてあります。この揮毫は、あの明治維新政府の太政大臣の三条実美公です。これぞ、貴重な学校遺産であり、歴史遺産といえるでしょう。

社小学校の講堂で成人式の記念撮影—昭和20年代末

2010年08月04日

今日紹介する写真は、昭和20年代末頃の成人式の記念写真です。

60年近く前の頃ですから、写真に写っている青年は現在70歳代後半



になっておられるはず。撮影場所は、「八城学校」の額が掲げられていることから、社小学校の講堂（旧校舎）だと思われます。私の記憶の中にもこの木造校舎の2階の講堂の白壁に掲げられていた「八城学校」の額があります。合併前の旧社町時代、赤松普現町長の姿が前列中央に見えます。

講和記念の国旗掲揚柱石柱

2008年04月30日

4月28日は昭和27年（1952）、サンフランシスコ講和条約が発効し、7年にわたる連合国の占領が終わって、日本が独立主権を回復した日です。

早朝、加東市立社小学校の校門前を歩いていて、一本の石柱が目に入ってきました。その石柱は国旗掲揚柱の基礎石柱で「講和記念」と深々と刻まれています。

今は校門をに入って左手、体育館南側の植え込みの中に立っていますが、元は運動場の東の一段高くなっていた国旗掲揚台に立っていたものだと思います。

私は28年の生まれですから、占領体験はありませんが、講和成立により、晴れて独立主権を回復し、堂々と日の丸の旗を掲揚できるようになったときの感激は大きかったんだろうなと思います。



八城学校新築落成式に参列した県令森岡昌純

2018年02月15日

今年(2018年)は明治維新150年、兵庫県政150年にあたります。初代県知事は伊藤博文。4代は陸奥宗光といった、後に明治時代を代表する政治家が知事を務めています。8代目は薩摩藩出身の森岡昌純で、明治9年9月9日に権令、同11年5月29日県令となり18年4月7日までの長い期間知事を務めています。



『加東郡誌』によれば、明治13年5月、八城学校(社小学校の前身)の校舎新築落成式に参列したとの記述があります。また、社小学校には、この時、森岡昌純が述べた祝辞が残されていたと

記憶しています。県政150年を記念する貴重な資料の一つでしょう。当時の校舎は現在の社市街地の明治館（元加東郡公会堂）のある場所でありました。

県公館には歴代知事の肖像が掲げられています。写真はその中の森岡昌純県令です。

八城神社の秋祭りー社小学校

2008年01月26日

戦前、社小学校の運動場の北の一角に八城神社がありました。昭和11年（1936）の1月1日に落成式が行われたとの記録が『百周年誌』にあります。

さて、ここに社小学校長名で発せられた八城神社の秋季大祭の案内文があります。10月8日、大祭当日の次第は次の通りです。

- 一、午前八時 国旗掲揚 遙拝 その他
- 一、午前九時 団体訓練
- 一、午前十時 少年団芸術発表
- 一、午後一時 相撲大会
- 一、午後七時 神□□祀□□
- 一、午後八時 映画会

朝の国旗掲揚に始まり、訓練、発表、相撲、そして夜の映画会と一日中の行事が行われています。『百周年誌』に寄せられた卒業生の思い出を記した文の中にも八城神社の例祭（8月8日）のことが書かれています。運動場に舞台を設け、出し物や夜にはやはり映画会が開かれていたようです。

戦後生まれの私が通っていた頃（昭和30年代後半）は、運動場の北側に一段高く区切られた一角があり、大きな松が生え、大きな庭石もあり、私たちは「松林」と呼んでいました。当時、八城神社があったことや戦勝祈願が行われていたなんてまったく知りませんでした。

明治26年発行尋常小学校習字帖 八城尋常学校の児童が使用

2024年03月06日

地元の方からいただいた古い教科書の中に、明治時代の尋常小学校で実際に使用された習字帖（習字の教科書）がありました。

短冊のような形で『尋常小學 國民習字帖 第四』とあり、表紙裏には、「明治廿七年三月一日 文部省検定済教科用書」と印刷されていました。



この習字帖の裏表紙には、「八城尋常小学校生徒 第二学年 肥田眞次」と学校名、学年、氏名が筆で書かれていました。

開いてみると、まず「人名」が出てきました。又七、仁平、久吉、班録、正夫、乙丸、才一、力三、利八、音二、和介、民作・・・と続きます。時代を感じさせる名ばかりです。人名の次は、苗字。易しい字の苗字から始まって、最後は蜂須賀、錦小路といった武家や公家のような苗字がありました。

明治20年代末といえば、1890年代。今から130年ほど前のことです。この習字帖で肥田眞次さんは習字を習ったんですねえ。それにしても、令和の時代には見ない名前ばかりでした。

社小学校奉安殿の前で記念写真

2010年07月31日

この写真は、社小学校（現加東市立社小学校）の奉安殿前での記念写真です。

昭和10年代前半のものと思われます。町内の友人の家にあったものですが、写真に写っている



先生の顔を一人ひとり見ていると、私が小学校高学年の時（昭和30年代後半）の校長先生の姿がありました。私の記憶の中にある先生のイメージに比べて、とても若くりしいお顔でした。

奉安殿は昭和10年（1935）に落成しています。校門を入ると正面に奉安殿があり、最敬礼していたと聞いています。敗戦後、取り壊され、現在は築山になっています。

昭和15年一町青年団の体育訓練大会

2015年12月04日

昭和15年（1940）8月25日は日曜日でした。父の日記には、青年団の運動会のことが記されています。

写真は昭和10年代の社町青年団の記念撮影です。小学校の奉安殿の前で撮したものです。（日記より）

◇町青第二十五回体育訓練大会日。

雨が降ってみた。一やろう。決行すべきであると信じたので断行した。午後には快晴に近い天候になって午後四時無事終了した。出



水支部第一位、鳥居支部第二位、山国第三位。

お菓子袋で慰労の茶話会を初めた。

最後の分裂閥団は最近にない支部長以下の緊張振りだった。

昭和26年3月—社小学校の築山の前で記念写真

2017年06月27日

この写真は、昭和26年（1951）の3月12日と記されています。もちろん私が生まれる前の従姉妹が小学生の時の写真です。



立派な木造校舎だったことは今でもよく憶えています。写真の左の奥の方に本館から西校舎への渡り廊下、そして「西の便所」が写っています。ここが怖かったんです。北の裏側が竹藪で、何か薄暗いイメージとともに、幽霊が出るという話をよく聞かされました。当時はいわゆるぼつとん便所です。便器にまたがると赤い紙やろか・・・などと声がし、手が伸びてきて、つめたい感触でおしりをさわるとか聞かされていて、小便をしても後ろが気になって仕方がなかった。怖か

ったですね。

写真後方の本館の2階は確か、図書室ではなかったでしょうか。たくさん蔵書が並んでおり、4年生になったら借りて家に持ち帰ることができたと思います。それが嬉しくて、『太平洋一人ぼっち』（堀江青年のヨット太平洋単独横断）や『エベレスト登頂記』などのノンフィクションを胸躍らせながら読んだことを憶えています。写真を見ると、そんな小学生時代の懐かしい記憶が妙に鮮明によみがえってきます。

奉安殿の玉垣の石？

2011年09月03日

加東市立社小学校の本館前の築山には学校の歴史を物語る石が庭石として配置されています。そのことについては、この歴史ブログで紹介してきましたが、今日はその築山の石に使われている石柱（写真）を紹介します。



こうした石柱は記念碑などの周囲に石の玉垣として使われているのを見かけますが、社小学校という場所柄から、また、この位置から奉安殿の周囲に玉垣として使われていた石柱ではないかと想像してしまいます。奉安殿は昭和10年に建てられています。当時の写真をみると、周囲に石の玉垣がありますが、写真の石柱かどうかは分かりません。

この築山には校門付近にあった令旨塔や紀元2600年記念の

石碑などが庭石として配置されています。写真の石柱が奉安殿のものだったとしたらこの築山は社小学校の歴史を語る築山の値打ちをさらに高めますね。

昭和2年、社小学校講堂落成

2016年12月21日

昭和2年（1927）2月、社町長から各区長に対し、社小学校の校舎増改築工事の竣工に関する通知が出されています。

『百年史』によると、完成した新校舎は講堂のようです。私が通った昭和30年代には、2階が講堂になっていて、1階は確か3年生の教室でした。「当時は東北播にその例を見ないモダンな建物」（同百年史）と思い出欄に書かれています。写真はありし日の社小学校講堂（南校舎）です。



案内文は次の通りです。

昭和二年二月九日

社 町 長

各区長 殿

兼て御配慮相煩し居り候社小学校増改築工事愈々竣工明十日落

成式挙行致候就ては此の機を祝し児童学藝品展覧会をも開催致し
候十日十一日の両日間を休業とし観覧致す様貴部内一般へ御通知
方御取計相願度此□得貴意候

昭和5年―社尋常小学校一年生の写真

2010年05月10日

今日紹介する写真は、昭和5年（1930）の社尋常小学校入学の一年生の写真です。

黒板には「昭和五年度 入学 尋一竹組 男22、女26、」と書いてあります。

子ども達の服装を見ると、男



子は着物が多く、女の子は白い前掛けをしているのが目立ちます。

教室の掲示は黒板上のよく見える場所に、カタカナの五〇音、1から10までの数字の一覧、そして、きまりが貼ってあります。「一、(ガク□□)ヲヤスムナ」「二、ケンクワヲスルナ」「三、キレイナコトバヲツカへ」「四、ゲンキヨクアソベ」と書いてあります。

今から80年前の小学校の教室のようすが伝わってくる貴重な写真です。

鴨川小学校の二宮金次郎像と記念碑

2009年07月05日

先週、オープンスクールで加東市立鴨川小学校（加東市平木）を訪れたとき、校門に入って右側の斜面に立つ二宮金次郎像を写真に撮りました。

鴨川小学校は山の中にあるので薪を背負って本を読む金次郎像がよく似合っています。その斜面を上って像の上から本を覗くと、字が刻んでありました。以前、このブログで東条西小学校の金次郎像は低い庭石を台座として立っているのだから本が見えると紹介しましたが、鴨川小の金次郎も斜面の上から見ることができました。金次郎像の台座石には昭和32年建立、姫路・・・と刻んでありました。



同じ斜面にもう一本、石柱が立っています。高さ、太さから掲揚柱を支える石柱ではないかと思い近寄ってみると字が彫ってあるので読んでみました。「青少年団結成」と刻んでありました。土の下にまだ字があるのかもしれませんが。もう一面には「昭和十六年」と刻まれています。昭和16年の12月には大東亜戦争が始まりました。昭和10年代には、奉安殿が造られたり、二宮金次郎像が建てられたり、少年団が結成されたりして、軍事色が濃くなっていく時代でしたから、そうした記念の碑の一つだったのではないのでしょうか。

この斜面の上には鴨川村の忠魂碑もあります(このブログで紹介)。山里の小さな学校、鴨川小学校の校庭には、村の歴史を伝える貴重な碑があり、元気に遊ぶ子どもたちを見守っているようでした。

リアルな二宮金次郎像―滝野南小学校

2021年03月16日

13日(土)の午後、滝野東小学校の二宮金次郎像を見てから、

滝野南小学校へ向かいました。気にかかっていた金次郎像を見るためです。南小学校へは、運動会やオープンスクールなどの機会に訪れることがあるのですが、金次郎像を見たことがなく、校長先生に聞いてみると、プールのある子供達に通っている門のそばにある、とのことでした。いつも車で正門から入っているので目に入らなかったわけです。

学校で遊んでいた小学生にウサギ小屋の向こうだと教えられ、歩いて行くとありました。ちょうど大人の目の高さより少し高い台座の上でやはり柴を背負って本を読んでいる金次郎の姿がありました。その像はものすごくリアルで、本には「大学」の書名（文字）があったり、背中の柴の一本一本や履いている草鞋が本物のようにつくられていました。

台座正面には「少年時代の二宮尊徳先生像」と書かれた金属プレートがはめ込んであります。そして、裏側には寄贈者の陰山禎次郎氏の名と昭和三十一年八月の日が書かれたプレートがありました。金次郎像の後ろに一本の石柱があります。「講話記念」と刻まれており、国旗掲揚柱の基礎の柱に使われていたものだと思います。滝野南小の歴史、教育の歩みを今に伝えています。

二宮金次郎像は大正時代に初めて小学校に建てられ、昭和初期からの時期と、戦後の昭和30年代に建てられたと聞いています。



「勤勉」「努力」「一生懸命」の象徴として、学校や企業などでも二宮金次郎の生き方に学ぼうという精神が広まったのです。今も元気で登下校する子供達を見守っているようでした。

古い校門の脇に立つ二宮金次郎像－滝野東小学校

2021年03月15日

13日（土）の午後、滝野東小学校（加東市新町）に行ってみました。平成17年度に教師生活最後の一年を過ごした学校です。運動場では、地元の野球クラブが練習をしていました。南側の古い校門の脇に植え込みがあり、その中に二宮金次郎像があります。台座の正面には、「至誠」の二文字が刻まれています。そして、裏側には「皇紀二千六百年」と刻まれていました。高い台座の上に柴を背負って歩きながら本を読む二宮金次郎の石像があります。足の部分はコンクリートで補強されているようでした。周囲の植え込みはきれいに剪定されていました。桜の古木の枝が像の上まで伸びてきており、入学式の頃には満開の桜が子供達を迎えることでしょう。

「皇紀二千六百年」は昭和15年（1940）にあたります。初代天皇の神武天皇のご即位を紀元とする日本の暦年です。令和3年の今年は皇紀2681年ということになります。皇紀2600年を祝う記念碑が建立され、今も各所に残っています。東小の前身、戦前の加茂国民学校時代の昭和16年に金次郎像の除幕式が行われた、と記念誌にあります。



今は、運動場の一番南から運動場で元気に遊ぶ子供達、校舎の教室の窓から聞こえてくる子供達の勉強する声を静かに聞いているのでしょ

おひさしぶりです金次郎先生 福田小学校で

2022年09月18日

17日(土)、運動会が行われた加東市立福田小学校に行きました。駐車場から運動場へ向かう途中、二宮金次郎像の前を通りましたが、思わず「お久しぶりです」とつぶやいてしまいました。

コロナ感染のここ3年間、授業参観や運動会、入卒業式などで学校を訪れる機会がなかったので、金次郎像を見ることもありませんでした。



この歴史ブログでは、11年前に紹介していますが、久しぶりですので令和時代の金次郎さんを紹介します。台座には「二宮尊徳先生幼児之像」と銘板に書かれています。

柴刈りに山へ行った時も歩きながら本を読み勉学に励んだ二宮金次郎の勤勉の姿は今の小学生にどう受け止められているのでしょうか。市内の小学校に今も在る二宮金次郎像、明日は鴨川小、米田小の金次郎さんと出会えることを楽しみにしています。

東条西小学校の二宮金次郎像

2009年06月26日

25日、加東市立東条西小学校のオープンスクール(ファミリー

一参観)が行われました。親子歯磨き教室やAEDを使った救命講習なども行われ、子どもたちも暑さに負けず元気に学習する姿が見られました。

ところで、校門のすぐ脇の庭の植え込みの中に二宮金次郎像があることに気づきました。何か違う感じを受けたのは、写真のように庭石の上にそっと立っていたからでしょう。ふつう、金治郎さんは台石の上に立っており、下から見上げるような位置関係だと思うのですが、この金治郎さんはうしろからそっとのぞき込めるような高さなのです。

校長先生が、「ちゃんとこの本には字が書いてある」と教えて下さったのでのぞいてみると、確かに。金次郎は確かに薪をかついで歩きながら本を読み勉学に励んでいたのです。

この像の由緒はわかりません。しかし、何とも言えない身近な感じを受ける二宮金次郎さんでした。



緑陰の金次郎像—三草小学校

2012年05月22日

新緑の三草小学校（加東市上三草）で出会った講和記念塔を紹介しましたが、やはり隣の二宮金次郎像を紹介しなければと思い、この歴史ブログでは2回目になりますが、新緑の金次郎像を掲載します。



正面には「二宮尊徳先生幼時之像」の銅板がはめ込まれ、像の裏には紀元二千六百年記念と刻まれていました。昭和15年(1940)ですから、その年にはこの地に三草小学校はありません。現在のやしろ国際学習塾に三草小学校があった時代に建立されたものでしょう。建立から70年余り、新緑の三草小学校にその姿を保っています。

こども園の二宮金次郎像

2023年09月16日

先日、加東市上滝野にある社会福祉法人天理滝野愛児園のこども園を訪ねました。五峰山の麓に新しく建てられた園舎の玄関に、二宮金次郎の像がありました。あれっ、以前はなかったはずと思い、保育士さんにお尋ねすると、初代の園舎にはあったのですが、その後は建てられず、この新園舎に設置されたとのことでした。



市内の小学校にはそれぞれ二宮金次郎像が今もあり、このブログでも何度も紹介してきました。しかし、保育園、こども園の金次郎像は見たことがありませんでした。

土台のプレートには、「昭和18年建立 旧天理滝野愛児園」と刻まれていました。詳しいことはまたの機会にお尋ねしようと思いつつ、珍しい金次郎像に思わず見とれてしまいました。

三草小学校の講和条約記念塔

2012年05月20日

加東市立三草小学校（上三草）で、19日（土）伝統行事の「ふれあい茶摘み」が行われました。児童と保護者、老人会、区長会、民生委員、地域の皆さんらが総出で学校の茶畑で茶を摘む伝統の行事です。

挨拶に立った三草小校区の代表区長さんは半世紀余り前のことを話されました。当時、三草中学校の生徒だった方々が茶畑に肥料（糞尿）をやった話などを楽しそうに話しておられました。



さて、三草小の校庭の植え込みに立っている「二宮尊徳翁の幼少時代の像」すなわち、金次郎の像のすぐそばに、高さ1メートル余りの一本の円柱塔が立っています。最上部は丸く球面になっており、門柱にしては低く、また1本しかないので何だろうと思って、ひらどつつじの枝に隠れた本体側面を手で除けて見てみると、「講和記念塔」と刻まれていました。建立年は昭和二十六年。翌年4月28日に講和条約は発効するわけですが、一足先に祝ったものでしょう。ぐるりと側面を調べてみると、掲揚柱だったことを示すボルトの穴がありました。そしてもう一つ発見がありました。セメントで埋めてありますが、「大正」の文字がくっきりと読み取れました。その下の文字は読み取れませんでした。しかし、講和記念で国旗掲揚柱を建立する。社小学校の講和記念柱もそうでした。主権を回復し、日の丸を高々と掲げることができる喜びが伝わってくるようでした。

郷土の歴史と人物に包まれて—東条西小学校

2017年10月26日

オープンスクールや行事などで学校を訪れる機会がよくあります。子供たちの学習や活動のようすを見るのが目的ですが、学校の中には、その学校の歴史の厚みを感じさせるものがあり、その出会いも楽しみの一つです。



24日に訪れた加東市立東条西小学校の校長室には「本能に返れ」と書かれた大きな額がかかっていました。西田校長から東条ゆかりの書家である上田桑鳩の書だと教えていただきました。校長室にはもう一つ「澄」と一字が書かれた額もかけられていましたが、この字は校長先生から教えてもらわないと読めない字でした。

西小の校庭には大きな創立百周年記念の石碑が建てられており、校歌が刻まれています。作詞は郷土、東条出身の詩人坂本遼、作曲は元東条町長の井沢文太郎でした。郷土の詩人と音楽家によって作られた校歌。歌詞の中に「たんぽぽ」が入っていました。坂本遼の代表である詩集「たんぽぽ」を思い出しました。

西小にはこのブログでもよく紹介してきた二宮金次郎像があります。築山に台座なしに直接立っている金治郎像は珍しく、子供が後ろから金治郎の読んでいる本をのぞくことができます。

その西小の子供達はタブレットを手にしてデジタル教科書で勉強していました。

こども博受賞記念プレート—中東条尋常高等小

2012年02月05日

加東市立東条西小学校の
オープンスクールを参観し
て帰ろうとしたとき、校門
脇の二宮金次郎像が目に入
りました。この像は、高い
台座に乗っておらず、像を
上から見る事ができる珍
しい金次郎像としてブログ



で紹介しましたが、そのすぐ側にもう一つ石碑が建っているのに気がつきました。近寄ってよく見ると、石碑には銅板のプレートが埋め込まれており、小さな文字が刻まれています。何か大切な記念のプレートで古そうなものだったのでカメラに撮りました。銅板プレートには下の文字と絵、メダルが刻まれていました。

コドモ博 手工銀賞 中東條校

コドモ博 童謡銀賞 中東條校

入賞記念

歓びのことば

こどもを「大人の不完全なもの」と思つてみたのはあやまりで、こどもには大人のおよばない天分をもつてゐることが見出された。こどもを大人の「従属物」のやうに思つて来たのもあやまりで、

こどもは大人以上に尊重しなければならない事が認められた。
皇孫殿下の御降誕を記念するために、大阪毎日東京日日両新聞の
主催で、こども博が開かれたことは、皇室の御繁栄をことほぎま
つると共に、大に児童尊重といふことを一般に認めさせる上に意
味があつた事と思ふ。

殊に其の創作館はこどもの天真にして純情な心の泉からわきいで
た作品を集め、新教育の立場から厳正な審査を施して初等教育上
多大の資料を提供せられたものである。

我が中東條校は幸に出品校として先帝せられ、しかも審査の結果
は、手工、童謡何れも県下第一位として銀賞に入選の光栄を得た。
実に本校創始以来の盛事である。大に祝すべきである。

茲に聖上の御誕辰を卜して、この記念帳を調べ、関係者に頒布し
て永久にこのよろこびを記念すると共に、将来一層発憤大成の動
機たらしめんとするものである。

大正十五年八月三十一日

加東郡中東條小学校長 藤原 □

中東條尋常高等小学校

東条西小学校の開墾園の歴史

2016年02月08日

7日に行われた加東市連合PTA主催のPTCA活動実践発表
会で、加東市立東条西小学校学PTAの発表がありました。私も
社小学校のPTA会長をした年に発表が当たった経験がありま
すが、その内容は年間を通した活動紹介が主でした。しかし、東条
西小学校の発表は、同校の「開墾園」の歴史とPTA、地域の関

わりの一点に絞った内容で非常に興味深いものでした。

同校は、明治26年（1893）に中東条尋常小学校として創立された123年の歴史を持つ学校です。その学校の北にある山を切り拓



いて果樹園が拓かれたのは昭和8年（1933）のことでした。開魂園は、遊・学・労・念の一大道場として山林を開墾して開設されたのでした。その当時の貴重な写真がプロジェクターで次々と紹介されました。

山が開墾され、果樹が植えられ、そこには下肥を撒く中学生の姿もありました。戦後、中学校が統合され、小学生だけになってから整備や維持が困難になり一時期には活用されずに荒れたこともありましたが、元開墾園で育った世代がPTA役員となった昭和60年代はじめに復活され、学校林として再整備されたのです。昭和62年には全国植樹祭で表彰されるなど高く評価されました。



今では児童が自然の中で植物などの観察や研究をしているようすも紹介されました。大きなタケノコを掘って嬉しそうな1年生の笑顔が印象的でした。都会の学校の子供にはアニメの世界の理想の学校のように見えるだろうななどと思いながら聴かせてもらいました。発表に当たった役員さんの特別の思い入れが伝わってきました。

東条西小で見つけた小沢城の立体模型

2014年10月18日

17日（金）、加東市立東条西小学校で行われたオープンスクールで校内を移動しているとき、英語活動のための教室の隅に見慣れないものがあるのに気づき、



中に入ってよく見てみると、それは立体模型でした。さらに近寄ってみると、山城の復元模型、大日堂の位置が示されていることから小沢城の立体復元模型だとわかりました。

小沢城は加東市の旧東条町の栄枝から小沢にかけての山に築かれていた山城で、城址には碑が建立されており、12世紀の後半に築かれたとあるそうです。県道厚利社線を走り、台地から栄枝に下って川を渡ると左手に大きく張り出している山が城山です。私は山に入ったことはありませんが、昔はこの山に城、砦が築かれ、幟でも立っていたのかなとよく想像してしまいます。しかし、具体的な城のイメージがなかったのですが、今回その立体模型を見てよくわかりました。

校長先生にお聞きすると、地元の郷土史研究グループの方が作成されたようで、この模型を使って郷土史を子供たちに教えて下さっているということでした。これぞ地域の歴史、宝です。

大正末の米田小学校の写真

2014年10月31日

10月16日（木）、加東市立米田小学校でオープンスクール

が行われました。校長室や学校の廊下などには学校の歴史を伝える古い写真などが掲げられていることが多いのですが、米田小学校にも古い校舎の写真がありました。



キャプションには「大正15年の校舎」とあります。今から88年前のものということになります。木造平屋建てで、よく見ると、校舎の屋根は白く光り、校門には日の丸が掲げられており、天幕や万国旗のようなものも写っています。式典の記念写真のようで、ひよっとしたら新築記念かもしれない、と思ったりしました。

当時の家並みや風景が写っており、そうした中で、この米田小学校の校舎は一段と光っていたことでしょう。

補：校長室の瓦

令和6年4月9日、米田小学校の入学式が行われました。少し早く着いたので、校長室で校長先生といろいろ話をすることができました。ふと見ると、棚に大きな瓦が飾ってありました。旧木造校舎の瓦だということでした。瓦の中央には、米田小学校の校章が雲の中に刻まれていました。



東条東小学校でも旧校舎の瓦が大切に展示してありましたが、こうして、学校の長い歴史の記憶を遺し、伝えていくことの大切

さを改めて思いました。

鴨川小学校の風景

2022年12月11日

10日(土)の朝、加東市立鴨川小学校のオープンスクールに行ってきました。全校20名の小さな学校ですが、授業では元気な子供達の姿がありました。鴨川小は播州清水寺の麓にあり、鴨川地区(上鴨川、下鴨川、平木)の子供達に通っています。

これまでもこのブログで、同小の紹介をしてきました。運動会での御嶽太鼓の演奏、校庭の桜の古木、二宮金次郎像、忠魂碑等々。

なんと言っても素晴らしいのが自然環境です。教室の窓からの景色は、いつまでも眺めていたくなります。決して広くはない運動場。クスノキの大木が枝を広げています。運動場を取り巻く桜の古木。山の傾斜。

校舎は正面玄関から入り、階段を上ると広い集会場になっています。この広間を取り巻くように調理室や音楽室などがあります。オープンスクールでは、懇談会が予定され、椅子が車座に並べられていました。保護者や地区住民の集まりも行われます。



2階には教室が並び、その一つは鴨川小の歴史の展示室になっていました。尋常高等小学校時代の古い校旗が掲げられていました。6年生の教室の後ろには、6年生作の「なにもないのがいい」という題の詩が掲げられていました。自分達の住む鴨川地区の自然や人への深い愛情が伝わってくる詩でした。

今日はマラソン大会でしたが、それは時間の都合で見られませんでした。家族や地域の人の声援をうけて元気に走ったことでしょう。

茶畑と木陰のブランコのある三草小学校

2017年05月21日

20日（土）、加東市立三草小学校で恒例の茶摘みが行われました。校舎の南側斜面に茶畑があり、児童、保護者、地域の皆さんが茶摘みを行う行事です。毎年この行事に参加していますが、やわらかいお茶の葉の先（一芯三葉）を摘む作業は結構楽しいものです。

茶畑がある学校、そして、桜の古木にはロープでブランコがぶら下げられています。

地域の高齢者の皆さんは中学生の頃（元是三草中学校）の懐かしい思い出話をして下さいます。その頃の中学生がお祖父さんにな



って、孫を抱きながら茶摘み、そして、ブランコで遊ばせておられる姿に心が和みます。

三木翠山、森月城の絵がある三草小学校

2015年09月20日

9日（土）、加東市立三草小学校の運動会が行われ、開会式に出席しました。少し早目に学校に着くと、小林校長先生が見せたいものがあるのでと、校長室に招かれました。部屋には大き



な絵が飾られており、三木翠山の絵ですと紹介されました。以前は体育館にあったものを校長室に移したということでした。そして、玄関正面の壁面には森月城の絵が掲げられていました。三木翠山、森月城という日本画家の大作があるのが三草小学校です。

三木翠山の絵（上）は毛利元就の三本の矢の教えの場面ではないか、と校長先生は話しておられました。森月城の絵（下）は富士山を描いたものです。

この歴史ブログでも5年前に体育館に掛かっている2枚の絵を写真と一緒に紹介しましたが、体育館の2階の高いところにあるのでよく見えませんでした。しかし、今回は間近かに作品を鑑賞することができるようになりました。

2人とも三草小学校の校区にゆかりのある画家です。校区の上福田村木梨（現、加東市木梨）の出身で、大正から昭和にかけて活躍した有名な日本画家です。

今年7月に姫路市立美術館で三木翠山展が開かれましたが、そのときにブログで三木翠山について少し詳しく紹介しましたが、あらためて森月城とともに掲載し紹介します。



三木翠山は明治16年（1883）、兵庫県加東郡社村の田町（たまち）生まれで、現在の加東市社の田町通りが生まれ故郷です。翠山は幼少の時から絵を描くことが好きで、加東郡上福田村の内、木梨村の三木南石に絵の手ほどきを受け、紺屋だった三木家の養子になっています。明治33年に京都に出て、竹内栖鳳に入門し本格的に絵の修行をしたと伝えられています。大正2年（1913）には、第7回文展に初入選（「朝顔」）し、それ以後、文展、帝展などの常連作家となり、竹内栖鳳の助言で美人画の創作に取り組み、次々と名品を発表、翠山の美人画は人気を博し、京都画壇に確固たる地位を築きました。

展覧会では、「祇園会」や「維新の花」などの美人画、東海道五十三次の風景画、ニューヨークの摩天楼など、間近に翠山の絵を鑑賞することができ、惹き付けられてしまいました。その門下の森月城の「富士図」なども展示されていました。

森月城は、やはり加東郡上福田村木梨出身です。小学校卒業まで木梨で過ごし、幼い頃から母方の祖父であった三木南石に習っています。14歳で京都に出て、19歳の時に翠山の手引きで竹内栖鳳に入門しています。22歳で文展に入選、その後も入選を

重ね、やがて竹内栖鳳門下の四天王と称されるまでに活躍しています。大正13年の兵庫県美術協会の設立では中心的存在となっています。

小林校長先生は、子供達が雄大な富士山の絵を見て大きく育って欲しいとの願いを述べられていました。移転前の三草小学校（現やしろ国際学習塾）時代からあったものだと話しておられましたが、このような郷土出身の偉大な日本画家の作品がある小学校は珍しいのではないのでしょうか。

社国民学校の封筒

2015年07月31日

写真は、社国民学校の封筒です。タテ20.5cm、ヨコ8.3cmの大きさ。下部に、「兵庫県加東郡 社国民学校 電話社四番」と印刷してあります。

この封筒は昭和18年（1943）当時の社地区の文書綴に挟んであったものです。今年（2015）は終戦70年の節目の年ですが、この封筒はその前の戦時中に使用されていたものということになります。

昭和16年（1941）に社小学校は社国民学校と改称されました。初等科が6年、高等科が3年となっていました。当時の校訓は「信（正しく）・勤（剛く）・和（仲よく）」だったそうです。国民学校は昭和21年度まで続き、22年度から新しい6・3制に変わりました。初等科の6年が小学校に、そして、高等科の3年が中学校に改められたのでした。



三草国民学校の写真

2012年06月20日

台風に備えて片付けをしているところへ、友人が本と写真を持ってやってきました。家の中を整理していて出てきたもので、要るならどうぞということでした。



写真は三草国民学校時代の記念写真で、友人の母上が若い教師だった頃のもの。すぐに見つけることができました。校舎玄関正面のようで、「兵庫縣加東郡三草國民學校」の文字がはっきりと写っています。ゲートルを巻いた先生、もんぺをはいた女子生徒の服装などから時代がうかがえます。足元を見ると、靴、下駄、わらじなどさまざまです。

三草国民学校は今の加東市上三草のやしる国際学習塾の地にあったもので、元は三草藩の陣屋が置かれていたところです。昭和20年前後のものと思われませんが、写真に心当たりのある方がおられればご連絡を下さい。

懐かしの三草小一橋の上で

2012年07月30日

ぜひ残しておきたい写真というものがありますが、今日紹介するこの写真もその一枚といえるでしょう。

社町立三草小学校（現加東市立三草小）の校舎を背に、三草川に架かる橋の上で記念写真を撮ったもの。いつ頃でしょうか。昭

和40年代ではないかと思えます。

この写真には、今はない同小の木造校舎が写っています。また、児童が座っている橋もありません。現在は、やしろ国際学習塾の建物が、そして、コ



ンクリート橋が架かっています。今もあるといえば、そのものかどうか分かりませんが、松並木の松でしょうか。藤原静子先生（加東市社）の学級の様です。憶えのある方のご連絡を。

昭和34年一空から見た加茂小学校の全景

2014年11月13日

写真は、加東市立滝野東小学校に掲げてある、前身の滝野町立加茂小学校の空中写真です。

運動場には「カモ小」の人文字がくっきりと見えます。この写真が撮影されたのは、



昭和34年（1959）。写真には運動場の西側にプールが見えます。このプールはこの年に竣工したのです。

加茂小学校は、明治26年に加茂尋常小学校として誕生しました。それまで滝野尋常小学校に通学していた新町、北野、穂積、多井田の4地区と、三草尋常小学校に通学していた曾我、稲尾の

2地区を分離して、北野の東光寺に仮校舎を設けて加茂尋常小学校が生まれたわけです。そして、明治28年に新町の現在地に新築移転しています。その後、加茂尋常高等小学校、加茂国民学校、そして、昭和22年に加茂小学校となり、昭和29年に滝野町と加茂村が合併して滝野町となり、昭和41年に滝野東小学校と改称しました。この写真が撮影されたのは昭和34年ですから加茂小学校時代のものです。

『新町歳時記』より一昭和20年代の小学校生活

2018年02月25日

『新町歳時記一昭和25年（1950）の思い出』から、終戦から占領下の小学校生活のようすを紹介します。

97頁に当時のエピソードとして、木炭バスのごことが語られています。筆者で



ある大久保利政さんのお母さんがこの木炭バスに乗って社の町へ買い物に行く途中、社の赤岸の上り坂でエンジンが止まり、当時社市街地の北辺、善龍院の向かいにあった神姫バスの社営業所まで乗客がバスを降りて押していったということが書いてありました。

大久保さんが加茂小学校（現滝野東小学校）の3年生だった昭和25年当時の学校生活のようすが詳しく描かれています。

4月6日の入学式、始業式から始まり、遠足、めいらん取り、農繁休業日、地区水泳（加古川の新町渡し場辺り）、納涼音楽会、

終業式と通信簿、夏休みや登校日、運動会、農繁休業日、冬休み、3学期終業式、卒業式の順に一年間の学校生活の節目となる行事などが記されています。

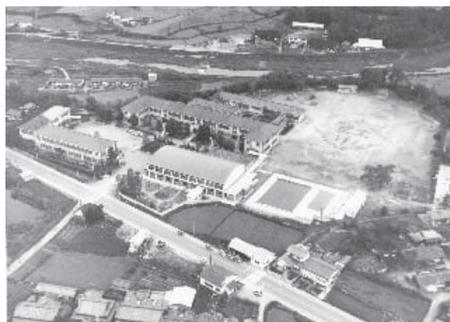
私が社小学校3年だった昭和37年とあまり変わらないのではと思いましたが、「めいらん取り」（稲についた虫の卵取り）の経験はありません。学校行事の他に、肉弾などの遊びや加西の奥山寺、三草の昭和池への遠足、京都・奈良・大阪への修学旅行のことも記されており、「貧しかったが、みんな仲良し」だった当時の小学校生活がいきいきと描かれていました。

写真は昭和23年に入学した大久保さんらの記念写真です（102頁掲載）。

昭和43年—社小学校空中写真

2012年07月29日

この写真は昭和43年（1968）の社小学校空中写真です。運動場に社小の校章と1968の人文字が見えます。ちょうど私が社中学校3年だった年で、プールが完成し一度はプールで泳がせてやろうということで中学校から泳ぎに来た記憶があります。



写真上部には千鳥川。そこには小学生時代に泳いだ井堰が写っています。地区で並んで歩いて行き、井堰の上から上級生に突き落とされて泳ぎを習得しました。運動場の写真上部には懐かしい

「松林」が写っています。大きな庭石も見えます。戦中は八城神社があったことは大人になってから知りました。運動場の下の部分には柳の木も見えます。夏休みのセミ採りが懐かしくよみがえってきます。今はもうない木造校舎。西の便所も写っていました。「青い紙やろか、赤い紙やろか」の怖い学校の便所でした。

学校周辺の風景もずいぶん変わりました。当時あった池の一部や田圃は住宅地になっています。44年の歳月が過ぎたのです。

社中学校跡地の石碑

2007年06月18日

県立社高等学校の生徒通用門から学園道路をはさんで向かい側に兵庫教育大学附属幼稚園や店舗があります。その歩道沿いに一本の石碑が立っています。石碑には「社中学校跡地」と刻まれています。



ここは、社町立社中学校があった場所でした。社中学校は戦後、新制中学校として創設され、昭和24年に校舎が建てられました。その後も次々と校舎が建て増しされ、昭和37年には体育館兼講堂が完成しました。石碑が立っている場所は、この体育館があった場所ではないかと思います。

昭和53年、社、福田、三草の3中学校は閉校、そして統合社中学校が開校しました。今の社中学校です。旧社中学校の跡地には、兵庫教育大学附属小学校、幼稚園、附属給食センター、そし

て官舎の一部などが建てられました。附属幼稚園、給食センター、そして附属小学校の運動場には、旧社中学校時代の校庭の樹木がそのまま残っています。

時代が進み、やがて世代が代わると、記憶も消えていくのでしょうか。しかし、この石碑がこの地で中学時代を過ごした幾多の卒業生の思い出を甦らせてくれるはずです。

米田中学校跡地の碑

2016年09月21日

先日行われた加東市立米田小学校での地区運動会に出席した折り、校門を入ったところの築山の中に一本の石碑が立っているのが目に入りました。

近寄ってみると、「社町立米田中学校跡」と刻まれていました。背面には米田中学校の歴史が次のように刻まれていました。



「昭和二十九年三月地元米田村民の協力により着工同年十月吉日米田村立米田中学校として開校翌年町村合併により社町立米田中学校と改名昭和四十六年三月社中学校と統合閉校す」

この石碑は閉校した昭和46年3月に建立されたものです。来賓テントで同席した安田市長、安田市議会議長の二人は米田小学校、米田中学校の出身。当時の校舎の位置やグラウンド、植物園

などのことを懐かしそうに語ってくれました。

社中学校との統合は私が社中学校を卒業したあとのことでした。新制中学校として生まれた米田中学校は、米田村立、社町立、そして統合で閉校という歴史を歩みました。

この歴史ブログでは、「社中学校跡」の石碑を紹介したことがありました。多くの卒業生の思い出の地であったことを今も伝える貴重な碑です。

145年、128年の歴史を閉じるー東条地域の2小学校

2021年03月29日

27日（土）の加東市立東条中学校に続き、28日（日）には東条東と東条西の2小学校の閉校記念式典が行われました。それぞれ、145年と128年の長い歴史を誇る学校で、閉校式では、実行委員会が制作した映像で振り返ることができました。



東条東小学校の校長室に「悠久の豊（いらか）」の銘の鬼瓦が飾られていました。この鬼瓦は、明治20年に開学した東条尋常小学校の校舎の屋根瓦で、昭和26年に東条東小学校の新校舎ができる際に地元の方が保管していたもので、その後学校に寄贈されたという奇しき由来が書かれていました。

東条西小学校の玄関の柵には、小さな釣鐘が飾られています。歴史を振り返る映像では、昔はこの鐘を撞いて朝の始業を伝えていたと、そのようすが写真で紹介されたものでした。（今のチ

ヤイム) と添え書きがしてあるのを見て、今の子供達には想像が難しいのだろうと思いました。

それぞれの学校に歴史があります。その歴史は卒業生や地域の人々の思い出の中にぎざまれているでしょう。そして、こうした遺物はその役目を果たしています。4月には新しく東条学園小中学校としての歩みが始まります。



◆議員活動ブログ「百聞百見」より 東条の東小、西小でも閉校式 —東条学園小中学校につなぐ

2021年03月29日

28日(日)、朝から雨の一日だった。昨日の東条中学校に続き、東条地域の2つの小学校でも閉校式が行われた。

午前、東条東小学校の体育館で記念式典が行われた。歴代校長やPTA会長、校区の区長さんらが出席し、5、6年生は体育館で、その他の児童は教室で中継放送を視聴。元東条町長で、副市長も務めた小池さんが閉校事業の



実行委員会を代表して挨拶を行った。式に続いて、映像で学校の歴史や活動を振り返り、記念演奏会も行われた。145年の長い歴史を誇る学校であり、東条学園の新校舎が完成するまで西小学



校の児童もこの学校で一緒に勉強することになっている。

午後は、東条西小学校。式典は石田実行委員長の挨拶、西田校長の式辞、安田市長の挨拶と東小と同じように続いたが、ここで、式に参加した全校児童49名による西小伝統の全校群読が披露された。「山ねこ おことわり」(絵本 あまんきみこ)を全校児童が工夫

した群読を行った。式後、128年の歴史を約10分にまとめた映像を視聴した。明治26年の校舎の写真や学校の北にある開墾園での活動など珍しい写真もあった。

補：昔の小学校の運動会、学芸会、音楽会、他教育資料等

社尋常高等小学校の校歌—大和心を義士に学ぶ

2009年07月14日

以前、この歴史ブログで昭和12年(1937)に開かれた学芸会のプログラムを紹介しましたが、午前9時から午後3時まで、1日がかりの大きな行事だったわけですが、このプログラム裏表紙に印刷された「校歌」を紹介したいと思います。

歌詞には、佐保(神社)、千鳥川、御霊(山)、赤岸・義士といったふるさと社のシンボルともいべき神社・名跡や山、川の名前が入っています。また、大和心を義士に学ぶ、聖勅かしこみ・・・といった精神性も歌われています。

一

佐保の神垣 あふぎつつ
立つや我等の 社校
千鳥川のべ 影うけて
御霊の森に 黙示きく

二

あさひかがやく 日の本の
忠と孝との 小国民
大和心を 赤岸の
義士に学ぶや 朝夕に

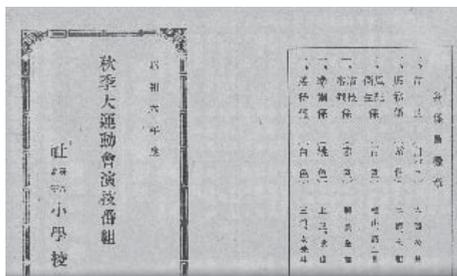
三

聖勅かしこみ 大御代に
強く正しく 今日生きて
よき国民と いざならむ
いざやはげまむ わらべわれ

昭和6年一社小学校秋の運動会①

2008年05月08日

昭和6年（1931）
は満州事変が起こった年。
今から77年前の社小
学校の運動会のプロ
グラムを紹介しまし
ょう。



(表紙)

昭和六年度

秋季大運動会演技番組

社尋常高等小学校

(内容)

拝啓時下秋冷の候愈々御清適賀し奉ります扱来る本月九日(雨天の時十二日)午前八時半から本校々庭に於て秋季大運動会開催致しますから御来観下さいませ様御案内申上ます

昭和六年十月

社尋常高等小学校

殿

運動会演技順序

| 順次 | 演技種目 | 学年 |
|----|----------|-------|
| 一 | 集合、開会ノ辞 | |
| 二 | 国旗掲揚、国歌 | |
| 三 | 合同体操 | 全校生 |
| 四 | 百メートル競走 | 尋三男 |
| 五 | 二百メートル競走 | 尋六男 |
| 六 | スポンレース | 尋三女 |
| 七 | 綱引 | 尋三、四男 |
| 八 | 炮烙ワリ | 尋二女 |
| 九 | 二百メートル競走 | 尋五男 |
| 一〇 | ミックス | 尋二男 |
| 一一 | 合同体操 | 尋五以上女 |
| 一二 | リレーレース | 高一男 |

| | | |
|----|--------|--------|
| 一三 | ザル引 | 尋一女 |
| 一四 | 綱引 | 補. 男子部 |
| 一五 | 縄跳び競走 | 尋四女 |
| 一六 | リレーレース | 高二男 |
| 一七 | 愉快ナリズム | 尋五、六女 |
| 一八 | 盲競走 | 尋四男 |
| 一九 | 兎ト亀 | 尋一男 |
| 二〇 | リレーレース | 高三男 |
| 二一 | | 幼稚園 |
| 二二 | 綱引 | 尋五、六男 |
| 二三 | 秋の山 | 尋三、四女 |

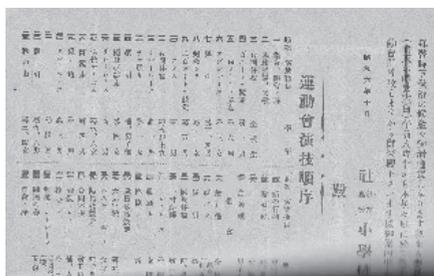
つづく

昭和6年一社小学校秋の運動会②

2008年05月09日

昨日に続いて、昭和6年度の社尋常高等小学校「秋季大運動会演技番組」を紹介します。

番組は全部で46（開閉会の辞を含めて）もありますが、今日は24番からあとの番組です。



| | | |
|----|------|-------|
| 順次 | 演技種目 | 学年 |
| 二四 | 蟻の行列 | 尋一、二女 |

| | | |
|----|----------|----------|
| 二五 | 輪ぬけ | 補、男子部 |
| 二六 | | 幼稚園 |
| 二七 | 白兵戦 | 男子全部 |
| | 昼食 | |
| 二八 | 総行進 | 全校生 |
| 二九 | 紅バラ | 高女、補、女子部 |
| 三〇 | 綱引 | 高男 |
| 三一 | 国民体操 | 補、男子部 |
| 三二 | 一寸法師 | 尋一男女 |
| 三三 | リレーレース | 尋四男 |
| 三四 | 社踊り | 全校生 |
| 三五 | 棒倒し | 高男 |
| 三六 | 職員来賓競走 | |
| 三七 | 大海戦 | 尋五、六男 |
| 三八 | バスケットボール | 女子部 |
| 三九 | 障害物競走 | 補、男子部 |
| 四〇 | 合同体操 | 尋五以上男 |
| 四一 | 変装リレー | 補、女子部 |
| 四二 | 棒奪ヒ | 尋三男 |
| 四三 | 対抗リレーレース | 高男、補男、職員 |
| 四四 | 御国の誉 | 五以上女 |
| 四五 | 閉会ノ辞 | |

以上です。今の運動会に比べて種目の多さに驚きます。また、

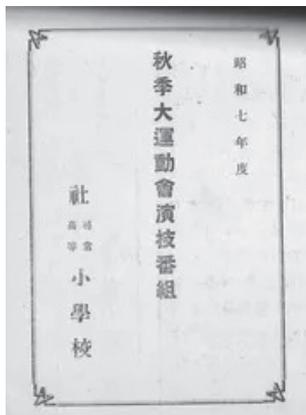
綱引や競走、リレーといった種目は今もありますが、白兵戦や大海戦はどんな演技内容だったんでしょうね。

昭和7年の社小学校運動会

2006年09月11日

全国的に運動会シーズンですが、私達の小さい頃、運動会といえば10月だったような気がします。最近は小、中学校とも、9月に開催していますね。まだ暑いし、やはり爽やかな空気の10月がいいかなとも思います。

さて、ここに昭和7年（1932）の社尋常高等小学校秋季大運動会のプログラムがあります。74年前の運動会。どんな演技があったのでしょうか。



午前の部29、午後の部23種目、開閉式を含めて52の種目があることに驚きます。では、それらを書きあげてみましょう。

運動会演技順序

| 順次 | 演技種目 | 学年 |
|----|-----------|-----|
| 一 | 集合 開会の辞 | |
| 二 | 国旗掲揚、国歌合唱 | |
| 三 | 合同体操 | 全学年 |
| 四 | リレー | 四 男 |
| 五 | 乾坤一擲 | 三 女 |
| 六 | リレー | 高三男 |

| | | |
|-----|---------|----------|
| 七 | 綱引 | 三、四男 |
| 八 | お手玉競走 | 高 女 |
| 九 | 弾丸多勇士 | 尋 二 |
| 十 | 蟻の争ひ | 五、六男 |
| 十一 | 百米競走 | 三 男 |
| 十二 | 寶奪ひ | 高 男 |
| 十三 | 波濤を越へて | 五 女 |
| 十四 | 二百米競走 | 六 男 |
| 十五 | ポテトーレース | 六 女 |
| 十六 | リレー | 高二男 |
| 十七 | 対級リレー | 補 男 |
| 十八 | 鈴割 | 四 男 |
| 十九 | リレー | 高一男 |
| 二十 | 合同体操 | 三、四、五、六男 |
| 二十一 | はすのお舟 | |
| | 雀のお話 | |
| | ポッポの鳩さん | 幼稚園 |
| | 浦島太郎 | |
| | からす | |
| 二十二 | 二人三脚 | 五 男 |
| 二十三 | 障害物競走 | 補 男 |
| 二十四 | 農夫の喜 | 三、四女 |
| 二十五 | 乙女の標語 | 補 女 |
| 二十六 | ラヂオ体操 | 三以上女 |
| 二十七 | ダルマの道中 | 尋 一 |
| 二十八 | スプーンレース | 四 女 |

二十九 白兵戦

中 食

| | | |
|-----|-----------|-------------|
| 一 | 総行進 | 全校生 |
| 二 | 廟行鎮 | 高 男 |
| 三 | 国民体操 | 補 男 |
| 四 | 凱旋行進曲 | 四五六高女 |
| 五 | 対級リレー | 三以上各級選手 |
| 六 | 敏捷 | 六 男 |
| 七 | 桃太郎、源頼光 | 尋 一 |
| 八 | 合同体操 | 五以上男 |
| 九 | 黄金の毬 | 女子全部 |
| 十 | 突撃三勇士 | 三 男 |
| 十一 | 柳下遁走 | 五 男 |
| 十二 | 綱引 | 高 男 |
| 十三 | 案山子・蟻の行列 | 尋 二 |
| 十四 | スクラップダンス | 五、六高女 |
| 十五 | 職員来賓競走 | 有 志 |
| 十六 | 変装競走 | 補 男 |
| 十七 | 太公望 | 四 男 |
| 十八 | 歌かるた・四季 | 女子青年 |
| 十九 | 四部対抗リレー | 高男、青年、補男、職員 |
| 二十 | シルバードダンス | 五、六高女 |
| 二十一 | 社おどり | 全校生 |
| 二十二 | 国旗降納、国ノ鎮メ | |

二十三 閉会之辞 万歳三唱

以上です。種目の多さもさることながら、突撃、白兵戦、弾丸、凱旋云々と軍事、戦争に関わる演技名が時代を表しています。

日本独特の「運動会」は老若男女を問わず、こころのふるさとのような懐かしさがあります。今年もがんばって参加しましょう。

昭和12年の「学芸会」—社尋常高等小学校

2006年10月18日

昭和12年（1937）3月12日、社尋常高等小学校の講堂で学芸会が開かれました。「学芸会」という名は今ではもう聞かなくなりましたね。○○学習発表会、○○フェスティバル、文化祭などの名に変わっているようです。

ここに約70年前の社小学校の学芸会のプログラムがあります。午前9時から午後3時半までの一日がかりです。きっと講堂は参観の人であふれたんでしょうね。出し物も時代性を感じさせるものばかりです。

第一部（午前之部）

- | | | | |
|----|------|------|-------|
| 1 | 開会の辞 | | |
| 2 | 唱歌 | 広瀬中佐 | 高三男 |
| 3 | 劇 | 海の幸 | 尋四竹 |
| 4 | 唱歌 | 荒城の月 | 高二男 藤 |
| 本馨 | | | |
| 5 | 劇 | 浦島太郎 | 尋二梅 |

| | | | |
|----|------|-------------|------|
| 6 | 唱歌 | 雪の月夜 | 高二女 |
| 7 | 劇 | 頓智村 | 尋六男 |
| 8 | 唱歌 | 月待草・目のない鳩さん | 青女 |
| 9 | 劇 | お爺さんの智恵 | 尋五女 |
| 10 | // | 桃太郎 | 尋一松 |
| 11 | // | 浦島太郎 | 尋二竹 |
| 12 | // | 花咲爺 | 尋一竹 |
| 13 | 連続舞踊 | 軍国日本 | 尋四五女 |
| 14 | 劇 | 月見子兔 | 尋二松 |

第二部（午後之部）

| | | | |
|----|------|---------------------------------------------|-----|
| 1 | 挨拶 | | 校長 |
| 2 | 唱歌 | 早春賦 | 高一女 |
| 3 | 劇 | 兎の餅つき | 尋二松 |
| 4 | // | 弟桃次 | 尋三竹 |
| 5 | // | 北風日記 | 尋四梅 |
| 6 | // | こぶとり | 尋一梅 |
| 7 | // | 冬より春へ | 尋三梅 |
| 8 | // | チューチュー小風 | 尋四松 |
| 9 | // | 安宅の関 | 尋五男 |
| 10 | 連続舞踊 | 狐の学校 シャックリ殿様 南京町のひる 熊のお散歩 狸の酒買ひ | |

おかめひよつとこ

- 1 1 劇 水師營の冬 高一男
1 2 閉会の辞

昭和25年の学芸会記念撮影—社小学校

2019年06月15日

友人が持ってきてくれた写真の中に、社町立社小学校（現加東市立社小学校）の講堂で写した記念写真がありました。裏に「昭和25年度学芸会」「1年生劇 月兎」と書かれていま



した。友人の母上は3組の担任で、後列右から2人目に写っていました。私が生まれる3年前、まだ占領下の時代です。

今はもうありませんが、校門を入れて左手にあった古い木造の校舎の2階が講堂になっており、学芸会やお話を聞く会などがあったことを憶えています。1階は3年生の教室でした。舞台上の幕に佐保神社の三階菱をあしらった社小学校の校章が写っています。

運動会の思い出—木造校舎と全校ダンス・・・

2006年10月06日

この写真は、昭和30年代後半の社小学校の運動会のものです。まだ、木造校舎があった時代で、正面に見えるのは、本館の東側（運動場側）です。一階は普通教室、二階は作法室（和室）になって

いたと思います。左の建物は理科室です。別棟になっており、立派なつくりの理科教室でした。その間にはプラタナス（スズカケ）の木が植わっており、夏には涼しい緑陰をつくってくれていましたし、



アブラゼミがとまって鳴いていたことを憶えています。その堅い実（実だったと思うのですが）をインコリンと呼んでいました。

さて、写真はもちろん運動会の一場面です。これは学校ダンスという名だったか、記憶が定かではありませんが、日の丸と校章の旗を両手に持ち、「あーれは僕らの学校の、しるしぞあおき校章ぞ・・・」と歌いながら踊りました。当時の運動会の練習では、整列行進（マスゲーム）やこのダンスの練習時間がとても多かったように思います。それだけに、横一列を乱さずに行進したり、駆け足したりする感覚が身につきました。

40年余りの歳月が過ぎ、木造校舎も校庭の柳も、そして松林もなくなりました。運動場も南北に長かったのですが、今は東西に長い形になりました。演技種目も様変わりし、鼓笛隊の行進や学校ダンスはなくなりました。変わらないのは、徒競走やリレー、組み立て体操、綱引き、玉入れ等々でしょうか。

そこで提案なのですが、運動会の種目の中に毎年一つか二つ、懐かしい思い出の種目を復活させて、そこに高齢者に出てもらったり、あるいは一緒に演技したりする場面を設けてはどうでしょうか。世代交流にもなるし、歴史をふりかえる機会にもなるとおもいますが。

運動会シーズン—懐かしの柳も 昭和30年代末

2008年09月18日



秋の運動会シーズンを迎えています。私たちが小学生だった頃は運動会は10月におこなわれていたと思いますが、近年は中学校が9月の第2週、小学校が3週目あたりになっ

ています。

この写真は昭和38、39年頃の社小学校の運動会です。ちょうど東京オリンピックが開催されたころです。鼓笛隊の演技が行われていますが、後ろに写っている各のテントや右後方に写っている柳の大木が懐かしく思い出されます。

男子は白の体操服、女子はブルーマー。鼓笛の練習、旗を持つての全校体操、行進練習に明け暮れた練習の日々がよみがえってきます。

運動場の向こうに高台が見えますが、今はその辺りに市立武道場、社保育園が建っています。

昭和7年の音楽会

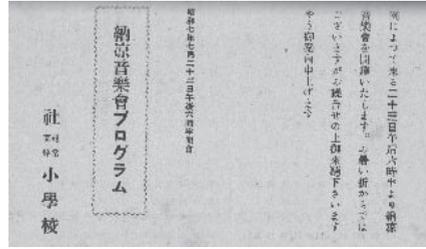
社尋常高等小学校の納涼音楽会プログラム

2006年11月21日

ここに納涼音楽会のプログラムがあります。今から70年余り前、社尋常高等小学校で開催されたものです。案内には「例によって来る二十三日午後六時半より納涼音楽会を開催いたしま

す。お暑い折からではございますがお繰り合わせの上御来聴下さいませやう御案内申し上げます」と書かれています。

プログラムの内容を紹介します。



第一 部

- | | | | |
|-----|------|-----------|-----------|
| 一、 | 開会ノ辞 | | |
| 二、 | 斉唱 | 健康の歌 | 尋三松組 |
| 三、 | 唱歌遊戯 | 蝉 | 尋二梅組 |
| 四、 | 唱歌遊戯 | カラスがカアカア | |
| | | サルカニ合戦 | 尋一竹組 |
| 五、 | 斉唱 | 村の鍛冶屋 | 尋四松組 |
| 六、 | 唱歌遊戯 | コンコン小山 | 尋二竹組 |
| 七、 | 斉唱 | 希望 | 尋五、六男女組ノ男 |
| 八、 | 唱歌遊戯 | 日の丸、カクレンボ | 尋一梅組 |
| 九、 | 斉唱 | 故郷四季の雨 | 尋六女組 |
| 一〇、 | 唱歌遊戯 | エジプト懐古 | 尋三竹組 |
| 一一、 | 独唱 | お山の大将 | 尋四竹組 |
| 一二、 | 唱歌遊戯 | オモチャのマーチ | |
| | | キューピーサン | 尋一松組 |
| 一三、 | 斉唱 | 伝書鳩 | 尋五男組 |

◇ 休憩

第 二 部

| | | |
|-----------|----------|-----------|
| 一、 挨拶 | | 校長 |
| 二、 斉唱 | 織田信長 | |
| | 蚩 | 尋六男組 |
| 三、 劇 | 蝉と蟻 | 尋四梅組 |
| 四、 唱歌遊戯 | お月夜 外一曲 | 尋二松組 |
| 五、 斉唱 | 箱根八里 | 高一男組 |
| 六、 斉唱 | 朧月夜 | |
| 合唱 | 山居の美 | 尋五、六男女組ノ女 |
| 七、 斉唱 | 背くらべ | |
| 唱歌遊戯 | チューリップ兵隊 | 尋三梅組 |
| 八、 斉唱 | 朝風 | |
| 独唱 | 玩具の船 | 尋五女組 |
| 九、 二部合唱 | 里の小川 | 高一、二女組 |
| 一〇、 ハーモニカ | 荒城の月 | 高二男 |
| 独奏 | 平忠度 外数曲 | 川崎 外数名 |
| 一一、 合唱 | 全校職員 | |
| 一二、 閉会ノ辞 | | |

プログラムに出てくる歌はほとんど知らないものばかりですが、「荒城の月」や「箱根八里」、「村の鍛冶屋」は私でも知っています。今でも学校の音楽会では先生の合唱がありますが、昭和7年、どんな歌が歌われたのでしょうか。

三草小の講堂で合唱—昭和30年代？

2012年07月31日

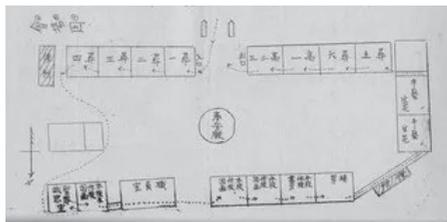
この写真は、今はもうない三草小学校（現加東市立三草小）の木造校舎の講堂で合唱している児童のようすです。おそらく昭和30年代ではないかと思います。男の子は丸刈り、学生服姿が目立ちます。木造校舎の講堂は威厳を感じさせますね。私は社小学校でしたが、講堂は白壁で装飾があり特別な感じを受けていたことを憶えています。この舞台で歌を歌ったり劇を披露したりしたのでしょう。



昭和10年—社小学校で展覧会

2013年01月16日

昭和10年（1935）、社尋常高等小学校で展覧会が開催され、案内状が当時の社区事務所の往復文書綴に綴られています。



案内状には会場図が付けられており、当時の社小学校の配置がよく分かります。校門を入った正面には奉安殿があります。

※案内状

昭和十年二月廿二日

尋常

社 小学校長 大西俊一
高等

宮野太吉 殿

拝啓余寒尚去り難き候に御座候処益々御多祥の段賀し奉り候
偕て此度本校に於て左記要項により展覧会を開催仕るべく候條何
卒斯道奨励のため御来観なし下され度く此段御案内申上候也

記

- 一、会場 本校南より第一第二校舎（左図参照）
一、期日 二月廿五日 午前九時より午後四時迄
二月廿六日 午前九時より将吾まで 両日
一、展覧品 本校（小学校）補修学校（男女）成績品
県下優秀校図画書方成績品
聖恩誠忠に関する資料 以上

昭和13年一社小学校竣工式の案内

2013年03月21日

昭和13年（1938）の
3月、今から75年前のこと
ですが、社小学校の校舎改築
（本館）が竣工し、その式典



の案内が社町長から区長宛てに出されています。当日は高射砲聯
隊の展示実演も計画されています。

※案内状

昭和十三年三月八日

町 長 大 橋 實 次

区 長 殿

学校竣工式ノ件

本月十日午前十字半社小学校ニ於テ竣工式挙行可致候条区内町民
(戸主、戸主事故アルトキハ代人) 全員引率ノ上御参列相成度候
尚当日ハ午前九時高射砲聯隊ヨリ高射砲照空灯等携行展開、射
撃ヲ見学セシメラルルニ付午前九時迄ニ小学校庭ニ集合方願上候

昭和13年—社小学校校舎竣工で観劇会

2013年03月23日

昨日のブログで、昭和13年(1938)3月に社小学校(現加東市立社小学校)の本館校舎落成に関する文書を紹介しましたが、もう一通、落成記念の観劇会の券配布に関する通知が当時の社区事務所の文書綴に綴じられていました。

この本館では昭和30年代後半に私も勉強しました。今でもよく憶えています。立派な木造校舎で重厚な造りでした。

昭和十三年三月八日

社 町 役 場

各 区 長 殿

観劇券配布ノ件

兼テ改築中ナリシ当町小学校改築工事今般竣工仕候ニ付之ガ落成

ノ祝意ヲ表スル為メ三月十日午後六時ヨリ町民一般ノ観劇会相催
度毎戸一枚当観劇券送付仕候条配布方可然御配慮相煩度候

追テ 会場ノ都合モ有之候ニ付該観劇券ハ流用ヲ許サズ且ツ満
員ノ場合ハ勝手ナガラ入場御断リ致スヤモ難計為念申添候

記

一、四六三枚

昭和39年に社小学校で研究発表会 —懐かしい木造校舎時代の教室配置図

2022年10月23日

古い資料を整理していると、昭和39年（1964）の社町立社小学校の研究発表会の冊子が出てきました。この年に東京オリンピックが開催されました。なぜこんな冊子が私の小さい頃のものを入れた箱の中にあるのか不思議に思いましたが、私が小学校5年生の時、58年前のものでした。全頁ガリ版刷りでした。当時の先生の字はきれいでしたね。



私も教員時代にこうした研究発表会を何度も経験しましたが、朝から一日、授業公開、研究発表が行われ、県教委の指導主事や他の学校の教員が授業を参観するとあって、教員にとっては緊張

の一日でした。

その中に、会場案内図があり、当時の社小学校の配置が分かり、懐かしい思い出が蘇ってきました。

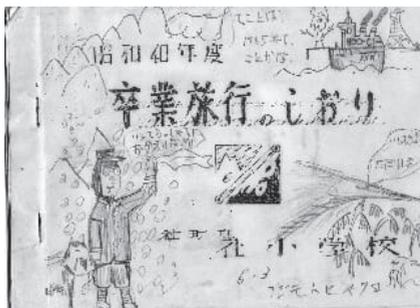
木造校舎の本館、西校舎、講堂、一年生校舎、理科教室棟、渡り廊下、便所、調理室、小使室等々、記憶の中に蘇ってきます。

授業計画を見ると、私は5年2組、担任は宮田賢三先生でしたので、公開授業は理科の「火のもやし方」でした。授業風景は残念ながら思い出せません。

昭和40年一社小学校の修学旅行

2012年06月04日

昭和40年（1965）、私は社小学校の6年生でした。今から47年も前のことです。秋の10月7、8日の1泊2日で京都、奈良方面に修学旅行に行きました。日付を記憶しているはずがありません。



部屋の整理をしていると、「卒業旅行のしおり」が出てきたのです。

旅行日程は次のようになっています。

第一日（10月7日）

5：30 校庭集合

6：00 出発

18：00 奈良金波旅館着

第二日（10月8日）

8：00 金波旅館発
10：40 奈良発
20：00 社帰着

地図に描かれた行程を見ると、次のようになっています。

社 → 天神 → 道場 → 宝塚（トイレ） → 伊丹（8：30） → 茨木（9：30） →（名神高速道路） 大津（10：30） → 比叡山 → 京都 → 宇治 → 奈良（6：00着）

奈良（8：00発） → 法隆寺（11：20） → 大阪城（1：10） → 大阪（4：30） → 関西汽船 神戸（6：00） → 舞子 → 明石 → 三木 → 小野 → 社（20：00）

京都での見学地は次の通りです。

比叡山 → 平安神宮 → 御所 → 二条城 → 金閣寺 → 東本願寺 → 三十三間堂 → 清水寺

奈良での見学コースは次の通りです。

金波旅館（猿沢池） → 鹿苑 → 春日神社 → 若草山 → 二月堂・三月堂 → 大鐘 → 大仏殿 → 五重の塔 →（正倉院 → 法隆寺）※奈良市内の地図しか書かれていない

大正時代の通信簿「経歴簿」―社尋常高等小学校

2020年04月15日

整理していた書類箱の中に「兵庫県女子青年團手牒」と一緒に父と母の小学校時代の「経歴簿」が出てきました。今の「通信簿」です。父は明治43年生まれで大正6年4月2日社尋常小学校に、母は大正8年生まれで大正15年4月1日に社尋常小学校に入学しています。



大正6年は西暦1917年、今から103年前のことです。大正15年は94年前、その年末には昭和へと御代が替わります。約100年前の「通信簿」が、しかも父母のものが揃って保管されていたとは知りませんでした。

黒い表紙に「経歴簿」と児童氏名欄があり、「藤本豊治」と朱書されています。表紙をめくると、裏に入学年月日、氏名、生年月日、保護者氏名・住所、校長、担任教員氏名欄がありました。次の頁には「教育勅語」、次の頁には「戊申詔書」が掲載されています。そして、「経歴簿」の取り扱いについての注意書きが4項目にわたって書かれていました。

次に本命の「学業成績表」。学年、学期毎に修身、国語、算術、日本歴史、地理、理科、図画、唱歌、体操、裁縫、手工、農業、商業、通約、操行、の各教科欄、認定欄があり、10段階評価で成績が記入されていました。操行欄は甲、上などの評価、認定欄は合格、卒業などが記入されています。

母の成績欄では第2学年すなわち大正7年度の1学期までは

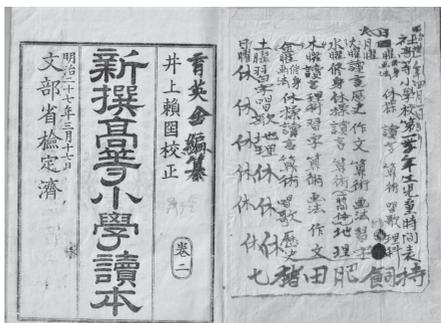
10段階で記入されていますが、2学期からは甲、乙の評価に変わっていました。

さて、評価は父母とも故人でプライバシーを尊重して公開しませんが、二人とも成績はすこぶる優秀でした。

明治31年の社高等小学校第1学年生徒の時間割

2022年05月15日

明治27年発行の「新撰高等小學讀本」の巻二の表紙をめくってみると、この教科書を使っていた地元の旧家の先祖の名前と時間割が筆で書き込んでありました。



「明治卅一年四月一日 社高等小学校第一学年生児童時間割表」と。明治31年（1898）ですから、124年前の時間割です。どんな教科があったのかと興味津々で見ました。

表は、月曜から日曜までヨコに7列、そして1時間目から6時間目までタテに6列の時間割表になっていました。表の線はなく、表紙の裏に書き写したものでしょう。

| | | | | | | |
|----|-------|----|----|----------|----|----|
| 月曜 | 修身・画法 | 体操 | 読言 | 算術 | 唱歌 | 理科 |
| 火曜 | 読言 | 歴史 | 作文 | 算術 | 画法 | 習字 |
| 水曜 | 修身 | 体操 | 読言 | 算術（一時間体） | 地理 | |
| 木曜 | 読言 | 理科 | 習字 | 算術 | 画法 | 作文 |

| | | | | | | |
|----|-------|----|----|----|----|----|
| 金曜 | 修身・画法 | 体操 | 読言 | 算術 | 唱歌 | 歴史 |
| 土曜 | 習字 | | 唱歌 | 地理 | 休 | 休 |
| 日曜 | 休 | | 休 | 休 | 休 | 休 |

「読言」とはなんだろう、と。読書、朗読のことだろうか、習字はあるし、作文もあるので、あとは読書、朗読があれば、国語の授業になるかなと思いましたが。画法とは、図画でしょうか。あとの教科は分かります。週33時間あったんですね。実際にあった学校の時間割。こういう時にタイムマシンがあれば、その授業風景を見てみたいと思ってしまう。

明治時代の社市街の地図に尋常小学校の名が —今は明治館と広場に

2020年07月16日

資料の整理をしていると、ファイルに明治時代前半の社村（現加東市社）の町の地図のコピーがありました。これは、十数年前に町の先輩から貰ったものでした。



地図には、中央少し右のところに、「尋常小学校」と書き込まれています。現在は、明治館となっているところで、元は、社町公民館、元は加東郡公会堂の建物でしたが、この郡公会堂が建てられたのは明治末年のことでした。それ以前の明治時代の中頃まで尋常小学校があったのです。

その後、学校は社小学校が建っている現在地に移転しました

が、それまで、近隣の子供達がこの場所にあった学校に通って学んでいたのです。朝のウォーキングで歩く、広場へ上る石段が通学路だったという話を「社小学校百年史」で読んだことがあります。石段を登りきると、忠魂碑がありますが、この碑が建てられたのは大正時代の末年です。明治から、大正、そして、昭和、平成、令和と時代を重ねてきた歴史的場所だったことをこの地図が再認識させてくれました。

昭和6年の水泳心得

2006年10月11日

水泳についての心得

- 一 学校通ひの途中には絶対に水にはいらぬこと。
- 二 父母のお許しを受けた時に限っていてもよろしい。
 - かくれたり ぬけ出して いってはなりません。
 - 汗の出ぬやうな 日にはいってはなりません。
- 三 いく場合には次のことがらを必ず守って下さい。
 - 1 三年生以下のものは父兄の方に附添ふてもらふこと。
 - 2 一回三十分をこさぬこと。回数は多くて午前に関一回午後に関一回に止めること。
 - 3 万一の場合に自分を助けてくれる年上の方と共にいくこと。そして五人以上のつれと共にいくこと。
 - 4 きめられた場所以外にはいかぬこと。
 - 5 五間以上の長さの竹一本を救助用として用意しておくこと。
 - 6 団体中の一人をミハリ人として堤の上に居らせること。
 - 7 お互につれの様子に常に注意すること。
 - 8 水にはいる前にきつと十分に準備をすること。

- 準備運動・・・手、脚、全身
- その他・・・耳の注意、顔、全身を先づ一度、静に水に浸すこと。

これは昭和6年の夏に出された社小学校の水泳心得です。今という地区水泳にあたるものですが、今はプール、当時は池や川だったことでしょう。この心得は、区長さん、青年団支部長さんあての依頼文とともに配られ、地区水泳での諸注意の周知が図られています。

亡き母からも少女時代の水泳についてよく話を聞きました。松尾の池で泳いでいたそうですが、この注意書にある通り、竹を数本切って池に浮かべておくそうです。救助用というより、つかまるため、いわば浮き輪の役目を果たしていたようです。上級生がよく世話をし、おぼれる者などいなかつた、ということでした。

75年前の水泳心得。この心得のもとに池や川で泳いだ人々も今では80代半ばでしょうか。安全への配慮はそう大きく変わっていないなあという感想をもちましたが、みなさんはいかがでしょう。

昭和初期の社小学校の教育

2006年11月09日

先生の実行信条

昭和初期の社尋常高等小学校の一覧に「教育綱領」が掲げられています。このなかで、「本校職員の実行信条」という項目があります。全部で9項目にわたって教師のめざすべき姿勢が示されています。約80年前の我が国の小学校教育がめざしていた姿を

知ることができます。

教育問題が噴出している今日ですが、9項目を読んでもと教師のあり方、教育の原点が書かれているような新鮮な感じを受けます。

1. 成績の悪い児童でも必ず進歩し、善化出来るという信念の上
に立って忍耐と尽きない愛情を以て指導すること。
2. 知識技能の伝達のみを以て教育を考えないで忠実に児童自ら
が自己を伸長し完成せんと工夫し努力する態度の養成に努力す
ること
3. 教材は常に児童化し生活化して其の能力に即せしむる様工夫
すること。
4. 其学級の歴史と現状とを以て本校教育の方針を学級化した案
に依って健全に経営をなすこと。
5. 教師自ら進んで運動競技をなし是を奨励し剛健にして快活公
正なる気風を養うこと。
6. 訓練は外形の末に満足せず内的陶冶に留意すること。
7. 教室内の意識的教育の外に更に無意識的教育に留意すること。
8. 教師は周到なる注意と誠実とに依り徹底を期すること。
9. 教育法規の精神を尊重して本校教育の統一期すること。

昭和初期の社尋常高等小学校の教育方針

2011年02月21日

ここに昭和初期のものと思われる「加東郡社町立社尋常高等小
学校一覧」があります。これは現在の学校要覧にあたるもので、
16頁の小冊子になっています。

これまでにこの歴史ブログでも何度か紹介してきましたが、今日は、その中に書いてある「教育方針」を紹介します。自己の人格の向上に向けて努力する人をめざすというのは教育の変わらざる目標だと思いますが、「純美的生活」の実現といった教育方針が掲げられていることに驚きます。

教育方針・・・国民的、文化的、人格主義

生活人の生涯は理想の追求でなければならない。理想は自己意識に依つて確立され培養されるもので有る。本校児童の欠陥は概括して自己意識の不鮮明なところに在る茲には文化の継承も、将創造もない、故に常に自己の理想に向つて、自己を進展せしめねばならない事を意識せしめ個人的発展の要素を充足体现せしめ、人生生活の有機的関係即ち団体的生活の真義を理解せしめ国民として、地方民として個人として自己のより良き生活境を創造して常に自己の全人格の向上発展に精進する努力実行の意志を盛んにし、人と友に生を楽しむ純美的生活を遂げしむるを以て教育の方針としたい。

力の人を作る（生活開拓の力の養成）・・・主体的見地に立つ
生活人的発展
道の人を作る（実践人の養成）・・・・校訓に馴致せしむ

統一社尋常高等小学校の教育

2011年02月22日

昨日に続いて、昭和初期の加東郡社町立社尋常高等小学校の教育を紹介します。

「一覧」（今でいう要覧）の中の「学校経営の実際」の項に挙げられている事柄からは、当時の学校での教師の仕事の内容が読み取れます。用語は少し違っていても内容的には今と基本的に同じようなものだったんだなと思いました。

五 学校経営の実際

一般

1. 学校経営案（校長）
2. 学級経営案（学級担任）
3. 年中行事 毎月行事
4. 環境整理

学校・・・校風樹立、校舎、運動場清潔、整頓、設備充実

家庭・・・家庭訪問、保護者会、展覧会

社会・・・青年団、処女会、戸主会、婦人会

5. 職員修養研究

研究教授、近接学年研究会、同学年研究会、体育研究会、参観視察、研究発表会、音楽研究会

教授

1. 時間表制定
2. 教案作製
3. 教授予定案週録
4. 自習用書の設備

5. 成績考査方針の活用
6. 展覧会、成績品揭示
7. 研究教授、指定、近接学年、同学年・・・月二回
8. 教科担任
9. 読書会
10. 文集刊行
11. 唱歌演奏会

昭和初期の社尋常高等小学校の教育③

2011年02月23日

昨日に続いて、昭和初期の加東郡社町立社尋常高等小学校の教育を「一覧」から紹介します。「訓育」「体育附養護」の項目に挙げられている内容を見ると、登退校時礼式、神社参拝、義士会など当時の時代性を表す項目がありますが、基本はそれほど違ってないんだなと思います。隔月で「マクリデー」があったんですね。虫下しの苦い薬ではなかったかと思いますが。

訓育

1. 校訓要目徹底
2. 校訓徹底日・・・毎月二回
3. 登退校時礼式
4. 朝礼
5. 早起会と神社参拝
6. 自治会
7. 共同作業・・・毎月一回

8. 児童訓練当番
9. 容儀服装検査・・・毎月月曜日
10. 部落役員制と訓話
11. 職員、児童弔慰規定
12. 日本少年赤十字団加盟
13. 共同購買当番
14. 記念日講話
15. 義士会・・・義士墓展墓
16. 貯金奨励・・・貯金デー

体育 附 養護

1. 設備 略
2. 正課、体操、競技、遊技
3. 課外の運動、前項運動日
4. 運動会 年一回
5. 体育会 毎月一回
6. 遠足及旅行 春秋二回
7. 身体検査結果処理、姿勢矯正
8. マクリデー 隔月一回
9. 清潔法 普通掃除毎日、大掃除毎月一回
 - 大清潔 毎年夏季一回
 - 井戸替 毎年夏季一回

昭和44年一社小学校創立97周年「八城教育」から

2012年07月03日

友人が一枚の古い新聞を持ってきました。昭和44年（1969）10月25日発行の日付がある「八城教育」（社町立社小学校）の創立97周年記念特集号でした。校長は岸本格先生。私の在学当時の校長先生でしたので懐かしい思いで写真を見ました。



校長先生の挨拶の中にある歴史を読むと、「社小学校は明治5年（1872）10月25日に校区内の八つの学校の校舎をもって誕生しました。そして、その中心校は知新校の名で社町上本町にあり、その後八城学校、社尋常小学校、社尋常高等小学校、社国民学校、社小学校と名こそ変わりましたが連綿として続き、よき伝統を育んでまいりました」とあります。昭和44年で97周年。今年だと140周年ということになります。八城学校は現在の明治館の地にありました。現在の地に学校が移転したのは明治41年（1908）年のことでした。その頃の生徒数は770人。昭和13年（1938）に本館木造校舎が新築されました。その頃には1100人の生徒数だったそうです。さらに昭和20年（1945）には1450人。すごいですね。

「八城教育」に藤原静子先生の思い出の文が掲載されています。「私がこの社小学校を卒業してから早や30年近くになりますが・・・」から始まる思い出の中に、学校生活の一日が書かれて

います。

「まず、校門に入って、二宮金次郎の銅像と令旨塔、次ぎに奉安殿（今は築山になっている）、最後に運動場の松林にあった八城神社にうやうやしく礼をしてから、班長の「解散」の合図で教室へ行っていました。

下校時は朝の逆に、八城神社、奉安殿、令旨塔、二宮金次郎の銅像に礼をして帰っていました」。

今は八城神社のあった松林辺りは社幼稚園敷地になっています。奉安殿のあった場所は築山に、令旨塔はありませんが、その石はこの歴史ブログでも紹介しましたが、築山の中にあります。金次郎像はありますが、戦争当時のものは「出征」し、現在の像は戦後寄贈されたものです。

昭和44年一社小学校創立97周年「八城教育」から②

2012年07月09日

前回紹介した昭和44年の社町立社小学校（現加東市立社小学校）の「八城教育」創立97周年記念特集号に卒業生の思い出「あわが母校」の欄があり、昨日紹介した藤原静子先生とわが父、藤本豊治の文が掲載されていました。



なつかしい母校 「社校」の思い出 大正十三年高等科卒業
藤本豊治（現社町長）

社小学校が本年度開校九十七年になる事を岸本校長先生から聞かされ、びっくりしました。明治百年は合言葉のように聞きましたが、今更ながら吾が「ふる里」の小学校の歴史を知らなかった事を恥じました。

早速社の小学校の在りし思い出を探しまして経歴簿を取り出しました。真黒い表紙の真ん中に金文字で「経歴簿」と印刷された下に朱墨で氏名が毛筆で書かれ内容は校長、受持教員、父兄の名、続いて教育勅語、戊申詔書注意、そして各学年の成績記入欄、一〇点満点等、一冊の冊子になっていますが、この経歴簿を先生から受ける時の気分は何とも表現出来ない気分で、開けて嬉しかったり、悲しかったり、ガッカリした気分は時代が変わっても減税の小学生も同じ気分でないかと思いながらに懐かしい思い出にふけりました。

低い下駄に羽織を着て上草履を入れた袋を片手に風呂敷に包んだ教科書をかかえて、六、七年前に取り潰された背の高い石柱の門をくぐった頃を思います。その頃門を入ると真正面に職員室の玄関が、あまり間を置かずにあって、左に小さい築山を控え、その反対側の石側の築山に続いて東に杉垣に囲われた小使室がありました。その場所が現在の真正面の築山から東にかけての場所です。その当時、全生徒に「回虫駆除」のため「まっくり」を小使室で炊かれ、大きい釜から顔をしかめ、息もとめてのみにくいのを辛抱して年に二回余り飲んだことを覚えています。その時の井戸が現在屋体講堂の玄関左の向い、北の隅に残されているのを見るたびに、生水を飲みに行ってよく叱られた通称「コマサク」小

使さんを忘れません。とても酒が好きで馬鹿音頭（社特有の民謡）が上手な人でした。

玄関右の小使室との間に校長室がありました。その部屋に、立派な「ひげ」をおかれた尾崎詮光という三草の殿様の家老の息子であるとか聞かされた校長さんが、何時も背の低い方なのにステッキをついて三草から歩いて来られていた姿を私達は「ちゃぼ」と言って陰口を叩いていましたが、とても威厳を感じず校長先生との印象を皆持っていました。その職員室は現在梶原の公民館として移改築されていると聞いています。その頃に植えられていた松の木が数は減っていますが今の築山や屋体講堂の南に元気にある姿を見ますと何だか親しみを感じます。

一年生から六年生迄の数知れない思い出の中で忘れられない失敗があります。四年生の時漸く雑貨店の店頭は、下駄、草履、雪駄の時代からゴム靴に変わりつつありました。私達の同級生の一部に、このゴム靴をはく連中が出来まして、私もその一人となって意気揚々とあこがれの短いゴム靴をはいて、当時の魅力のまと、時代の先端を行く誇りを持って？遂にのぼせ上がり、先生も靴のまま廊下、教室に上がるんだから、私達も靴をはいているのだからそのまま上がろうと言って教室や廊下を活歩しました処、二、三日は先生も気付かれなかったが、雨降りの日、廊下で泥靴のまま遊んでいる処をみつけられて大いに叱かれ、先生と生徒の区別を説教され廊下に二時間余立たされゴム靴をはかない同級生に笑われ、あくる日からゴム靴組はシヨンボリした事を思い出します。

然しその頃は皆殺伐でした。生徒同士のけんかは絶え間ありません。窓ガラスを割る位は上等でした。先生も皆のやんちゃぶりには閉口された事でしょう。その代わりに竹の根節のむちで首筋

を叩かれたり、机のふたで頭をなぐられたり、廊下の階段から（三、四段あり）突き落とされたりしましたが平気でした。その頃のなつかしい教室は移築され階段もなくなって現在の一番奥の低学年の教室になっていますが、私達が前の講堂の場所にあった教室で勉強した事を思うと、何となくその近くに行きますと懐かしさを感じます。その教室と同じ様に校庭の柳の木も同じです。もっと小さい頃でしたが、幾十年じっと変り行く数多い生徒を眺めつつ大きく育てている事を思いますと、あの木の根元に小さな池があって菖蒲やかきつばたの花が咲いていた事が思い出されます。

思い出はつきません。母校に一步足を踏み入れるたびに数限りない幼い頃の思い出が浮かんできます。ご厄介をかけました諸先生に感謝しつつ筆を止めます。

長い文でしたが、全文掲載しました。昭和44年ですから私は社高校の1年でした。父は翌年現職のまま亡くなりましたのもうこの原稿を書いた頃は弱っていたのではないかと思います。父の小さい頃の写真を重ねながら小学生の頃の「やんちゃな」父のようすを思い浮かべていました。校庭の柳の木や、低学年の校舎等は私の思い出とも重なります。きっとあの世でコマサクさんや「ちゃぼ」校長先生と懐かしい思い出話をしていることでしょう。

昭和11年—小学生へ傘を一本の傘に3人が・・・

2008年01月31日

数年前まで小学校に入学する子どもに対して、地区からお祝いとして傘が贈られていました。最近は何騒な世相を反映して警報ブザーが贈られていると聞きます。

さて、ここに昭和11年(1936)の年末に社小学校(尋常・高等)の校長から各区長に宛てて生徒への傘の配慮をお願いしている文書があります。校長は「中には一本の傘にて三人帰路につき居る現状など目撃し」と現状を訴えています。

文書には各ごとの生徒数、傘数、一人当たりの傘数の一覧表が添付されています。16中、一人一本充足しているのは一地区のみという状況です。地区名、傘数、生徒数、一人当たり本数の順で示した一覧です。

| | | | |
|-----|-----|------|------|
| 社東 | 10本 | 101人 | 0.10 |
| 社南 | 7本 | 84人 | 0.08 |
| 社北 | 5本 | 88人 | 0.06 |
| 山国 | 30本 | 135人 | 0.22 |
| 松尾 | 19本 | 46人 | 0.41 |
| 出水 | 12本 | 45人 | 0.27 |
| 田中 | 28本 | 43人 | 0.65 |
| 鳥居 | 15本 | 30人 | 0.50 |
| 貝原 | 13本 | 31人 | 0.42 |
| 野村 | 53本 | 64人 | 0.83 |
| 西垂水 | 25本 | 25人 | 1.00 |
| 窪田 | 74本 | 93人 | 0.80 |
| 家原 | 19本 | 66人 | 0.30 |
| 上中 | 10本 | 81人 | 0.14 |
| 喜田 | 22本 | 37人 | 0.59 |
| 梶原 | 20本 | 37人 | 0.54 |

令和5年～6年の活動記録

令和5年5月～令和6年3月までの政治活動記録 — 議員活動ブログ「百聞百見」より

新議会設立世話人会・小委員会 加古川川開き神事で流放流

2023年05月02日

5月1日（月）、9時30分頃、加東市上滝野の鬮龍灘に面した広場（鬮龍スクエア）へ。今日は加古川の川開きの日で、スクエアにある水神社で安全、豊漁祈願祭が行われる。例年なら岩場には鮎釣りの太公望



が並び竿が林立する光景が見られるのだが、昨日までの雨で水量が増え、轟音をたてて流れる滝では、鮎も釣れないためかほんの数人の姿があっただけだった。その代わりに、空中には「鯉のぼり」ならぬ「鮎のぼり」が風に泳いでいた。神事の終わりに出席者で鮎の放流を行った。あっというまに流れにのみ込まれていった。

午後1時には登庁。1時30分から新議会世話人会が開かれた。座長に第一会派である自民党から私が、副座長には第二会派の維新の会から岸口氏を選出され、議事を進めた。

新議会世話人会の運営、前議会からの申し送り事項の確認、第362回臨時会の会期や内容等を協議した。終了後、小委員会を開き、議員報酬の特例減額の件、各常任委員会の会派別割り振り

の件、議会役員選出の件などについて協議を行った。昨日からスタートした新任期。新議会に向けての準備が一気に加速した。

終了後、議運委員長室で議事課のレクを受けた。4時前には、自民党会派の総務会、議員団総会が開かれ、議会役員候補の選出、常任委員会の割り振りなどについて選挙や協議、調整が行われた。議長候補には、3人の被推薦人から選挙で選ばれた内藤兵衛議員が選ばれた。

加東市の5月3日

－花まつり・鮎まつり・花火大会で賑わう

2023年05月04日

3日（水）は憲法記念日。地元紙の神戸新朝刊の一面大見出しは「改憲『気運高まらず』71%」と大きく打ち出し、「世論調査改正『必要』は72%」と小見出し。記事を読んでみると、共同通信社の郵送方式での調査結果であるとし、各質問項目の結果が出ている。一番高い数字は小見出しの「憲法改正の必要性」の「ある」と答えた人が72%あり、「ない」とした人が27%だった。その差は大きく開いており、7割以上の方が憲法改正の必要性を認めている（どちらかといえばを含む）。で、「国民の間で憲法改正の気運は高まっているか（どちらかといえばを含む）の質問では、「高まっている」が28%、「高まっていない」が71%と出た。この2つの結果を神戸新聞は、「改憲『気運高まらず』71%」と大見出しにした。どういう意味だろう、と首をかしげてしまう。調査結果を素直に見れば、国民の間では憲法改正を必要だとする人が72%もあるのに、「気運が高まっていない」と思う人が71



%もあるというのは、今はそれどころではない、他に重要なことがある、といった意味だろうか。あるいは、国会での憲法論議が国民の間に十分伝わっていない、という意味だろうか。国会での憲法論議を急ぐ必要があるとする人が49%、急ぐ必要はないが48%でほぼ同じとなっている。いずれにしても、憲法改正が必要だと思っている人が72%もある、という調査結果にもっと注目すべきだ。私なら、大見出し「改憲必要72%」、小見出し「国会での『改憲論議』急げ49%」と打ち出すが。

今日は8時には五峰山光明寺へ。山頂には4つの塔頭寺院があり、お釈迦様の誕生日を祝う花まつりが行われ、本堂や大慈院では花はじめの法要が、また、遍照院では写経体験や重文の仏像の拝観などが催されている。多くの人がお参りや見学に急坂を歩いて登っておられた。

午後3時から、鬮龍灘で、鮎まつりの行事、小学生による稚アユの放流が行われた。コロナ禍で実施できなかった3年分も含めて行われ、例年より多くの小学生、親子が参加し、久しぶりの賑わいだった。加古川内水面漁協によれば、2000匹の稚鮎を用意した、とのことだった。

夜は、これも久しぶりの花火大会が行われた。春のこの時期の大きな花火大会は珍しく、コロナ禍で行われなかった分も楽しもうと、例年以上の多くの見物客が訪れ、夜空に開く大輪の花、加古川の流れに映る光、そして光る度に照らし出される鬮龍灘の奇岩の景色を満喫した。

今日行われた、高校野球の春季県大会準々決勝で、社高校が市西宮高校を2-0で破り、4強へとこまを進めた。行事と一緒に出席していた岩根市長、藤井商工会長らとその朗報に喜んだ。

新緑の嬉野台で春のフェスティバル

2023年05月05日

4日(木)、みどりの日。玄関に国旗を掲げた。この日にふさわしい新緑がまぶしい好天となり、加東市のほぼ中央に広がる嬉野台地にある県立嬉野台生涯教育センターでは、恒例の「春のフェスティバル」が開催された。



会場には、家族連れなど多くの人々が訪れ、うれしの友の会をはじめ、県立社高校や小野工業高校の生徒、事業所、グループなどの開く店や演し物などを楽しんだ。恒例のぜんざい、ポップコーンを食べながら南京玉すだれやオカリナの演奏を楽しみ、社高校生活科学科の菓子類やビーツ弁当、シカ肉ドッグ、ちまきなどを買って帰った。社高校の教頭先生、事務長さんと出会って、春季大会準決勝戦や創立110周年の話もできた。

国宝朝光寺のご本尊千手観音像ご開帳と法要 能登で強い地震発生

2023年05月06日

5日(金)、今日は「こどもの日」。朝、玄関に国旗を掲げる。ご近所にも玄関に国旗が掲げてある家があることに気づいた。

午後、加東市畑の国宝朝光寺で行われた大般若経転読法要とご本尊の千手観音像の国



重要文化財指定記念のご開帳に参列した。

国宝の本堂には、法要が始まる前から多くの人が詰めかけ、中には東京や滋賀県、京府府や大阪府から拝観に来られたと聞いた。

まず、10人余りの僧侶による大般若経転読法要が行われた。「うお〜」という大音声とともにお経を高く持ち上げ、次々と経典を読み上げる光景は迫力があつた。続いて、加東市教育委員会の文化財課の藤原氏が朝光寺の由来、歴史、寺宝を紹介した。特に内陣の2体（東本尊、西本尊）のご本尊についての説明では、国重要文化財に指定された西のご本尊に人々の関心が集中した。

法要と説明のあと、境内の重文の鐘楼、県指定文化財の多宝塔をはじめ、つくばねの滝などを見学した。鬼追踊りは来年の復活を待つしかないのは残念だったが、ご本尊のご開帳ということで、踊りに使われるお面や寺の歴史を物語る旧朝光寺の鰐口など、普段はじっくりと見ることができない寺宝を見学するという貴重な体験をすることができ充実感があつた。

帰りの車中のラジオニュースで驚いた。午後2時40分過ぎに、石川県の能登半島を震源とする最大震度6強の地震が発生した。能登半島では、ここ2年ほど地震が続いていたが、珠洲市では、住宅が倒壊したり、神社の鳥居が倒れるなどの被害が出ている。テレビニュースで、河田恵昭先生（人と防災未来センター長）が「6強は非常に強い地震だ。家屋の中にいる人がいないか、急いで調べて回り、被害を少なくする必要がある」と強く指摘されていた。特に独り暮らしの高齢者が多い地域なので、家の中で家具などが倒れて動けなくなっている可能性がある、とのことだった。先生が常々指摘されていることで、地震発生時より、その後の災害で亡くなる人が多いことから、まず避難することが大事だ。

加東市連合婦人会総会 コロナ5類へ

2023年05月08日

7日(日)、午後1時30分から、加東市社公民館で加東市連合婦人会・消費者協会の総会が開かれ、約150人の会員が出席した。

会の冒頭で、友藤富士子会長から当選お祝いの言葉をいただき、サプライズに感激した。総会の祝辞では、



はじめに会長からいただいた「加東市民、兵庫県民の幸せのために頑張ってもらいたい」との言葉を肝に銘じて県政推進に邁進する覚悟を申し上げた。今日、岸田首相が韓国を訪問し、尹大統領と会談した。メディアは「シャトル外交の再開」と報じた。両首脳は対北安保の協力で一致したと報じられ、文大統領時代とは大きく変化した感がある。しかし、竹島、慰安婦、徴用工はじめ、日韓関係には問題もある。一方で観光や芸能分野での両国民の交流、親近感は高い。また、G7広島サミットでは、両首脳が韓国人原爆犠牲者慰霊碑を参拝することになっている。

岸田首相は、歴史認識については今後も揺るがないとしており、両国民間でどう解決していくか、まさに未来に向けての課題だ。ただし、歴史認識はこれからも「教育」を通してつくられていくもの。例えば、韓国では竹島は独島、韓国の領土として教えられ、歌もある。翻って、わが国では、ようやく教科書に固有の領土と明記された。しかし、島根県の竹島の日の政府主催式典への願いは実現していない。歴史的事実を通して次の世代に「竹島は日本固有の領土である」という根拠をしっかりと教えておかないと、ともに反論もできないままになる。北方領土も同じだ。尖閣諸島も含めて、領土に関する教育を強化することが必要だ。

明日8日から新型コロナは5類に分類される。3年4ヶ月にわたる新型コロナ感染症が収束した、とってよいのだろう。兵庫県民の4人に1人が罹患した。ワクチンは5回まで打ったが、今6回目の案内が来ている。

新議会世話人会、議員団総会—新議会の準備進む

2023年05月10日

9日(火)、社の法務局で供託消滅申請の手続きを済ませ、11時には登庁。

午後1時30分から新議会世話人会小委員会が開かれ、議会における基本問題等を前回に続いて協議した。その中で、「議員報酬の特例減額の取扱い」について各会派の意見を聞いたが、一致を見なかった。その他の項目につてまとめた小委員会の結果報告を了承し、引き続いて行われた新議会世話人会に報告した。

世話人会では、第362回臨時県議会の開会日である5月16日の議事順序、議員の議席、小委員会の結果報告などを協議し、新議会に向けての準備が進んだ。

2時45分から自民党会派の議員団総務会、続いて議員団総会が開かれ、世話人会の結果が報告された。また、常任委員会の所属、6月議会の代表、一般質問予定者、各部会の政策委員会の構成などが協議された。終了後、各部会の打ち合わせが行われた。これで予定の会議は終了し、その後は議会事務局長と議場のことなどを話して退庁した。

午後6時30分、加東事務所で、加東市久米地区で起きている問題について、有志の方々からの話を聴いた。昨年から続いている問題で、住民の安心安全な生活を脅かしている事案だ。実情と対策について話し合った。

一週間後に開かれる臨時議会で新議会がスタートする。コロナ

感染症の制約もなくなり、議会活動がコロナ前の形に戻って行われるようになる。

臨時県議会 正副議長選出 議運委員長に

2023年05月17日

16日（火）、今日は第362回臨時県議会が開かれ、新議会の正副議長の選出、議席、会期の決定、議運の委員の選任などが行われる。



10時から自民党の議員団総会が開かれた。そして、11時から3号館7階の大会議室を議場として議会が開会した。

写真は夕方のテレビニュース画面。

議長選出までは、最長老議員の山本敏信議員が議長を務め、さっそく議長選挙が行われた。結果は内藤兵衛議員（自民党。西脇市多可郡選挙区・5期）が当選した。投票内訳は、投票総数86、有効投票86、内藤兵衛75票、黒田一美9票、庄本えつ子2票だった。ここで、内藤新議長が挨拶、議長席につき、副議長選挙が行われた。結果は、有効投票数84、白票2、徳安淳子（維新・尼崎市・5期）が当選した。徳安75票、上野9票だった。

続いて、19日までの会期、議会運営委員12名が議長より指名され選任された。正副議長選挙は、結局、自民・維新・公明が候補者を統一し、県民連合、共産党は独自の候補に投票した、ということだ。

午後1時30分から、議会運営委員会が開かれ、正副委員長の互選の結果、私が委員長に、岸口実議員（維新・明石市・5期）が副委員長に選出された。

午後は、議長室で当局レクを受けた。議運委員長室で議事課のレクを受け、夕方まで議運委員長室で執務した。もう一年、この議運委員長室にお世話になる。

帰りに県立社高校に寄って、教頭先生、事務長さんと創立110周年の懸垂幕、横断幕のデザインの最終図案を検討した。

第362回臨時県議会閉会 新議会の体制決まる

2023年05月20日

19日（金）、9時30分過ぎに登庁。10時から議会運営委員会が開かれ、上程議案（同意人事案）、議員報酬の特例減額に関する議員提出議案、議事日程などを協議した。10時25分から自民党の総務幹事会。終了後10時30分から議員団総会が開かれた。会派名についての検討委員会の答申が出たが、「自民党議員団」にすべしとの意見を述べた。

11時に3号館7階の仮議場で本会議が開かれた。監査委員の同意人事案を可決。議員提出の報酬減額の維新案は否決、3会派（自民、公明、県民）の議案が可決された。その後、常任委員会委員、関西広域連合議会議員、県競馬組合議会議員、兵庫県・神戸市調整会議議員などが選任されて、本会議は閉会した。

午後1時から各会派代表者会議が開かれ、常任委員会運営綱領、災害見舞金積み立て、県議会サテライトゼミの実施などについて協議を行った。

今日、G7広島サミットが開幕した。岸田首相の強い希望で広島で開催され、原爆資料館を見学、平和公園で献花する場面で報じられた。その後は厳島神社を訪れる場面もあり、広島という開催地のもつ象徴的な意義を強く発信できていると思った。そこへ、ゼレンスキー大統領が来日し対面で首脳と会うというニュースが流れた。岸田首相のウクライナ訪問に続いて、今度はゼレンス

キー氏の来日が実現しそうだ。岸田首相の強い要望だったという。間違いなく世界の注目が集まるだろう。ウクライナ支援国の結束、「核なき世界」の理想の実現へといった岸田首相の思いが強く発信されることを期待する。一方で、核兵器保有国、特にその使用を仄めかし脅威をまきちらすロシア、中国、北朝鮮などにどう対処していくのか。中国は中央アジア諸国を集めてサミットを開催して対抗している。目が離せない。

6月議会1週間前議運や議員団総会 自民党加東市支部幹事会

2023年06月01日

31日(水)、朝、6時30分頃、Jアラートが出て北朝鮮が予告通り、弾道ミサイルらしきものを発射したと伝えた。沖縄県を対象として避難をするよう伝えたが、結果的に打ち上げは失敗したらしくミサイルは飛んで来なかった。

朝の登校見守りに立った。登校指導に来られた校長先生と先日新聞に報じられた加東市教委、学校のコンピュータのウイルス感染の話をした。学校では、児童生徒のタブレット端末はもちろん、学校、教員のパソコンも使えない状態にある。授業や学校事務に支障が出ているようだ。

今日は7日から開かれる6月定例県議会の1週間前の議会運営委員会が開かれるため登庁した。11時、財政当局から提出予定の補正予算案の説明を受けた。午後片山副知事から同意人事案の説明を受け、1時30分から議会運営委員会が開かれた。提出予定議案の説明、質問・質疑の順序、質問・質疑の申し合わせの改定案などを協議した。

2時25分から自民党の議員団総務・幹事会、30分から議員団総会が開かれた。今日から4階山側の大会議室で会議が行われ

た。会派分裂以来のこの部屋での会議だった。窓から見える山側の景色が懐かしく感じた。総会では、議運の結果や質問予定者の質問案の発表も行われ、内容について質疑が行われた。

終了後、議運委員長室で議事課のレクを受けた。4時30分過ぎに退庁した。梅雨前線が南下し、空は晴れて空気も変わった。

第363回定例県議会が開会

2023年06月08日

7日(水)、9時過ぎには登庁。10時から議会運営委員会が開かれ、上程予定議案、議事日程、質疑・質問時の申し合わせ事項の協議のほか、代表質問日の昼休憩時間の変更について議長から発言があった。

10時30分から自民党の議員団総会。11時に7階の大会議室の仮議場で第363回定例県議会が開かれた。

知事から、5年度補正予算案、条例案が上程され、提案趣旨説明が行われた。また、収用委員会の委員に関する同意人事案が提出され、賛成多数で可決された。

本会議終了後、自民党の議員団の各部会の政策委員の写真撮影が行われた。今年度、私は建設部会と文教部会の政策委員に就いている。

午後1時から自民党の議員団総会が開かれ、代表質問・一般質問の要旨について2回目の発表、検討が行われた。終了後、議運委員長室で議事課のレクを受けた。4時10分から来客があった。

ウクライナでダムが破壊され、流域では浸水被害が広がっている。日本の急峻な地形とは異なり、大陸の平坦な地形でこうしたダム決壊、浸水が起こると長期間、広大な面積が浸水し大変な事態となる。ウクライナ、ロシア双方が破壊したと非難している。やっではないことが起きている。次は、と考えるてしまう。ロシア

領内での反政権勢力の攻撃、ウクライナの反転攻勢、これに対するプーチン大統領の反撃は・・・。

齋藤知事社高校訪問 県土改連北播支部総会

2023年06月09日

8日（木）、11時から加東市上三草のやしろ国際学習塾中会議室で開催された、県土地改良事業団体連合会の北播支部総会に出席し、ご挨拶を申し上げた。午後4時過ぎ、県立社高校へ。今日は齋藤知



事が部活動のようすを見るために訪問された。トレーニングセンターと体育館で、バドミントン部、男子バレー部、バスケットボール部の練習を参観し、部員を激励した。トレセンでは、バドミントンの練習を体験。テニスの経験を持つ知事は軽快なラケットさばきを披露した。校内では、文化発表会の準備をしていた生活科学部、書道部、学級などの教室をサプライズで訪れ、気さくに生徒に声をかけ、活動について聞いたり、体験するなどした。

今回の訪問は、知事が打ち出している県立高校の施設、設備や部活動の充実などへの集中投資にあたって、現場を訪れ、実態や課題を把握したいとの思いからで、社高校を皮切りに今後も機会を見つけて行っていくとのことだった。

社高校は、県立高校で、唯一の体育科をもち、野球やバレー、陸上はじめ部活動で優秀な成績を挙げている。今日は、文化部の生活科学部の地域貢献活動などにも関心を持っていただく機会となった。創立110周年の今年、さらなる飛翔をめざしている社高校にとって、今回の知事の訪問は励みになったと思う。

住民からの苦情・不安を現地で確認 国会でのLGBT法案

2023年06月11日

10日（土）午前、自宅での庭作業中に、加東市久米地区の住民からの連絡が入り、以前から聞いている苦情について、現地で問題の状況を住民、警察官とともに確認した。

すでに長期間にわたって住民の生活を不安にしている問題で、市や警察、国、県の関係部署にも問題を解決してほしいとの声が寄せられており、市議会でも取り上げられている。現地で住民を不安に陥れているラジコン機の飛行状況、ドローンの飛行音等の問題状況を確認することができた。

午後、事務所に来客があり、県の地方高齢者大学の今後のあり方について、話を聞きたいとの相談を受けた。また、夜にも元区長さんから地区の取り組みについて県への問い合わせがあった。

国会では、9日にLGBT法案が衆議院内閣委員会で可決された。自民党が、維新・国民案を呑んで自公与党修正案を提出し、4党の賛成で可決したものだ。この法案をめぐるっては、自民党内で激しい議論が続いていた。また、LGBT当事者団体からもさまざまな懸念が出されていたり、国民の間でも議論が起きていた。問題点が多いこの法案については、実際の社会生活や教育の現場での混乱も予想される。欧米先進国に遅れるなという声はよく聞くが、その先進国で起きている問題、混乱もある。そうした情報も踏まえてよく議論、判断をすべきだ。参議院での審議を注視したい。

4年ぶりの加東市消防操法大会 下流野分団が優勝

2023年06月12日

11日（日）、昨夜からの雨が午前中も続いた。その雨の中で、加東市役所南駐車場で、4年ぶりとなる第14回加東市消防操法

大会が開催された。

今回から各小隊から1分団の出場という形になり、辞退分団もあって9分団が出場した。今年は小型ポンプ操法のみで、各分団とも約1ヶ月の練習の成果を披露した。結果は下滝野分団が優勝、2位は北野分団、3位は野村分団だった。また、敢闘賞は畑・奥合同分団の選手が独占した。



近隣市町では操法大会そのものを止めたケースもあり、縮小傾向は否めない。団員数の減少や高齢化もあって、今後、操法大会、訓練等のあり方を検討していかなければならないだろう。

消防団員だった若い頃の自分の経験から、操法大会に出場し、毎日毎日練習を重ねたことは頭の中から指先まで体に染みついている。そのことが火事現場での迅速な活動に必ず役に立つと信じていたし、今もそう思っている。また、団員同士の信頼感や分団の結束が高まり、士気の高揚に繋がった。何らかの形で、こうした消防操法に習熟する機会が必要だ。

本会議 会派名は自民党議員団 加東市経済懇話会

2023年06月13日

12日(月)、8時30分頃に登庁。9時からの議運では今日、13日、14日の議事日程を協議した。9時30分から自民党の議員団総会が開かれた。

冒頭、山口幹事長から、会派名を「兵庫県議会自由民主党議員団」とすることについて発言があり、了承された。本会議の代表質問に立った奥谷謙一議員(自民党副政調会長・神戸市北区選出)

がそのことを宣言した。

代表質問は、自民党、維新の会、昼休憩を挟んで公明党、県民連合の順に行われた。仮議場は後ろまで一杯で、まるで、子供の数が多かった頃の学校の参観日に、席のすぐ後ろまで保護者が立って参観しているような雰囲気だった。各会派からも現在の会議室使用は飽くまでも緊急措置であり、早急に議場問題への対応が必要との声があがっている。

午後5時から、加東市内で加東市経済懇話会の総会、交流会が開かれ出席してご挨拶を申し上げた。4年ぶりの対面での総会で、出席者同士の交流も盛り上がった。

いのちの講演会 県薬剤師会懇親会

2023年06月18日

17日（土）、神戸市垂水区の文化センターで開催された「いのちの講演会」に出席した。兵庫いのちの会が主催するもので、「4分の1の奇跡」と題して、作家の山本加津子氏が講演した。

兵庫いのちの会は、お腹に宿った小さな命を大切にするという趣旨で活動しており、私も趣旨に賛同し、同じ思いで活動に協力をしてきた。山元氏は石川県内での特別支援学校の教師経験や故村上和雄氏（筑波大学名誉教授）との出会い、交流を通して、現在、作家、エッセイストとして執筆、講演活動で活躍されている。その話しぶりが実に優しく、心が引き込まれた。

午後6時から、神戸市内のホテルで開催された兵庫県薬剤師会の懇親会に出席した。4年ぶりの開催で、知事、自民党の衆参国会議員、県会議員らも出席した。

今日は、葉のことを考えてしまう日だった。それにしても経口妊娠中絶薬が国（厚労省）によって承認されたことは残念だった。安全な人工妊娠中絶方法として推奨され、厳格な薬の管理、使用

になっているといえども、お腹に宿った小さな命を飲む薬によって奪ってしまうことになる。また、この薬がやがて市中で簡単に入手できるようになるかもしれない。「授かる命」「命への尊重」といった風潮が薄くなりつつある今日の状況にいろいろ矛盾を感じる。

県道の沿道花壇に花を植える

—加東市天神地区と東条小中一貫校の子ども達

2023年06月19日

18日(日)、加東市天神の小中一貫校東条学園前の道路、県道小野藍本線の沿道で、歩道の花壇に花を植える活動が行われた。

この道路愛護活動は、天神地区の皆さんによって約20

年続いている。今日は、東条学園の児童・生徒、保護者ら150人が自主参加し、地域の人と一緒にマリーゴールドなどの苗を植えた。

子ども達がこの活動に参加することで、道路はもちろん、ふるさとへの愛着が育まれることを期待している、と地域の方が話しておられた。児童・生徒が参加するのは3回目ということだったが、今回は3倍に増えたということだった。約3000本の花の苗が植えられた。



定例県議会閉会 兵庫県保育交流会

2023年06月20日

19日(月)、9時過ぎには登庁。10時から議会運営委員会、

9時30分から自民党議員団総会が開かれた。

11時、本会議が開かれ、令和5年度補正予算はじめ上程議案が可決された。また、意見書案7件が可決され、続いて、北朝鮮のミサイル発射への抗議文が決議され、去る7日から13日間にわたった第363回定例県議会が閉会した。



午後1時から、議運委員長室で県民躍動課から地方高齢者大学についての説明を受けた。1時30分からは、各会派代表者会議が開かれ、議会棟の閉鎖に伴う議場のあり方について、議会として第1回目の検討が行われた。その後は、議運委員長室で電話や来客対応などにあたった。

夕方5時から神戸市内で開かれた兵庫県保育交流会に出席した。今年度から永田秀一前会長から兵庫県議会社会福祉議員連盟の会長を引き継ぎ、出席議員を代表してご挨拶を申し上げた。出席された加東市内の民間こども園・保育園の園長先生らと懇談した。

今、大切なことは、質の高い保育を行うことだ。そのためには、保育士の確保、研修等の機会確保、処遇改善など、保育園の環境を整えていかなければならない。何よりも人生の基盤づくりの幼児期の子どもの発達、育ちに対する、保護者や社会の関心が高まらなければならないと思う。この時期の子どもの心身の成長は著しく、そうしたことに最適の環境や活動が保障されることが必要だ。運動会や生活発表会、そして卒園式等の機会に目の当たりにする園児の成長に驚かされることが多い。日々の保育、教育活動で工夫を凝らし、成長、育ちを促して下さっている保育関係者のご苦勞に感謝したい。

敬老会 自衛官募集相談員会 JAみのり総会 加東警察友の会総会

2023年06月25日



24日(土)、朝、加東市福田地域の平池公園へ大賀ハスを見に行った。神戸新聞に開花の記事が出たが、だいぶ前から咲き始めている。今年は少し花が小ぶりかなという印象だった。2000年の時空を超えて毎年咲く大賀ハスが嬉しい。



9時50分から福田小学校体育館で、福田地域づくり協議会のふれあい敬老会が開かれ、出席してご挨拶を申し上げた。会場には、教員時代の大先輩で95歳の先生のお姿もあった。参加者は、このあと、ミュージック・ケアや落語を楽しんだ。



10時30分頃、加東市上三草の高室池の畔のやしろ会館へ。自衛官募集相談員東播連合会の定期総会に出席し、お祝いを申し上げた。国会議員、県議員らが出席した。

午後1時30分、上三草のやしろ国際学習塾L. O. C. ホールで行われたJAみのりの総代会に出席。

午後4時から、同会館中会議室で行われた加東警察署友の会の総会に出席してご挨拶を申し上げた。学習塾の芝生広場の緑が鮮やかだった。

警察への要望 兵教大図書館で牧野富太郎展

2023年07月04日

3日(月)、昼前に加東警察署に柏谷署長を訪ね、地元案件で説明、要望を行った。住民の安全安心、平穏な生活を守っていくことは警察の任務だ。安心な生活が脅かされている地区住民の切実な思いを伝え、あらためて強い対応をお願いした。

夕方には、事務所に社連合区の黒崎区長さんがお越しになり、8月に開催予定の区長会の青少年健全育成会議のご案内をいただいた。この会議は夏休み恒例の会だったが、4年ぶりの開催になる。

昼間、兵庫教育大学の附属図書館を訪れ、教育資料室で開催中の牧野富太郎展を鑑賞した。久しぶりの図書館だったが、NHKの朝の連ドラ「らんまん」の主人公の生き方を毎朝楽しみにしているので興味津々だった。



あとで図書館の書架で牧野富太郎の植物図鑑を見つけ、初めて開いた図鑑から知っている植物のいくつかを調べてみた。

東条川疏水にフラッグアート

2023年07月05日

4日(火)、10時30分、加東市黒谷の「東条湖おもちゃ王国」の園内に設けられている東条川疏水ネットワーク博物館のアートプロジェクトコーナーのリニューアルオープンの式典が行われ、出席してお祝いを申し上げた。



神戸芸工大の谷口准教授の監修で、子供から大人まで100人が東条川疏水流域に棲息する生き物を旗に描いて展示する取り組みで、米田こども園、鴨川保育園の園児たちも参加して、フラッグを取り付けたり、くす玉割りを行った。旗には、魚やカニなどさまざまな生き物が描かれており、出席した東条川疏水ネットワーク博物館活動に関係する国、県、市、団体の関係者らが一緒に祝った。

加古川改修促進期成同盟会の総会

2023年07月07日

6日(木)午後2時から、小野市うるおい交流館エクラで、加古川改修促進期成同盟会の総会が開かれた。加古川流域の市町、国、県の関係機関、国会、県会、市議会から議員が出席した。加東市が同盟会の代表を務めている関係で、県会を代表して挨拶を申し上げた。

加古川の河川改修は現在加東市滝野地域等で進められており、本川、支川の築堤や河道掘削工事が行われている。九州での線状降水帯による大雨の被害が報じられる度に、一日でも早く加古川の改修が進むことを強く期待するばかりだ。

夜、メールが入った。但馬牛が世界農業遺産への認定が決まった。正式には美方郡産但馬牛。数年前からの取り組みが実った。神戸ビーフにさらなる価値が加わった。次は山田錦の日本農業遺産登録の実現だ。

安倍元首相の志を継承する集いに

2023年07月09日

8日(土)、東京の明治記念館で行われた「安倍晋三元首相の志を継承する会」に出席した。



会場には、安倍昭恵さん、櫻井よしこさんはじめ呼びかけ人、岸田首相ら約70人の国会議員、約60人の地方議員、安倍さんと関係の深かった多くの人々が出席し、安倍晋三元首相を偲ぶとともにその遺志を継承

していくことを誓った。

はじめに挨拶に立った櫻井よしこさんは、涙をぬぐいながら、吉田松陰先生のことを語る安倍さんの思い出から、明治維新の先人の志、限りない明るさと寛容さ、揺るがぬ日本への誇りをもって、戦後レジームと戦い続けた安倍さんが遺した宿題に取り組むことを呼びかけた。

次に岸田文雄首相が挨拶し、同期だった安倍さんの思い出を語った。次に国会議員を代表して同期の高市早苗大臣が挨拶し、続いて、台湾安倍晋三友の会の代表である陳唐山氏、安倍さんのスピーチライターだった元内閣府参与谷口智彦氏、アベノミクスを推進した元内閣府参与本田悦郎氏がそれぞれの立場から安倍さんの人柄、政策、信念などを語った。

ここで安倍昭恵さんが挨拶し「主人は命を懸けて働いた。今は魂となって皆さんと一緒に働き続けている」と話した。続いて、若い世代を代表して憲法をよくする学生プロジェクト代表の蜂谷翔さんが活動の紹介と遺志の継承を誓った。

最後に元統合幕僚長の河野克俊氏が、硫黄島での安倍さんの祈りを紹介しながら、英霊への祈りと戦後レジームとの戦いこそ、安倍さんの心の中心にあるものだと語り、集いが終わった。

約3時間のつどいだったが、あっという間に時は過ぎていった。

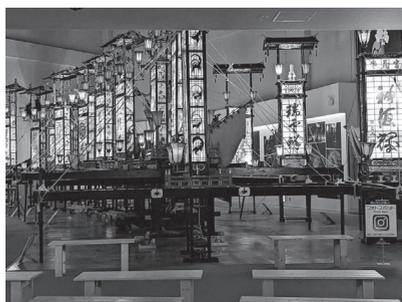
会場では多くの同志とも会えた。会場ロビーに展示してあった秘蔵写真の一枚に、なんと安倍さんとガンバローコールをする兵庫県議会議員有志の中に私の姿があった。平成30年の9月に安倍さんが徳島県に行かれた時に兵庫県から有志で駆けつけた時のものだった。驚いたが、何か強い縁を感じた。

有志の会の旅行で北陸へ

2023年07月11日

9日(日)、10日(月)の2日間、加東市内の有志の会の旅行で北陸地方を訪れた。コロナ禍の間は実施されなかっただけに久方ぶりの旅行となった。

能登地方では、まだ地震が続いているとの話だったが、輪島



の朝市やキリコ会館には観光バスで訪れる人の姿も多く、また、石川県の旅行支援で2000円のクーポン券でお土産を買うこともできた。日本遺産のキリコが練る輪島市内の街路は無電柱化され、広々とした空間と趣のある街並みが演出されていた。また、往路、千里なぎさ海岸を観光バス(中型)で疾走する体験はワイルドだった。

九州北部を襲った線状降水帯のニュースに見入りながら、地震や大雨などの自然災害の話題も出た。どこでも起こりうる線状降水帯、河川氾濫や土石流に自ずと話が加古川や東条川の河川整備になった。

各会派代表者会議 議会公文書管理委員会 愛媛県議会議会運営委員会の訪問

2023年07月14日

13日(水)、9時30分には登庁。10時30分から各会派代表者会議が開かれ、9月議会で仮議場とする予定の県公館大会議室の配置などについて協議を行った。3号館7階の大会議室では、狭い、知事らの顔が見えない、傍聴席がないなどの問題点が出されていたので、9月議会では県公館を使用してみようということになっている。議会棟をどうするかについての協議の必要性が前回の代表者会議で指摘され、今後は、各会派代表による議場のあり方検討会を設け、議会として検討していくことになった。

終了後、県議会公文書管理委員会が開かれた。議題は住民による審査請求に対する裁決、管理規定の一部改訂について、協議を行った。

午後1時、愛媛県議会議会運営委員会の訪問を受け、議会を代表してご挨拶を申し上げた。議会改革、ICT化等についての調査が主な内容であり、わが県議会の取り組みについて、議会事務局から説明が行われた。



神戸からの帰路、激しい雨に遭った。北陸の石川県、富山県では線状降水帯が発生し、大雨の影響で山崩れなどの被害が出ている。富山県では避難誘導をしていた市議さんが犠牲となっているとの報道があった。

自民党兵庫県連大会 選対委員長に

2023年07月16日

15日（土）、神戸市内で、第68回自由民主党兵庫県支部連合会大会が開催され、加東市支部の代議員、表彰党员さんらと出席した。

大会には、齋藤県知事、久元神戸市長らが来賓として出席し、祝辞を述べた。続いて、各支部から推薦のあった45名の党员が表彰された。

議事では、私が議長に指名され、2年連続で議長を務めた。まず、藤田孝夫幹事長から党情報告があり、次に役員選出が行われ、末松信介会長が再任、新幹事長に黒川治県議、政調会長に原テツアキ県議、総務会長に坊恭壽神戸市議、選対委員長に私が選任された。その後、大会アピールが採択され、大会は終了。記者会見が行われ、衆院選への対応などについて、末松会長が答えた。



日本会議兵庫本部総会（川西市）－河野元統幕長が講演

2023年07月18日



17日（日）、川西市で日本会議兵庫の第24回総会と記念講演が行われ、北播磨支部の会員さんと一緒に出席した。兵庫の総会は、県下各支部での開催を順に行っており、今年は阪神北支部の番だった。

市内中心部のアステ川西6階のアステホールには、地元はじめ県下各支部

から約200名が出席した。第一部の総会では、兵庫県議会日本会議議員連盟を代表して挨拶を申し上げた。会場には議連の議員も出席した。

第二部は、記念講演で、元自衛隊統合幕僚長の河野克俊氏が「国難に立ち向かう新国防論」と題し、戦後最悪といわれる日本の安保環境について、自衛隊、核兵器、中国、憲法をめぐる課題を自衛隊最高幹部としての経験や知見、安倍元首相との思い出などを交えながら分かり易く解説し、正面から国防を考え、論じ、行動していくことの必要性を訴えられた。



その後、同会場で「安倍元総理を追悼し、志を継ぐ会」が行われ、参加者が安倍元首相の遺影に献花し、各々が思いを語りながら、交流を深めた。安倍さんが凶弾に倒れて一年が経ち、その不在に日本の政治の不安を感じながらも思いを継承して戦後レジームを乗り越え、誇りある日本の国づくりに一層邁進していくことを誓う時間になった。

北播政経懇話会で大阪・関西万博の最新動向を聴く 県政シリーズ第Ⅹ集

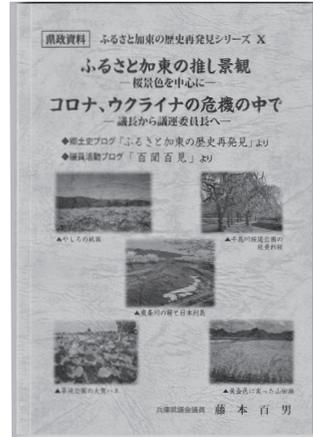
2023年07月22日

21日（金）、午後12時30分から、北播政経懇話会の7月例会が嬉野台生涯教育センターで行われ、2025年開催予定の大阪・関西万博の最新動向について、日本国際博覧会協会の堺井啓公氏が講演した。

パビリオンの建設遅れが報じられる中、万博の全体像、交通ア

クセス、訪日客の国内観光への誘客などについて語った。準備が遅れているようだがという私の質問に対して、心配ないとの答えだった。また、万博に来場する海外からの観光客を各地域へと誘導するための旅行商品づくりについて、例えば「2泊3日で100万円」の商品をどうつくるか、月に2,3組のグループを想定してその地域ならではの体験を組み込んだメニューを開発してもらえれば、万博協会で発信する、といった話があった。

県政資料シリーズ第X集ができあがってきた。令和4年4月から5年4月末までの議員活動、加東市の「推し景観」の2部構成で、B5版203頁。



東播磨保育研究大会 やしろ歴史民俗研究会

2023年07月23日



22日(土)、午後1時から加東市上三草のやしろ国際学習塾LOCホールで行われた第66回東播磨地区保育研究大会に出席した。約400名の保育関係者が出席し、式典と講演が行われた。永年勤続表彰では50年という長い

年月を保育の道で勤められた2人が受賞された。また、教員時代の教え子が加東市内のこども園に勤めており、今日の出席者を歓迎する「加東伝の助」に扮していたことをあとで知った。

式典終了後、急いで社公民館へ。1時30分から行われていた、やしろ歴史民俗研究会の第2回研修会に出席した。

今日の講師は、播磨学研究所所長の小栗栖健治氏で、加東市の3つの民俗芸能、上鴨川住吉神社の神事舞、秋津の百石踊、朝光寺の鬼追踊について、その歴史や踊りの内容、意味などを解説された。

東条川疏水の講演（うれしのふるさとたのしみ隊） 社高校が決勝戦へ

2023年07月26日

25日（火）、10時から、加東市下久米の県立嬉野台生涯教育センターで生涯大学のサークル「うれしのふるさとたのしみ隊」の皆さんに「東条川疏水に学ぶ」の講演を行った。



この日、20名余りの会員が参加して、午前の講演、午後は東条川疏水の現地見学を実施された。私の講演は、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」で紹介してきた東条川疏水の歴史やエピソード、東条川疏水ネットワーク博物館の活動などを資料にしたものだった。

実は、ちょうど同じ時間帯に、ほっともっとフィールド神戸球場では、夏の高校野球県大会の準決勝戦第一試合、社高校対神戸国際大付属高校戦が行われていた。講演後、インターネット中継で応援した。去年の夏の県大会決勝戦の熱闘の再現のようで、10回延長、タイブレークとなり、10回裏に社高校が2-1で勝利した。第2試合は、明石商業が滝川二高を2-1で破り、

27日の決勝戦は社対明商という公立対戦となった。インターネット中継での校歌斉唱もよかった。

昼には、告别式に参列した。社高校野球部OBだった故人も今日の後輩の勝利に喜んでおられるだろう。

夜は、佐保神社境内にある御大神宮の小宮で、社三区の中田町町内会のお祭りを行った。毎年7月25日にお大神宮さんのお祭りを町内会で続けている。一時は戸数も減っていたが、近年、増加に転じて、子供の数も増えて賑やかになった。話題はやはり社高校の決勝進出だった。

夏の高校野球県大会で社高校が連覇 3連続甲子園の快挙に感激

2023年07月28日

27日（木）、夏の高校野球兵庫県大会の決勝戦が行われ、社高校が明石商業高校と対戦する。11時過ぎに直行した同窓会役員と落ち合い、一塁側スタンドで応援した。



午後1時5分、真夏の炎天下、試合が始まった。ゲーム

は明商が1点を先行すると、社が1点を返し、また2点を入れられると、2点を返すという互いに一步も譲らぬ熱闘が続いた。6回裏、遂に社が1点を入れ逆転した。しかし、9回表に1点を返され同点とされ、さらに満塁、スクイズで逆転という危機を冷静な守備で切り抜けた。その裏、2死からの3連打の反撃でサヨナラ勝ち。応援席は歓喜に包まれた。

何という強さ。去年の決勝戦の神国大付高との激闘、そして、

今年の熱闘。選手のプレーからは勝利への信念が伝わってくるようだった。優勝決定直後から、岩根加東市長、齋藤知事、藤原県教育長はじめ、多くの皆さんからお祝いの電話、メールが続いた。

夏、春、そして夏の3連続甲子園出場は高校野球の球史に燦然と輝く快挙だ。今年創立110周年を迎えた社高校が甲子園に出場する、そんな「夢」をみていたが、夢ではなく、現実のものにしてくれた。

応援から加東に戻り、すぐに学校へ。保護者、先生らと選手等を迎えた。胸に下げたメダルが小さく見えた。

そのあと、同窓会、PTA、野球部OB会、野球部保護者会、学校の5者代表が集まり、甲子園出場応援特別後援会を立ち上げた。これから短期間のうちに諸準備を整え、応援の輪を広げていかなければならない。忙しくなるが、こんな嬉しいことはない。願ってもさせて貰えないお役目だ。

上田地区で4年ぶりの天神祭

2023年07月30日

29日（土）、夕方から加東市上田地区の夏まつりー天神祭りに参加した。各種演し物や飲食コーナー、そして総踊りと、コロナを乗り越え、4年ぶりの祭り（イベント）が盛大に行われた。



また、今日は、加東市社の

B i o隣接のバスターミナルの交流施設H A L Kでは、屋外納涼イベントが、そして、神戸ハーバーランドで加東市のイベントも開催された。

忠魂碑の清掃

2023年07月31日

30日(日)、朝の涼しいうちにと思い立ち、6時から8時前まで忠魂碑の草引きや清掃を行った。

今月はじめに生垣のひらどつじの剪定をしておいたが、碑の垣内の草や台石に生えた木がそのままだったので、引いたり、伐ったりしてきれいにした。

わが国、そしてわが郷土の平和、安全、繁栄は、英霊の尊い犠牲の上に築かれている。このことへの感謝の祈りを捧げつつ、毎年清掃を続けている。



西播磨で農政環境常任委員会の管内調査 農村・農地、林業の未来を開く取り組み

2023年08月02日

7月31日(月)、8月1日(火)の2日間にわたり、農政環境常任委員会の調査が行われた。今年度最初の調査は西播磨地域の農場や営農組合、県立森林大学校などを訪れ、取り組みについて現地調査した。また、中播磨県民センター、西播磨県民局で事務調査を行った。

2日とも真夏の太陽が照りつける猛暑の中だったが、空の青と白い雲、そして地上に広がる水田、



山々の緑が目にしみ込んだ。地域の特性を活かし、抱える課題を克服して地域農林業の持続性、農山村地域の維持に挑戦される取り組みの実際を調査することができた。今後の委員会の活動の参考にしたい。

2日間の調査行程は次の通り。

- 31日：①播州姫路 吉田農場（姫路市安富町名坂）第三者継承の実例
 ②農事組合法人 西治宮農組合（神崎郡福崎町西治）人・農地プラン
 ③中播磨県民センター（姫路市）農林振興事務所、県民交流室の調査
- 1日：④県立森林大学校（宍粟市一宮町）林業の人材育成
 ⑤（株）グリーンファーム揖西（たつの市揖西町）ヒガシマル醤油と連携した大豆、小麦の栽培

1日（火）、県庁から加東に戻り、午後7時から社高校同窓会（尚友会）の役員会を行い、野球部の甲子園出場に伴う特別後援会の応援体制、今後の寄付金募集の取り組みなどについて協議を行った。

社高校甲子園初戦で健闘も敗退

—生徒や市民応援団とともに応援の一日

2023年08月10日

9日（水）、朝、6時前に加東市木梨の社高校には、応援バスが並び、生徒、OB会、保護者会、同窓会、PTAなど学校関係者が乗り込み、甲子園に向かった。市民応援バスは、社、滝野、東条の3ヶ所からも出発し、合計23台が出た。

途中、雨も降ったが、浜甲子園の駐車場に着く頃には空も晴れ、



強い日射しが照りつけた。甲子園まで約20分ほど歩き、入場までの間、アルプス席ゲート前で待機した。市民応援団には、小学生や親子、市外からの同窓生やファンなどが駆けつけ、応援気分は高まった。



いよいよアルプス席に入場し、延長戦になった前の試合を見ながら、社の試合を待った。結局第2試合は予定より50分遅れの11時25分開始になった。試合展開は、社の高橋、日大三校の安田の両エースが好投する

形で展開したが、社打線が安田投手の球をなかなかとらえることができず、一方の日大三校は安打を重ね、1点、1点と得点を入れたが、高橋もそれ以上に得点を許さず要所を押さえる好投をみせた。終盤、2年生の福田投手が救援したが、社打線は爆発することなく2安打に終わり、結局3対0で初戦敗退という悔しい結果に終わった。

アルプス席では、岩根加東市長や藤原市教委教育長、長谷川市議会副議長、齋藤兵庫県知事、藤原県教委教育長はじめ教委幹部、藤井衆議院議員、柳本マルヤナギ社長らも駆けつけ、一緒に声援を送った。

初戦敗退は残念だったが、強豪校を相手に堂々と戦った社高校野球部の健闘を讃えたい。強豪ひしめく激戦区の兵庫大会を勝ち抜きついで甲子園の大舞台。結果は負けたが、それは勝負のこと、必ず勝者と敗者がある。大切なことは、新チームになってか

ら練習に練習を重ね、自分達の野球を作り上げて、選抜、そして、夏の大会と甲子園に連続出場するという快挙をやってのけるまでに強いチームになったことだ。先輩の偉業をさらに引き継ぎ、伸ばしたことだ。創立110周年の節目の年に最高の華を添えてくれたことを、卒業生はじめ、応援して下さった全ての人とともに喜びとし、感謝したい。

日本の夏は、甲子園。その甲子園に郷土の代表として出場し、私たちが甲子園に連れて行ってくれた、夢と期待を与えてくれた社高校野球部よ、ありがとう。あとに続く後輩達が、きっと甲子園での勝利、優勝という夢を繋いでくれることを信じている。

国体近畿ブロック大会ソフトボール競技が豊岡で開催

2023年08月21日

19日(土)、20日(日)の2日間、豊岡市で開催された「特別国体・78回冬季国民スポーツ大会」の近畿ブロック大会・ソフトボール競技に、この大会を主管する兵庫県ソフトボール協会会長として出席し、出場府県の代表らと交流したり、代表チームの熱戦を応援した。



今大会は、21日までの3日間、豊岡市日高町の4会場(植村直己記念野球場、栗栖野、栗栖野中央、名色総合のグラウンド)で行われる。夏の神鍋高原は青い空と緑に包まれ、好天の下、各会場で、成年男子、女子、少年男子、女子の部で熱戦が繰り広げられた。

高原といえども、日中は35度を超えるきびしい暑さの中、選手は一球一打に全力を注ぎ、好プレーを繰り広げた。一方、主管

の県協会として、総務、審判、記録など、大会の準備、会場設営からスムーズな運営、試合の進行、熱中症などへの配慮などに全力を注いだ。ファウルで場外に出たボールをマムシがいるかもしれない林の中に分け入り、探し出す役員さんらの奮闘もあった。

北播磨地域ビジョンフォーラムー表彰や講演、活動発表など

2023年08月24日

23日(水)、午後1時、小野市うるおい交流館エクラへ。令和5年度北播磨地域ビジョンフォーラムが開催された。

開会までに参加団体の紹介ブースを見て回った。社高校生

活科学部の Seica の焼き菓子、北条高校人間創造コースのうずらの班の鶉野飛行場跡展示でガイドブックを購入した。また、うれしの学園大学院コース修了生の、昔の北はりま伝え隊、北播磨アピールかるた隊などの展示も見せてもらった。加古川舟運のジオラマは百円ショップで材料を調達した、との話だった。かるたは、北播磨各地のまつり、景色、特産物などを取材し、写真の取り札と読み札を手作りで30セット作成したとのことだった。市、町のかるたはあるが、北播磨を一つのエリアとしたかるたはないのではないだろうか。

1時30分から始まったフォーラムでは7団体・高校の表彰、丹波市在住で移住相談などの活動を展開している中川ミミ氏の講演、そして、表彰を受けられた団体の活動発表が行われ、最後に



来賓を代表して挨拶を申し上げた。

北播磨を舞台に活動を展開する各団体、グループの取り組みは、どれも北播磨地域の活性化につながるもので、刺激的だった。今後の県政推進の参考になるものばかりで、有意義なフォーラムになった。

農水省と意見交換 兵庫県議会自民党土地改良推進議員連盟

2023年08月25日

24日（木）、兵庫県議会自民党土地改良推進議員連盟の議員7名が上京し、農水省で農村整備の現状や課題について農村振興局と意見交換を行った。

この意見交換会は今回が初めての試みで、毎年の予算要望に加えて、兵庫県における農村整備等の現状や課題について意見交換を行い、農政の推進に役立てようとするものだった。

テーマは、「効率的・効果的な基盤整備」、「持続可能な農村づくりへの農業農村整備事業が果たす役割」の2つで、農村振興局からは、設計課室長はじめ、各関係課の課長補佐、係長ら7名の担当者が出席し、農地整備、食料・農業・農村政策の方向、振興局の予算概要等の説明を受けた。そのあと、県の農地整備課長から兵庫県の現状と課題の説明を行い、意見交換を行った。議員からは、圃場整備、ため池改修、中山間地域の農業、多面的機能、地域計画、そして、私からは東条



川二期工事、東条川疏水ネットワーク博物館の取り組み支援など、地元課題について、意見・質問・要望が出され、予定時間をオーバーするほど熱心な意見交換となった。その後、さらに宮崎雅夫参議院議員、横山事務次官はじめ、農村振興局の兵庫県関係者らと兵庫の土地改良、農村政策について語る会が引き続いて行われた。

新幹線で日帰りの上京だった。帰宅したのは深夜になったが、充実した一日になった。しかし、今日は、早朝から北朝鮮が衛星を発射し、ロシアのプリゴジンが乗った飛行機が墜落、そして、午後には福島第一原発の処理水の海洋放出が行われるなど重大な出来事が集中した。また、エンゼルスの大谷選手が右肘靭帯を傷めて降板したという報道もあり、車中ではそうしたニュースを追いかけた。北朝鮮の衛星はまた失敗に終わり、プリゴジンは死亡したとの報道があった。海洋放出に対して中国は日本の水産物の輸入の禁止命令を出した。大谷選手は今季登板は絶望という。めまぐるしい動きの一日だった。

雷雨で途中中止になった加東市夏のおどり

2023年08月27日

26日(土)、4年ぶりの開催となる加東市夏のおどり、佐保の夏まつり in やしろが、夕方から社中央公園ステラパークで行われる。

午後3時には、ステラパークへ。創立60周年を記念して加東ライオンズクラブが加東市夏のおどりに参加することになり、ブースも設けて、ジュースなど飲み物の販売もすることになり、その準備などで早めに集合した。



ステラパークでは、午後5時から社地域づくり協議会が主催する「佐保の夏まつり in やしろ」が始まった。ステージでは中学校吹奏楽部の演奏、フラダンス、キッズダンス、伝の助音頭が披露され、その後は恒例のビンゴゲームを多くの人が楽しんだ。その間に実行委員長の挨拶があり、来賓として市長や市議さんらと一緒にステージに上がって挨拶をした。

7時からは、加東市夏のおどりがスタート。ステラパーク中央に組まれた櫓の上で、伝統の播州音頭が歌われ、保存会の皆さんが踊りを披露。加東ライオンズクラブはじめ、市内各地域、団体の踊り連が踊りの輪をつくりはじめて順番を待っていた時、大粒の雨が落ち始め、雷が鳴った。みんなは一斉に周囲のテントやステージなどに緊急避難し、止むのを待ったが、雷雨は激しくなるばかりで、遂に実行委員会が中止を決定した。踊りや花火、夜店もこれからという時の雷雨だっただけに誠に残念だったが、仕方がない。4年ぶりの開催で、準備や練習に取り組み、夏休み最後のイベントだっただけに残念だったが、この激しい雷雨には勝てない。雷鳴と空を横走りする稲妻、屋根を叩く激しい雨の音のテントの下でみんなで帰るタイミングをひたすら待つだけだった。

「地域高齢者大学の見直し」で うれしの学園生涯大学で意見交換

2023年08月31日

30日(水)、10時、加東市下久米の県立嬉野台生涯教育センターで、うれしの学園生涯大学の学友会、同窓会などの役員さん約40名と、「地域高齢者大学の見直し」について意見交換を行った。

まず、私から、同センターの指定管理者の公募、高齢者大学の見直しについて、県の計画のポイントについて約1時間話し、そ

のあと、意見や質問に答える形式で、意見交換を行った。

昼食をとりながら、午後1時前まで会が続いた。高齢者大学の見直しでは、現在の4年制、2年制の大学院を令和6年度から8年度にかけて、単年度受講制に移行させていこうとするもの。在学生については、修了するまで現在の形で受講できるが、単年度受講制が並行して行われることになり、同窓会や学友会、支部活動、クラブ活動等がどのようになるのか心配する声があった。また、民間活力の活用で指定管理者公募が行われているが、県がやっている高齢者大学であるという安心感もある、との声や自然豊かな嬉野台での学びの魅力もあり、(他の3地域高齢者大学)一律ではなく、地域特性やそれまでの取り組みを継承できるような形で見直しをやるべきだなどの声もあった。そして、何よりも4年制のよさが失われるのではないか、2年制の大学院も地域活動講座に変わり、無くなるのは残念だとの声も強かった。

現在、県では公募が行われている中での意見交換会だったが、午後1時から県の県民躍動課からの説明があるということだった。在学生の声をしっかり聞いて、高齢者の学びや活動の場である大学の今後にあり方について検討してもらいたい。

産業労働常任委員会の管内調査に地元議員として出席 加東土木の災害怪獣ポスター

2023年09月01日

31日(木)、午後3時には県社総合庁舎へ。産業労働常任委員会が東播淡路地区の管内調査で北播磨県民局を訪れ所管事務の調査を行うため、地元議員として出席した。守本局長、高崎県民交流室長の説明のあと、質疑が行われた。委員からは観光振興、若者の地元企業就職、大阪・関西万博に向けたフィールドパビリオンの取り組み、スタートアップ支援等々について熱心な質疑が

行われた。最後に私から地元議員として挨拶を申し上げた。

社総合庁舎のロビーに、加東土木事務所が作成した災害防止の啓発ポスターが貼られていた。今朝の神戸新聞



の朝刊で取り上げられていたことから、常任委員にも紹介した。災害怪獣「ドセキリュウ」、「ゴウウ」と闘う加東土木事務所、という設定で往年の特撮怪獣映画ポスターを想起させるものだった。

ルールを守らないラジコン機に住民の憤懣

2023年09月03日

2日(土)、11時過ぎに加東市久米地区の方から、またラジコン機がルール無視の飛行をしている、との通報を受けた。さっそく現地に行ってみると、すでに加東警察署の署員がパトカーで出動しており、加東市役所の職員と地区住民の皆さんが見ている前で、地区との協定で決めた範囲を超えた飛行を繰り返していた。(写真上部の小さな点)



今日は飛行の申請も出しておらず、その上、久米地区の集落、住宅の上空を飛行したとのことで、住民の不安と憤懣が噴き出していた。すでに加東市議会でも取り上げられ、度々警察も出動する事態になっている。航空法を所管する国土交通省への通報、対処

要請も出されている。県警、県民局、県当局にもこの問題が上げられており、対応が求められている。その中でのルール違反の行為だけに、住民の憤懣は収まらない。地区との協定を守り、問題があった場合は協議するという項目も今は守られていないという。住民の不安、特に高齢者や女性、子供の不安は大きいと聞いている。こうした安全で平穏な生活を脅かしている状態は解消されなければならない。今後も関係筋に働きかけていく。

農政環境常任委員会で阪神地区の現場や県民局の調査

2023年09月06日

9月4日（月）、5日（火）の2日間にわたって、農政環境常任委員会の管内調査が行われた。今回は阪神地区で、農業や林業、環境などの現場、県民局、県民センターでの調査を行った。2日間の行程は次の通り。



- 4日（月）；三田市認定新規就農者の畠一希氏（三田市志手原）、森を育む市民団体『もりんちゅうの会』（三田市木器）、仲しい茸園（川辺郡猪名川町）、阪神県民局・阪神農林事務所・県民交流室、阪神南県民センター・県民交流室（宝塚市）



- 5日（火）弓削牧場（神戸市北区）、六甲国際ゴルフ倶楽部（神戸市北区）、J A六甲伊川鉢物部会（神戸市西区）、神戸県民センター・神戸農林振興事務所・県民交流室（神戸市長田区）

2日とも好天で、日射しは強かったものの風も吹き、訪れた現場で、説明を受け、現場を見学し、質疑を行った。新規就農し頑張る若き農業者の黒豆畑、里山を守る市民グループの活動、原木シイタケ栽培の課題、超小型バイオマス ガス発生装置を活用した多角的農業経営、木質バイオマスボイラー、年間500万鉢を出荷する鉢物部会のハウスなど、どの現場でも意欲的、先導的な取り組みに質疑も活発に行われ、今後の県政推進に大いに参考となる事例だった。

自民党友好団体との意見交換 夜は社高校110周年行事実行委員会

2023年09月08日

7日（木）、8時45分に登庁。今日は自民党と各種友好団体との来年度予算に係る意見交換会の1日目が行われた。各団体の持ち時間は30分。団体からの説明と出席議員との意見交換が行われた。

12時30分から議運委員長室で議会事務局総務課からのレクを受け、続いて、1時30分から財政課、引き続き警察本部、県民生活部からのレクを受けた。その後は、続けて行われていた友好団体との意見交換会に出席し、午後4時30分から土木部のレクを受けた。

加東に戻り、7時から県立社高校創立110周年記念事業実行委員会に出席した。11月18日に行われる記念式典まで2ヶ月余りとなり、準備は順調に進められている。密な一日だった。

県私学会館開所式 加東市美術協会展

2023年09月16日

15日（金）、10時、加東市下滝野の滝野図書館2階ギ



ギャラリー「伝」で開催された2023加東市美術協会展に。今日から始まり、受付1番乗りだった。貸し切り状態で力作をゆっくり鑑賞することができた。そのあと、市内のこども園に寄って、園長先生と出会った。

11時、事務所で木村加東土木事務所から社会基盤プログラムの改定案等について説明を受けた。現在実施中の事業の継続、完了をめざす内容になっている。

午後2時20分過ぎに登庁。県庁での用件を済ませた岩根加東市長が来室され、しばらく議運委員長室で懇談した。その後も林務課、河川課からレクを受けた。

4時30分、県庁近く兵庫県私学会館へ。建替工事が完成し、新しい私学会館の開所式が行われ、私学振興議員連盟の役員として、同僚議員と出席した。摺河私学総連合会長は挨拶の中で、大阪府の府内私立高校の授業料無償化、兵庫県の県立大学授業料無償化などの動きによる混乱にふれながら、私学が公教育に果たしてきた重要性を強調した。新私学会館の完成により、兵庫県私学の益々の発展を祈念したい。会では、神戸国際大附属高校を経営する学校法人八代学院の八代理事長と高校野球の話題で盛り上がった。

市内小学校の運動会 日本会議兵庫女性の会教育講演会

2023年09月17日

16日（土）、今日は市内の市立小学校で運動会が行われた。各小学校とも午前中開催なので、社小学校を皮切りに福田、滝野

南、滝野東、三草、米田小を駆け足で回った。9月とは思えないような暑さの中で、元気一杯に表現活動の演技をしたり、徒競走を頑張る子供たちに拍手を贈った。



午後1時30分から、神戸市の生田神社会館で開催された日本会議兵庫女性の会の教育講演会に出席し、ご挨拶を申し上げた。講師は防衛問題専門家の桜林美佐氏で、「自衛隊の抱える喫緊の課題」の演題で、緊迫する日本を取り巻く国際情勢、とりわけ中国の軍事力の増強ぶり、自衛隊の防衛力整備、自衛隊員の確保などをデータに基づいて講演された。ウクライナへのロシアの侵略は、侵略意図を抑止できなかったところに原因があり、一旦戦端が開かれてしまうと、現実は今ウクライナで起きているような状況となる。日本に必要なことは、侵略意図を抑止する防衛体制の整備であり、日米同盟を基軸とした多国間の結束だと指摘された。

高校野球の県秋季大会で社高校が初戦の相手、滝川高校を5対2で破ったというメールが入った。明日は創立110周年に向けて同窓会の学年幹事会が開かれる。

6 1回鴨川地区体育祭 社高校創立110周年に向け同窓会学年幹事会

2023年09月18日

17日(日)、今日は昨日に続いて、加東市内のもう1校、鴨川小学校で開催された第61回鴨川地区体育祭を参観した。今年は創立150周年の節目の年に当たり、入場行進では横断幕も入場した。児童の数は少ないが、保育園児、中学生、消防団や家族が

総出の各競技や演技が続いた。また、他の学校とは違って午後の部もあり、体育祭を楽しみにする地区の皆さんの盛り上がりを感じられた。



午後2時から県立社高校同窓会尚友会の学年幹事会が開かれた。創立110周年記念事業実行委員会の報告と寄附集めのお願ひ等について協議した。会の終了後、記念事業として進めていた優勝旗やカップなどの陳列棚の新設、校門を入った左の一角にある栄光の碑の広場に増設した石碑の除幕披露が行われた。

記念式典は11月18日(土)、午前10時から社高校体育館で行われる。記念講演には、大村雅彦氏(中央大学理事長・24回生)が大学での学びと仕事、そして後輩への思いを語る。

社高校のお家芸だった陸上1600メートルリレー。奈良で開催されている近畿高校対校選手権で社高校が大会初の記録で優勝した。こうした母校の後輩の活躍は私らの励みになる。

県公館大会議室で第364回兵庫県議会が開会

2023年09月21日



20日(水)、10時、議会運営委員会が開かれ、追加提出議案の説明、議事日程等の協議を行った。終了後、自民党の議員団総会。そして、10時45分には庁内放送があり、県庁を出て、県公館へと歩いて移動した。

11時から県公館大会議室で本会議が開かれた。初めてのことで、6月議会は3号館7階の大会議室、9月議会は県公館大会議室を本会議場として使用することになっていた。大会議室には、議長席、理事者席、議員席が配置され、



背後には傍聴席の椅子、サイドには記者席が設置されていた。県庁から徒歩、3分、4分の道路2本を渡ったところに県公館がある。4代目の兵庫県庁だった建物で、明治時代の荘重な雰囲気伝える建築で、県関係の公式行事などに使われている。県花のじぎくをあしらったシャンデリアが天井から吊り下がっており、3号館7階の大会議室に比べると天井は高く、部屋も広く、議席もゆったりとしている。今日はメディアが多かったが、傍聴席も70席と、増えている。振鈴も放送ではなく、職員が実際にベルを鳴らして歩いた。

議長挨拶に続いて、開議宣告、会期は9月20日から10月23日までの34日間とすることが決まった。議案が一括上程され、知事の提案説明が行われた。追加議案が上程され、建設常任委員会に付託された。今日はこれで休会し、次回は9月25日に再開される。

昼休憩の後、自民党議員団の各部会政策委員会、続いて、議員団総会が行われた。その後は同僚議員との情報交換や道路保全課への要請などをし、議運委員長室の机上整理などを行った。その後、議事課のレクを受け、4時過ぎに退庁した。

県公館での県議会は、本会議場のある議会棟が、耐震調査で直下型、南海トラフ級の大地震では倒壊の危険があるとの結果が出

たために、統一選挙後の新議会から使えなくなったために、6月議会は3号館7階大会議室を緊急的に使用し、9月議会はこの県公館を試験的に使用することになった。県庁再整備計画が凍結されて、議会棟の建替計画も止まったままの中での措置であり、早急に県議会棟の建替について検討を行わなければならない。

社高校の体育大会 はじける若さに拍手

2023年09月22日

21日（木）、朝の登校見守りに立ち、その後、社高校へ。今日は体育大会が行われた。

8時45分開会。グラウンドに設けられた保護者席には、多くの保護者が参観した。

選手宣誓では、「創立110



周年の記念すべき年の体育大会として」の言葉もあり、活躍めざましい社高校生の心意気を表していた。各種目では、生徒の声援と笑顔、歓声が溢れる体育大会になった。

国旗、県旗、校旗の掲揚では、生徒席から君が代を斉唱する生徒の声が聞こえた。また、応援合戦では、体育科、生活科学科、普通科が心と力を合わせ、9つの色組の思いをグラウンド一杯に表現した。

そうした体育大会を同窓会役員らと参観しながら、50年余り前の体育大会のことが話題になり、生徒主体の、そして、自ら楽しむという姿に感慨一入だった。

県政資料シリーズ第Ⅸ集では、歴史ブログに投稿してきた県立社高等女学校の記事をまとめて紹介した。そこには、戦前の昭和前期の女学校の運動会や体操などの写真も紹介した。今から90

年ほど前のものだが、まだ、学校が現在、裁判所となっている場所（加東市社の市街地）にあった時代の話だ。もし、当時の先輩が生きて、今日の体育大会を観られたらどんな思いを抱かれるだろうと想像もした。男女共学となり、体育大会を楽しむ若人の姿に、きっと笑顔で声援を贈っていただけるのではないかと思った。

加東市山田錦乾杯まつり、東条山田錦探訪ウォーク

2023年09月25日

24日（日）、快晴の青空が広がり、心地よい風が吹く。まさに秋晴れの一日だった。

朝、8時30分から加東市河高の夕日ヶ丘パークゴルフ場で、加東市ふれあい球技大会パークゴルフ大会が開かれ、各地区から17チームが出場し、緑のゴルフ場でプレーした。開会式までに出場チームの皆さんに挨拶をして回った。久し振りにお出会いする方も少なくなく、話が弾んだ。

開会式が終わると、今度は加東市岡本のとどろき荘へ。加東市の西から東へと国道、県道を車を走らせた。9時前に到着。東条山田錦探訪ウォークが5年ぶりに開催され、200名の参加者が出発式に臨んだ。ちょうど彼岸花も咲きはじめ、頭を垂れて黄金色に色づき始めた東条特A地区の山田錦の田圃風景や東条川疏水の曾根サイフォン、安政池などの景色を楽しみながら加東市社の乾杯まつりの会場となっている社中央公園ステラパークまでの約11キロのコースを歩いた。参加者の中には、守本北播磨県民局長、高齢者大学うれしの学園生涯大学関係者、知人らの顔もあり、出発まで話が弾んだ。

ウォーキングを見送ったあと、車で社に戻り、加東市山田錦乾杯まつり会場へ。参議院議員加田裕之氏と一緒に会場を回り、参加者や蔵元、実行委員会への挨拶をして回った。会場には、加東

市産の山田錦を使って日本酒を造っている全国の蔵元のうち、北は宮城県、西は山口県から、20の蔵元がブースを並べた。それぞれ、数種類の酒を出しているのので、全部飲んでまわると、全国の銘酒70数本を堪能できる。私も数種いただいたが、どの酒もまさに絶品だった。

12時30分からステージで加東市山田錦乾杯まつりの鏡割、乾杯行事が行われ、山田錦日本酒大使に委嘱された吉田類氏らと主催者、来賓が鏡割を行い、会場の参加者等と一緒に乾杯。その後も会場を回り、村岡県会議員（三木市）、まつりを楽しんだ。



今年春に昨年開催できなかった乾杯まつり2022をやったので、今年2回目の乾杯まつりになった。このまつりは、何回あってもいいまつりだと思った。いよいよこれから各神社の秋祭り、そして稲刈りが始まり秋本番となる。いい一日だった。

一般質問3日目 決算特別委の設置 知人の傍聴

2023年09月29日

28日（木）、今朝も早い時間に家を出て、県庁に着いたのは8時30分頃。9時から議会運営委員会で、今日の議事について協議を行った。来週から10月に入るため、服装についても申し合わせを確認した。

9時15分から自民党議員団総会。9時45分には庁内放送が流れ、県公館へ移動を開始した。初めての県公館での本会議は今のところ特に問題もなく実施できている。今日は、傍聴席に地

元加東市からの知人の姿があった。朝7時前のバスで来られたとのことだった。写真は、議運室から見える県公館。



一般質問3日目のトップバッターは自民党の吉岡たけし議員（神戸市垂水区）。瀬戸内海の漁獲量復活へ県のなすべきこと等を質した。傍聴席には県漁連関係者の姿があった。続いて維新の佐藤良憲議員、昼食をはさんで、無所属の小林昌彦議員、維新の大矢卓志議員が質問に立った。休憩の後、自民党の大前はるよ議員（西宮市）が一般質問の最後に登壇し、県立大学の無償化方針に対して、その政策的意義等について質した。昼の時間に議事課のレクや自民党議員団の総会などが行われた。一般質問が終局し、自民党の橘秀太郎議員から決算特別委員会設置の動議が出された。コロナ禍では、動議の声も控えめだったが、今日は久し振りに大きな声が議場に響き渡った。このあと、決算特別委員が選任され、休会が宣告された。加東市の知人は本会議の議事を最後まで傍聴。仕事が休みの今日一日を県議会の傍聴にあててくれたその熱意に敬意を表した。県公館での本会議の感想は、意外に広く、議員席も近くて臨場感があった、とのことだった。

午後5時から神戸市内で、美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会の役員会に出席した。

榎倉香邨氏追悼作品展鑑賞—加東市ギャラリー「伝」で

2023年10月03日

2日（月）、10時過ぎ、加東市下滝野の加東市滝野図書館2階のギャラリー「伝」へ。

先月27日（木）から開催されている「榎倉香郵氏追悼作品展―郷土の名墨」を鑑賞した。

榎倉先生は、昨年1月にお亡くなりになったが、ご遺族から多くの作品が加東市に寄贈された。



生誕百年にあたる今年、先生を追悼し、作品展の開催になった。先生は兵庫県文化賞はじめ、日本芸術院賞、勲四等旭日小綬章、県勢高揚功労章、加東市文化賞（荣誉賞）など数々の受賞をされてきた。ギャラリー「伝」には、24の作品が展示され、今週5日（木）まで開催されている。

大リーグのエンゼルスの大谷翔平選手の本塁打王が決定した。今年はWBCからずっと大谷選手の大活躍が続き、いつも心が躍った。右肘の手術で途中で欠場となったが、それでも本塁打王に輝いた快挙は本当に嬉しい。おめでとう、ありがとう、大谷選手。

4年ぶりの佐保神社秋祭り本宮 コロナを乗り越え、人も街も蘇る

2023年10月09日

8日（日）、朝から空模様が気になるなか、佐保神社秋祭りの本宮を迎えた。9時には町内巡行が始まり、10時15分から本町通りでの子供曳き、神輿を先頭に新町、上中、上組、下組の4台の屋台が並んでの巡行と4年ぶりに社の市街が祭り一色に輝いた。

12時40分には明治館から参道へ進んだ。この頃から雨がぼつりぼつりと落ちはじめ、止むなく透明合羽を屋台に着せての宮入りとなった。

午後1時から順に宮入り。境内は宮入りを見る多くの人で埋まっていた。その中を、伊勢音頭で威勢良く練りながら屋台の宮入りが続き、4年ぶりの祭り気分が高まった。舞殿での大門地区の獅子舞披露に続き、屋台が拝殿前に横一列に並んでの4台練りが行われ、祭りはクライマックスに達した。4台練りが終わり、屋台が順番に下向して、雨の中をそれぞれ倉に向かって帰っていった。



午後4時頃には上組屋台も倉に戻って、令和5年の秋祭りを無事終えることができた。祭りは地域の人々の心と街を明るく元気にする。コロナ禍でそのことを再認識した。再来年には、佐保神社本殿の修復工事も終わり、さらに盛大に祭りができるように心に誓い、今年の祭りの幕が下りた。

県立播磨中央公園サイクリングコースグランドオープン

2023年10月10日

9日（月）、朝方まで降っていた雨も止み、10時頃には青空と白い雲の間からまぶしい日が差した。

そんな中、“晴れて”整備中だった県立播磨中央公園（加東市下滝野）のサイクリ





ングコースのグランドオープン式典が行われた。

このサイクリングコースは播磨中央公園のリノベーションの一環として、平成3年度から整備をしてきたもので、歩行者の安全を図る遊歩道と分離し、サイクリングとウォーキングが楽しめる全長7.2キロの日本最長級の常設サイクリングコースになっている。3年前にはサイクルステーションが整備され、今回のコースと一体的に利用することができる。また、「ふじいでんこうサイクルランド」や野外ステージ跡にはBMXの広場も整備が計画され、今後、サイクルスポーツの拠点としてとして、多くの人々から親しまれ、利用されることになることを期待したい。

今日の式典では片山副知事、藤井衆議院議員、地元県会議員として私が、そして岩根加東市長、兵庫県自転車競技連盟会長の石井秀武県会議員が挨拶。また、播中公園の管理運営協議会の阿江会長が遊歩道の完成を祝って挨拶をされた。式のあと、BMXの演技、テープカット、くす玉割りが行われ、さっそくサイクリストの皆さんが自転車でコースを試走した。

阿江会長が挨拶の中で「皆さん、このサイクリングコース、遊歩道のあった場所は元々どんどころだったかご存知ですか？地元の人も入らない山でした。半世紀が経ってこんなに素晴らしいコースができたことに感慨一入です」というようなことを話された。播中公園はまだまだ整備が続く。さらに半世紀後、どのような姿になっているだろうか。

中東パレスチナでイスラエルとハマス（イスラム）の激しい戦闘が起きている。ハマスがイスラエルを急襲し、これに対してイ

イスラエルが報復攻撃をした。双方とも1、2千人の死者が出ているとも伝えられている。ニュース映像では侵攻したハマ스에捕られ連行される女性や空爆で破壊されるガザ地区の市街の様子などがその激しい戦闘のようすが伝えられている。3、4千発のロケット弾が飛び交う映像は恐怖である。イスラエルのネタニエフ首相は、戦争状態と宣言し、ハマスを潰すと公言した。ウクライナとロシア、イスラエルとハマス。中東でついた火が世界に広がらないようにと思う。日本を取り巻く東アジアの安保環境は世界で最も危険な状態にある地帯だと言われている。「ミサイルはE E Zの外に落下したようです」などと言っておれないはずだ。

地域安全兵庫県民大会

2023年10月17日

16日(月)、登庁後、昼の時間に県民生活課から報告を受けた。ヘルメット購入補助について意見、要望を伝えた。

午後1時から県公館で行われた令和5年度の「地域安全兵庫県民大会」に出席



した。オープニングの県警音楽隊が懐かしい童謡やドリフターズの曲を演奏。その間に特殊詐欺対策の歌もあった。県警の「だまされたふり作戦」を逆用する新手の詐欺も起きているという。(写真)

今年は、地元加東市関係の表彰団体・者はなかった。日々、子供の見守りや交通安全、防犯にボランティアで活動していただいている団体、個人に表彰状が贈られ、大会宣言が採択された。

その後、夕方まで議運委員長室で執務した。自民県連、議事課、警察本部との打ち合わせや報告などが続いた。決算特別委員会は今日が部局審査の最終日だった。

夜、緊急地震速報が鳴った。宮古島辺りだったが、あの緊急音が鳴ると身構える。いつ、南海トラフ巨大地震が起きるかわからない状況にあることが頭に浮かんだ。先日、県庁近くの道路で人と防災未来センター長の河田恵昭先生とぼったり出会った。首都直下、南海トラフの巨大地震で、国難級の災害が起きると警鐘を鳴らし続けておられる先生と出会った直後でもあったため先生の顔も浮かんだ。

自衛隊潜水艦「らいげい」進水式

2023年10月18日

17日（火）、川崎重工神戸工場（神戸市中央区）で海上自衛隊の最新鋭潜水艦の命名式・進水式が行われ、県議会防衛議員連盟会長として出席した。



議長の時にも潜水艦「はくげい」の進水式に出席した。今回はその「たいげい型」の4隻目で、「らいげい」と命名された。全長84メートル、幅9メートル、高さは10メートル。排水量3000トンの船体は巨大で迫力があつた。旭日旗、国旗等で飾られた潜水艦が軍艦マーチと拍手で進水していく光景に立ち会うと気持ちも高揚する。令和2年度に発注され建造されたもので、令和7年3月に艤装を終え、防衛省に引き渡される。式には三宅防衛政務次官、齋藤知事、久元神戸市長の他、海上自衛隊幹部、関係者ら多数の来賓、従業員

家族らが出席し、潜水艦の命名・進水を見守り、祝福した。海に囲まれた我が国では、潜水艦は海の国境の守りの最前線で活躍する重要な存在である。また、その優れた性能は世界でも抜きん出ている。現在は、女性自衛官も潜水艦に乗り込んでいる。進水式のような写真は写真撮影はできないので、報道写真を借用した。

決算特別委員会総括審査

2023年10月19日

18日（水）、8時30分過ぎに登庁。農産園芸課から、藤川禎次特別賞の案について説明を受けた。酒米山田錦の生みの親である県酒米試験地の主任研究員だった藤川禎次さんの名を冠した特別賞がようやく実現の段階になった。酒米生産振興にとって意義がある賞だ。

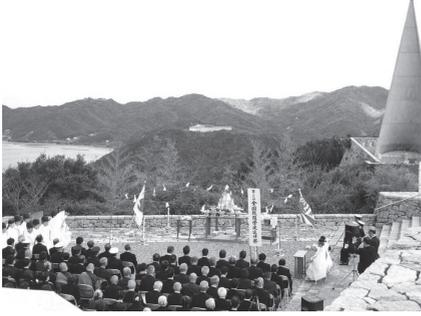


今日は、秋晴れの一日。週後半には天気が崩れるとの予報もあり、今日明日に残りの稲田の稲刈りも一気に行われそうだ。

第29回全国戦没学徒追悼祭に全国唯一の 戦没学徒慰霊施設「若人の広場」(南あわじ市)で

2023年10月22日

21日（土）、今日は「学徒出陣の日」。早朝のウォーキングで、社の明治館前広場の忠魂碑前で祈りを捧げた。そして、南あわじ市にある全国唯一の戦没学徒慰霊施設である「若人の広場」公園で営まれた第29回全国戦没学徒追悼祭に参列し、先の大戦で学業半ばにして出陣、動員され亡くなられた約20万学徒の御霊を追悼し感謝の祈り捧げた。学徒出陣80周年の一日だった。



昨日の前線通過により寒気が流れ込んで、南あわじ市阿万の大見山上は海からの強い風が吹き、時折り日が差すものの空は雲に覆われていた。

追悼祭には、追悼する会の代表の永田秀一先生（前県議会議員）、幹事長の本名孝至宮司（伊弉諾神宮）はじめ、加田裕之参議院議員、県議会の自民党の同僚議員、市議会議員、地元淡路の市長、兵庫県知事（代理）、自衛隊、日本会議、遺族会、神社、仏教、

キリスト教関係などの各団体から多くの参列者があり、神道の作法に従い、全国神道青年協議会の神官により厳かに齋行された。

今から80年前の昭和18年（1943）10月21日、東京の明治神宮外苑競技場で、出陣学徒壮行会が開かれ、約7万人の入隊学生が集まった。戦後、昭和42年に淡路島の南端、福良湾を見下ろす大見山に戦没学徒約20万人の御霊を慰霊する施設として建設されたのが、若人の広場である。設計は丹下健三氏だ。昭和47年には、皇太子皇太子妃両殿下（今の上皇上皇后陛下）がお越しになった。しかし、阪神・淡路大震災で被災し、その後休館状態が続いた。永田議員はじめ、地元の強い働きかけで、県、市の協力によって再整備工事が行われ、平成27年に現在の都市公園として再開された。

追悼祭の祭壇の向こうには、ペン先を象った記念塔（25メートル）が天を衝くように高く聳え、その上空を数羽のトンビが

舞飛んでた。祭りでは、戦没学徒の御霊に届けとばかり、自衛隊員による喇叭吹奏、巫女さんの舞、仏教界代表による般若心経の読経、キリスト教代表による「海ゆかば」の奉唱の音が響き渡り、宗派を超えて慰霊、追悼の思いが捧げられた。

秋桜晴れの下、河高コスモスまつり

2023年10月23日

22日（日）、朝方は曇っていたが、霧が晴れるように青空が広がり、昨日とは打って変わって暑いぐらいの好天気になった。

9時から滝野総合体育館スカイピアで、家庭バレーボール連盟の大会が行われ、開会式に出席してご挨拶を申し上げた。出場チームは減る傾向にあるが、会長はじめ出場チームのメンバーはいつも元気一杯だ。



続いて、近くの滝野にぎわいプラザで行われる河高地区コスモスまつりへ移動した。開会前だったので、先に県道向かいのコスモス畑へ行き、見事に咲いてまぶしく輝く赤やピンクや白のコスモスの花を楽しんだ。今日の天気は、まさに秋桜晴れになった。

まつり会場では、地区内のグループ、女性団体の皆さんが播州ラーメン、新米おにぎり、蒸しパン、ゼリー、くじ引きなどのブースを出し、特設ステージ（といっても地面に区長さんが描いた絵：写真）では、音楽演奏や特設テント舞台ではマジックが披露された。開会式でご挨拶を申し上げ、ラーメンをいただき、おにぎりとパン、ゼリーはお土産にした。

加東市バスターミナル交流施設のh a l kでは、開設1周年を

記念してイベントが開かれ、多くの人出で賑わっていた。阪神近本選手とゴルフの蟬川選手の手形の展示もあり、大にぎわいだった。

9月定例県議会閉会

議運、代表者会議で議会改革・議場のあり方を検討 政調懇話会・研修会も

2023年10月24日



23日（月）、今日は第364回定例県議会の閉会日。9時過ぎには登庁し、準備を行った。

まず10時から議会運営委員会が開かれ、人事委員会の勧告報告、今日の議事の順序、表決などを協議。

続いて自民党議員団総会が行われ、議運の結果などが報告された。

今日の本会議は県公館大会議室。10時45分の庁内放送で移動を始めたが、今日も晴天でよかった。

11時本会議が開かれ、新任教育委員の宮脇氏が紹介された。大豊康臣決算特別委員長から委員会審査の結果が口頭報告され、討論、表決が行われ、賛成多数で令和4年度決算が認定された。次に請願1件（私立学校への助成の国庫補助制度の堅持、充実を求める意見書提出）、消防団員の確保対策と支援の充実を求める意見書など意見書5件が可決された。

本会議終了後12時15分から、自民党看護を支援する議員の会と看護連盟・協会との意見交換会が行われ、地区別に別れ看護の現状、課題について意見交換を行った。

午後1時30分から、議会運営委員会が開かれ、議会改革の検

討項目、常任委員会のオンライン環境の整備、委員会におけるお茶の提供、委員会、本会議における携帯電話の持ち込み、追加検討項目について検討を行った。

引き続き、各会派代表者会議が開かれ、まず、議会改革について、服装の柔軟化についての各会派の意見の開陳、協議を行った。続いて、同じメンバーで、議場のあり方検討会議が開かれ、12月、2月の定例会の本会議の開催場所についての協議、続いて、現議場棟の免震工事について、当局から詳細な情報提供を受け、検討を行った。

3時30分から政調懇話会・政策法務研修合同研修会が3号館7階大会議室で行われた。今回の研修は、「政策実現のための条例立案のプロセスとポイントについて」の演題で、津軽石昭彦関東学院大学法学部教授による講演を聴いた。地方議会に於ける議員提案条例の制定の意義やプロセスなどについて、事例をもとに話された。つい最近、埼玉県議会でのこども虐待禁止条例の条例改正案撤回という事態があったばかりで、関心も高かった。

とにかく本会議、議運、代表者会議、研修と予定がめいっばいに詰まった一日だった。写真は、県公館大会議室。本会議終了後の片付けが始まる前の仮議場。

加東市パラ伝ピック 東条川疏水を「ボートd e 下る」 東条学園小中学校文化祭

2023年10月29日

28日（土）、10月最後の週末、加東市内ではさまざまな催しが行われた。

10時から滝野総合体育館スカイピアで開催された「加東市ふれあいパラ伝ピック」の開会式に出席した。これまで「パラリンピック」の名称で開催されてきた障害者の運動会だが、今回から



「伝」を入れて改称。これで真に世界でたった一つの障害者運動会になったともいえる。参加者の中には、久しぶりにお出合いする人も少なくないなか、4つの障害の種別を超えて、競技を楽しまれた。障害者がスポーツを通じて社会参加をし、交流するこのパラ伝ピックを支える民生委員さんらをはじめとするスタッフの皆さんに感謝をしたい。

11時には、加東市松沢の安政池の畔へ。東条川疏水をゴムボートで下りながら

学ぶ体験「水路deボート体験」会場となっている。この企画は兵庫県東播土地改良区が中心となり、県の加古川流域土地改良事務所など東条川疏水ネットワーク博物館会議の協力で開催されているものだ。今年は、イモ掘り体験とボート下り体験が行われた。安政池の畔を流れる幹線水路約800メートルをゴムボートに4人で乗り込み、途中、東条川疏水クイズに答えながら学ぶ。出発点では、女子サッカークラブのメンバーによる疏水学習なども行われ、付き添いの保護者も一緒に疏水について学び、その後は水路にそって歩き、安政池の美しい景色も楽しんだ。この疏水体験は、大阪・関西万博のフィールド・パビリオンになっており、万博に向けて、今後の工夫も楽しみになる。

午後1時、加東市立東条学園小中学校の文化祭が行われている

コスミックホールへ。第3回目で、8年生と9年生の合唱、生徒会の謎解き、女子のダンスを参観した。ホールが隣接しているので、保護者・一般向け発表はホールで行われている。クイズは堅い頭では難解だった。

夜、佐保神社秋祭りの上組屋台保存会の「帳破り」が消防会館で行われた。「帳破り」は、祭りの総括、反省会であり、各区長、保存会役員、若鯨会のメンバーが出席した。4年ぶりの祭り、屋台の出番が盛大かつ無事に行われたこと、屋台の修理や乗り子、担ぎ手の確保など、伝統の太鼓屋台の継承について熱い話し合いが行われた。

長い一日だったが、秋季高校野球の近畿大会で、兵庫3位で出場し、和歌山1位の耐久高校と対戦したわが社高校は4対5で、残念ながら初戦敗退した。応援に行っていた同窓会役員からも残念のメールが届いた。負けることもある。目標は高く掲げて、その実現、次に向けてこれからも頑張ってもらいたい。

三木山森林公園30周年

天然記念物コバノミツバツツジの講演を聴講

2023年10月30日

29日(日)、三木市にある県立三木山森林公園の30周年記念イベントが行われ、記念講演を聴いた。

講師は兵庫県立大学の服部保名誉教授で、「天然記念物指定された三木山森林公園コバノミツバツツジの重要性」のテーマで講演された。コバノミツバツツジは加東市の嬉



野台地にも多く自生しており、やしろの森公園でも春を彩っている身近な植物だったので、この講演テーマに惹かれた。

服部先生は、まず天然記念物は文化財である、との説明から始められ、本年4月に三木市が森林公園のコバノミツバツツジの群落を天然記念物に指定したことは、この森の生態を守っていく上で非常に大事なことだと評価された。温暖化が進み、常緑樹が成長すると森に光が入らずコバノミツバツツジのような低木は絶えて荒廃するというメカニズムを分かりやすく示され、そのためには人の手による伐採が必要で、光が入るようにすると森は再生するとの実例をあげて話された。また、ツツジの種類についてもこんなにあるのかと驚くほど多く教えていただいた。何気なく見ていたものだったが、ぜひ嬉野台地のコバノミツバツツジも加東市の天然記念物として指定し、嬉野台地の自然を守っていききたいという思いを強く持った。

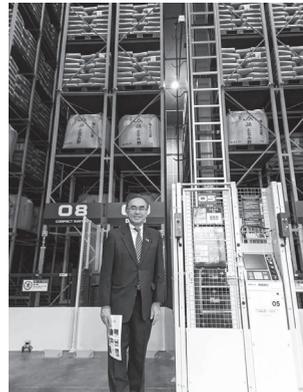
農政環境常任委員会で北陸・滋賀県へ調査

2023年11月02日

10月30日(月)～11月1日(水)の3日間、農政環境常任委員会の管外調査で、北陸(石川県・富山県)と滋賀県を訪れ、県議会や農業法人などの現場で調査を行った。主な日程は次の通り。

◆10月30日(月) ①安井ファーム：
石川県白山市、水稲単一栽培から、大豆、ブロッコリーなどの栽培へと複合経営へ転換し、北陸最大級となっている。

◆10月31日(火) ②なたうちふるさとづくり協議会：石川県



七尾市、人口減少、高齢化の危機に直面する地域の活性化に取り組んできた協議会の歩み、成果、課題などを調査。

- ③ J A と な み 野 稲 種 セ ン タ ー： 富 山 県 砺 波 市、 富 山 県 の 種 も み の 栽培、保存、全国への提供を行っている。自動ラック式倉庫も見学。

- ◆ 11月1日(水) ④滋賀県議会：滋賀県大津市、「しがの農業みらい条例」について調査。



- ⑤リッチグリーン：滋賀県栗東市、小松菜などを栽培し生協を中心に安定出荷する。集荷、出荷施設、ハウスなどを見学。

今年の委員会の特定テーマに沿った調査で、農業を通じた地域の活性化、新たな農業経営の実際、県条例による農業の活性化促進などの実例を調査することができた。それぞれの調査地では、中心となって農業に取り組む方々からは、農業や地域活性化への情熱や行動力が伝わってきた。天気にも恵まれ、充実した調査を行うことができた。今後の委員会活動に活かしていきたい。

12月議会1ヶ月前議会運営委員会 議会のペーパーレス化検討小委員会

2023年11月03日

2日(金)、8時30分には、稲尾地区の区長さん宅に県政資料を届けた。その足で県庁に向かう。登庁後、さっそく電話連絡や来客対応、机上整理などを行っていた最中、庁内放送で緊急地震放送があった。管外調査中に近畿地方で地震があったばかりなので、すわ、南海トラフが来たかとテレビをつけたが、訓練通報だとわかりほっとした。しかし、訓練は何度でも繰り返してや

おく必要がある。訓練なしに適切な対応は困難である。消防団員としての体験からも確信を持っていえることは、体が覚えるまで訓練しておけば、実際の火事現場等で自然に体が動くということだった。

11時30分から、議会のペーパーレス化検討小委員会が開かれ、議員が使用する次期端末機の機種選定について、各党派意見を出し合い、協議の結果、まとめることができた。昼前に財政当局から6年度当初予算編成方針のポイントについて説明を受けた。

午後1時30分から12月議会1ヶ月前議会運営委員会が開かれた。会期、提出予定議案、質疑質問順等を協議した。また、ペーパーレス化検討小委員会の結果報告がなされた。

午後2時から自民党議員団総会が開かれ、議場のあり方検討会議で示された現議場の免震工事例についての説明や議運の結果報告などが行われた。

午後3時30分からは、自民党議員団の勉強会が行われ、教育委員会から第4期教育創造プランについての概略説明を受けた。今日は、これら諸会議の合間を縫って、県民躍動課、議会事務局総務課からのレクも受けた。

11月に入ったというのに、窓を開け放って外気を通すほどの、暑い日だった。明日は、文化の日。明治天皇の誕生日であり、戦前は明治節と呼んでいた。加東市では、加東ライオンズクラブの結成60周年記念式典がやしろ国際学習塾で開催される。

加東ライオンズクラブ結成60周年記念式典 記念自衛隊音楽隊演奏会に多くの市民

2023年11月04日

3日（金）、文化の日。朝、玄関に国旗を掲げる。

今日は、加東ライオンズクラブの結成60周年記念式典と記念

音楽会が加東市上三草のやしろ国際学習塾L O Cホールで行われた。クラブメンバーは現在42名。私は平成19年に入会している。

午前8時30分にはクラブメンバーが集まり、リハーサルや陸上自衛隊第3音楽隊の迎え入れなどの最終準備を行った。ホールステージには、加東市の花のコスモスの花が飾られた。

午後1時30分式典が始まり、60年の歩みが映像で紹介された。ホール正面には県立社高校書道部による感謝の文字が大書された幕が掲げられた。式典には、加東ライオンズクラブが所属する地区ガバナーや地区内の各クラブの代表らが出席し、60周年を祝った。写真はリハーサルのような様子。

午後3時から第二部のアトラクションとして、陸上自衛隊第3師団第3音楽隊（伊丹市千僧）の演奏会が行われた。会場には、加東市民ら多くの一般客が入り、音楽隊の演奏に聞き入った。加東市在住の保科洋氏作曲の「風紋」や加東伝の助の歌、マツケンサンバなど加東市ゆかりの曲や楽しい曲に会場からは盛大な拍手がおくられた。



加東市中学親善軟式野球大会 北播磨「農と食の祭典」に

2023年11月05日

4日（土）、午前7時30分過ぎ、霧に包まれた加東市高岡のグリーンヒル・スタジアムに。今日は加東市長杯第18回加東市中学親善軟式野球大会が開催され、大会を主管する加東軟式野球協会の会長として歓迎の挨拶を申し上げた。大会には、各市町で



優勝した8チームが出場した。このうち、3チームが合同チームだった。今日、明日の2日間、優勝をめざして戦いが繰り返される。

10時前には、「かじやの里メッセみき」（三木市福井）へ。令和5年度北播磨「農と食の祭典」が開催され、そのオープニングの鏡割に出席した。



会場には、オープニング前から多くの人々が訪れ、北播磨の生産者、グループや

高校生が米や野菜、巻き寿司や加工品、菓子などを販売したり、杉原氏の紙すき体験や北播磨産の山田錦の日本酒のブースが並び、販売や試飲を楽しんだ。ちなみに鏡割の酒樽の中身は牛乳パックだった。

4年ぶりの加東市秋のフェスティバル 県立播磨中央公園周辺を舞台に賑わう

2023年11月06日

5日（日）、朝8時30分、加東市河高の滝野総合運動公園グラウンドで、第18回加東市ふれあい球技大会の開会式が行われ出席した。今日は、その1週目で、卓球、ペタンク、ゲートボールの3種目が行われた。

9時過ぎには、近くの下滝野の加東市アート館前へ移動。4年ぶりに加東市秋のフェスティバルが開催された。これまで会場は

社中央公園ステラパークだったが、今年は、菊花展はバスターミナル交流施設halikで、イベントは、改修が進められている播磨中央公園、加東アート館などの施設がある滝野地域交流センター周辺で開催された。



まず、釣針協同組合の釣り体験場へ。特設プールで岩根市長、藤井商工会長と私の3人が釣り始めを行った。9時40分には、アート館前の階段広場に特設の野外ステージでオープニング式が行われた。

10時から図書館の2、3階で展示されている絵画、生け花を鑑賞。地域交流センターのロビーでの商工会女性部のおひな様体験コーナーも賑わっていた。その後、滝野公民館でお茶席で接待を受け、続いて、野外ステージで和太鼓夢工房の演奏を見学した。階段に腰掛けていたが、とても11月とは思えない暑さだった。

その後は、午後1時前まで播磨中央公園に隣接した臨時駐車場会場へ。ここでは、約50の出店ブースがあり、飲食から市内の企業、事業所、グループ、団体などに加えて、子供達によるあきんどキッズの出店も設けられた。ちょうど昼だったので、播州ラーメンをいただいた。

午後1時、地域交流センターのホールでは加東市文化連盟祭の芸能発表会が開演した。社吹奏楽団の演奏から、民踊、舞、播州音頭踊り、オカリナの演奏と、次々と発表が行われ、観賞した。ホール内は空調があり快適だったが、外は夏日の暑さ。ロードトレインが播中公園を走り、サイクリングコースではロードバイクレースも行われた。

4年ぶりの加東市秋のフェスティバルは、会場も変わり、広い会場でさまざまなイベントが開催された。新しい出会いやコロナ後の懐かしい出会いも多く、元気な加東市の鼓動を感じる一日だった。

この日、嬉しいニュースが続いた。加東市ゆかりの2選手の活躍だ。ゴルフでは蟬川泰果選手、プロ野球では阪神タイガースの近本光司選手だ。加東市のA B Cゴルフ場で開催されたマイナビA B Cチャンピオンシップで蟬川選手は猛烈な追い上げで3位、近本選手は日本シリーズのM V Pに輝き、38年ぶりの阪神優勝の立役者となった。同郷、同窓の若い人の活躍は、やっぱり嬉しくなるし、元気が湧いてくる。きっとその次の子供達の夢も育んでくれる。

農政常任委員会で東播淡路地区の管内調査 元気な若手新規就農者や農業ビジネス

2023年11月09日

7日(火)、8日(水)の2日間、農政環境常任委員会の管内調査で、東播と淡路地区を訪れ、県民局での事務調査、農業と漁業の現場調査を行った。2日とも好天に恵まれ、若手の新規就農者や農業ビジネスを展開する元気な農業者から農業の新しい姿を見ることができた。日程、調査先は以下の通り。



- ◆ 7日(火) ①北播磨県民局・加東農林振興事務所・県民交流室(加東市):事務調査、②富久錦(加西市):フィールドパビリオン認定の酒蔵見学、③若手新規就農者藤本圭一朗氏(加西市)による山田錦、黒大豆新品種ひかり姫、サトイモの栽培と

加工、④県立農林水産技術総合センター（加西市）：研究成果、施設見学、⑤県立水産技術センター、兵庫のり研究所（明石市）：県産海苔生産、新技術開発、施設見学



- ◆ 8日（水）⑥東播磨県民局・加古川農林水産振興事務所・地域振興室（加古川市）：事務調査、⑦北播磨先端フォーラム（淡路市）：オーダーメイド型の国営農地盤整備事業、農業ビジネスの展開、⑧淡路県民局・洲本農連水産振興事務所・交流渦潮室

2日間で8ヶ所を訪れる盛り沢山な調査だったが、地域の気候や風土に適した農作物の栽培と日本酒、冷凍加工などに意欲的に取り組み、新しい農業のあり方を模索する若手の新規就農者や経営者、農業ビジネスの展開など、新しい農業のあり方を実際に見ることができ、充実した調査だった。特産の山田錦、新品種黒大豆のひかり姫、兵庫のりなど、豊かな農業県兵庫の最前線で活躍する県職員や若手農業者との出会いに元気を実感する2日間だった。今後の委員会活動の参考にしていきたい。

今日も諸行事に一球技大会・いけばな展 パワーリフティング・加東フィル演奏会

2023年11月13日

12日（日）、今日も加東市内では様々な催しが行われた。

8時30分、滝野総合運動公園グラウンドで行われた加東市ふれあい球技大会の開会式に出席した。先週につづいて、今日はグラウンドゴルフ、バレーボールの部が行われ、多くの市民が出場し、日頃の練習の成果を競った。



10時、やしろショッピングセンターBioの2階で開催された末廣流いけばな展を鑑賞した。いけばなには木に宿る命の流れが表現され、伝わってくる。ゆっくりと鑑賞させていただいた。

続いて、加西市の鶉野飛行場跡で開催された2023ばかぢから大会に。加東市の雷神ファクトリーが加西市のスポーツ推進イベントで行っているもので、パワーリフティング大会、ボクシング体験教室が開かれた。

午後2時からやしろ国際学習塾L.O.C.ホールで開かれた加東フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会を鑑賞した。コロナ禍の間は練習や演奏会ができなかったが、昨年開催、そして今年も素晴らしい響きを奏でた。混声合唱団の歌声、そして60余名が演奏する交響曲、アンコール曲に拍手が鳴り止まなかった。まさに「このまちには加東フィルがある」だった。

この他、加東市内では、県立播磨中央公園でBMXのコンテストや加東バスターミナル交流施設hal kでのイベントなど多彩な催しが行われた。コロナ禍でこうした賑わいが長く見られなかったが、ようやく戻ってきたことを実感する一日だった。

兵庫県立社高等学校創立110周年記念式典・講演会 110周年のその先へ一歩踏み出す

2023年11月19日

18日(土)、空は晴れて青空が広がっているが、まるで真冬のような寒風が吹く朝になった。

今日は、社高校の創立110周年記念式典と講演が行われた。

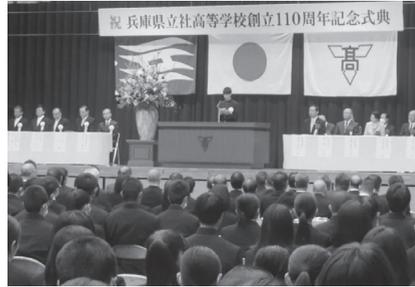
これまで、実行委員会を重ねて準備をしてきたが、いよいよ本番の日を迎えた。

8時30分には同窓会役員が集合。PTA役員、教職員、在校生がそれぞれ役割分担にしたがって配置についた。

10時から体育館で式典が始まった。式典には、藤原教育長、岩根加東市長、藤井衆議院議員、村岡、小林県議、歴代校長はじめ、教育、行政、地元団体などから多くのご来賓をお迎えして盛大に挙行された。

中井校長の式辞、岩根市長の祝辞、記念品贈呈、実行委員長からの私から謝辞、PTA会長挨拶、生徒代表よこびの言葉が続き、最後に校歌を斉唱して無事終えることができた。

二部として、大村雅彦中央大学理事長（24回生）が「大学での学びと仕事—井蛙の歩みと後輩に贈る言葉」と題して、自らの学問研究への道を振り返りつつ、広く世界へ雄飛する人となってほしい」と講演。大村氏とは幼友達でもあり、同級生が法学の、大学経営のトップとして活躍していることから、ぜひ、後輩を激励する話をしてもらいたいとお願いしたところ、多忙なスケジュールを工夫して母校での講演が実現した。本人も半世紀を過ぎて、まさか母校でこうした講演の機会を得るなどは夢にも思わな



ったと感想を述べ、野球部の甲子園出場では母校の名が全国に轟いたことを誇らしく思ったとも述べた。井蛙は井の中の蛙のことで狭い世界しか知らないことをいうが、続きがあって、されど空の青さ、深さを知るといことばがあり、極めるということもあると、指摘。なるほどと思った。

今日の記念式典、そして記念事業として、記念誌の発行、栄光の碑の増設、優勝旗、カップなどの陳列ケースの増設などを行った。また、今日は地元コーヒー店と共同開発した社高校オリジナルコーヒーも記念品に加わった。甲子園出場、そして110周年と、この1年で4回も寄附のお願いをしてきたが、皆さんから応援をいただいたお陰で今日の日を迎えることができた。感謝しかない。

県庁加東クラブ総会

4年ぶりに開催、県と市の人の繋がり深める

2023年11月20日

19日(日)、加東市上滝野の闘龍灘を望む滝寺荘で、県庁加東クラブの総会・懇親会が開かれた。コロナ禍のために4年ぶりの開催となったが、加東市に縁のある県庁職員、市役所職員、県民局幹部ら35名が出席した。



顧問の私、岩根市長が挨拶をしたのち、総会が行われ、前会長の平野正幸氏が挨拶、新会長に石田勝則中播磨県民センター副センター長が選任された。

懇親会では、全員がスピーチを行い、所属部署や、住まいなど

自己紹介が続いた。この会でご近所さんだったことがわかったり、同級生だったり、私の教員時代の教え子だったりという楽しい出会い、発見もあえい、また、それぞれの課題についての情報交換も行われたようだった。

県庁加東クラブは、故中村敏明県会議員の時代に加東郡人会があった ということで、その後はそうしたクラブがなく、平成24年に当時の県幹部の平野氏、岩根氏らと話し合っって県庁加東クラブを立ち上げたもの。神戸と加東を交互に会場として続けられてきた。今日は、景勝の地、鬮龍灘も明るい日射しに白波が輝いていた。県政、市政を共に担う人材が繋がりを深めていくことを今後も大切にしていきたい。

伊弉諾神宮参拝と樋口季一郎中将の銅像見学 自民党加東市支部の移動研修

2023年11月23日

22日(水)、雲一つない晴天の広がるなか、自民党加東市支部の移動研修会が行われた。

訪問地は、日本最古の神社、伊弉諾神宮(淡路市)。正式参拝をさせていただき、本名孝至宮司のご挨拶もいただいた。



そのあと、昨年、神域の淡路祖霊社の前に建立された樋口季一郎中将の銅像を見学した。淡路島出身(南あわじ市阿万)の樋口季一郎は、ハルビン特務機関長時代に迫害から逃れてきたユダヤ人を人道主義に基づいて救出し、およそ2万人の命を救った。また、キスカ島撤退を命じて5000人を無事帰還させた。終戦時には、千島列島に侵攻をしてきたソ連軍に対する戦闘を命じ、北海道占



領の野望を防いだ。

午後は、南あわじ市阿万の大見山の山頂にある「若人の広場公園」を見学。眼下に福良湾、そして鳴門大橋を遠望することができる。約20万人の戦没学徒の慰霊施設建設

の経緯や展示品（樋口中将の軍礼装など）の説明を聞いた。汗ばむほどの好天で、眺望は抜群だった。

今日のわが国の平和と繁栄の礎は、こうした先人の尊い犠牲によって築かれている。そうしたことに思いを馳せ、感謝し、祈りを捧げることが大事なことだと思った。明日は勤労感謝の日。新嘗祭である。伊弉諾神宮では、今日は夜を徹して神様に奉仕をすると話されていた。

東条川疏水ネットワーク博物館活動発表会 天神地区敬老会や和心書道展に

2023年11月24日

23日（木）、朝、玄関に国旗を掲げた。今日は、勤労感謝の日、新嘗祭の日だ。少し曇っていたが、今年最後の旗日に日の丸が鮮やかだった。

10時前、加東市天神地区の敬老会に出席し、ご挨拶を申し上げた。また、県政報告シリーズ第X集をお届けした。敬老会には75歳以上の高齢者約40名が参加され、マエストロ足立さんの楽器パフォーマンスを楽しまれた。身の回りのものを楽器



にしての演奏とトークで会場は笑顔と拍手に包まれた。古い箒もゴムホースも給油ポンプも笛になる楽しさだった。

11時、やしろショッピングパークBio2階の多目的ホールで開かれた第49回和心書道展に。小野里先生ご夫妻の作品はもちろん、出展者には、同級生や、教員時代の校長先生であったり、よく存じている方の名が多く、長く続けられていることに感嘆するばかりだった。

12時30分、上三草のやしろ国際学習塾へ。東条湖の未来を考える会の設立の会議にオブザーバーとして出席した。続いて、2時から「東条川疏水の日活動発表会」に出席し、ご挨拶を申し上げた。

今日は、4グループの発表が行われ、博物館会議に参加しているグループだけではなく、グループ同士の交流から生まれた活動もあった。ふるさとみんわ会の大型紙芝居は、ダム湖底に沈んだ土井部落の物語で、鴨川ダム建設のために立ち退いた土井部落の人々の思いを伝えるものだった。社小学校の宮苑先生による疏水学習の教材化の実践は、小学校における疏水学習の充実、発展の道を拓くものだった。また、東播土地改良区の発表は、疏水をボートで下るという体験活動を紹介。人気の疏水ボート下り体験で、毎年多くの小学生が参加している。そして、社高校生活科学科は、疏水の水で生産された地元の農産物を使った給食レシピや食育活動を紹介した。貴重な疏水、特産物を知り、郷土への愛着心を食を通して育てたいという心が伝わってきた。長時間にわたる発表会だったが、疏水への認識、活動の広がりや深まりが感じられる充実した会になった。谷口文保神戸芸工大大学院准教授の巧みなコーディネートで、それぞれの活動発表の意義や思いがより深く理解できた。

今日は阪神、オリックスのパレードがあったり、市内でも他の

イベントが行われたが、半日たっぷりと東条川疏水に浸ることができ有意義だった。

1 2月議会1週間前議運や各会派代表者会議、議員団総会、神戸市都市再整備の説明など

2023年11月25日

24日(金)、10時過ぎには登庁。11時15分から自民党議員団総会が開かれ、12月議会の代表質問、一般質問予定者による概要発表が行われた。

午後1時から農林水産部から分収造林事業について説明を受けた。

1時30分から議会運営委員会が開かれ、12月議会の提出予定議案、質問順等を協議。続いて、議会改革について、常任委員会のインターネット中継環境の整備はじめ各項目について協議を行った。終了後、引き続き、各会派代表者会議が行われた。

2時30分から、今日2回目の自民党議員団総会が行われ、議運の結果の報告等が行われた。3時15分から、自民党の会議室で、神戸市の進めている三宮、ウォーターフロント、神戸駅周辺の再整備にかかる説明を受けた。神戸市の都市再整備の全体的な計画を知ることができた。区域には元町エリア、県庁ゾーンの再整備も含まれているが、県庁再整備計画が凍結され、現在は、具体的な展望(絵)が描けていない。

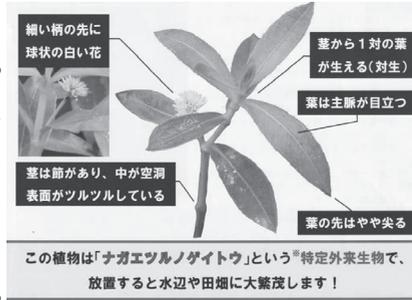
ナガエツルノゲイトウの侵入を許すな

2023年11月29日

28日(火)、今日、特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」について、あらためて環境部、農林水産部から説明を受けた。

農政環境常任委員会では、機会あるごとに話題にのぼっている

が、まだまだ県民の間に認識が広まっているとはいえない。何せ、実物を見る機会がなく、身近な水辺や田畑にその姿を見るような事態になった時点では、猛烈な勢いで繁茂し、手がつけられなくなるというものである。



淡路島のあるため池では、その防除に3年を費やしたという。もし、このような生物がダム、ため池、水路を通じて水田などに入れば、大きな被害が出る。しかし、その実物を知らなくては、早期発見、通報、対処もできない。今日、農林水産部からもらったチラシには、その写真と説明が分かりやすく入っていた。どこかで見たような植物だ。淡水だけではなく、陸上や海水でも生きるのでびるといふ。この特定外来生物の侵入を許してはならない。長い名前だが、農業関係者だけでなく、一般の人にもぜひ認識してもらわなければならない。

第365回定例県議会開会 日韓親善懇親会

2023年12月02日

12月1日(金)、8時30分過ぎには登庁。9時15分、財政部から分収造林事業のあり方検討会の専門部会である財務部会の報告について説明を受けた。神戸新聞紙上にも大きく報じられた件だ。

10時から議会運営委員会が開かれ、北朝鮮のミサイル発射非難決議案、補正予算案等提出議案、本日の議事順序などが協議された。10時30分から自民党議員団総会が開かれ、議運の報告等がなされた。

11時、県公館会議室で第365回定例県議会が開会した。会

期は12月13日までの13日間。議案上程後、齋藤知事が議案提案趣旨説明を行った。

12時50分から自民党議員団で分収造林事業の財務部会報告の説明を聴いた。引き続き、今日2回目の議員団総会。代表、一般質問について最終報告がなされた。

その後は、自民党議員団執行部、同僚議員、他会派役員と請願などについて情報交換などを行った。

午後6時から神戸市内で、日韓親善懇親会に県議会日韓親善議連の議員らと出席した。韓国民団県本部などの役員さんらと懇談した。李相烈駐神戸総領事と、韓国と神戸の歴史的なつながりなどについて、話が弾んだ。

海上自衛隊阪神基地隊71周年

潜水艦や護衛艦に乗艦 阪基カレーも

2023年12月03日

2日(土)、9時35分には神戸市東灘区魚崎の海上自衛隊阪神基地に。今日は阪神基地隊開隊71周年記念式典が行われ、県議会防衛議員連盟会長として出席した。

10時から式典が行われ、まず、安井元神戸市会議長らに感謝状が贈られ、宮崎関西水交会会長から隊員らに激励品が贈られた。黒田司令の式辞、兵庫県知事代理の遠藤防災監はじめ、来賓祝辞が続き、最後に安井さんが謝辞を述べた。氏は、阪神淡路大震災、神戸空港造成工事などで、阪神基地隊、海上自衛隊が活躍したエピソードなどを紹介し、感謝の気持ちを表した。



式典後、基地隊に停泊している潜水艦「まきしお」と護衛艦「やまぎり」に乗艦し装備などの説明を受けた。明日は、一般にも公開される。潜水艦は2度目だったが、この狭い空間に動力、魚雷などはもちろん、乗組員のベッドや厨房などが配置されているのにはやはり感心するばかりだった。任務によっては、長期間この艦内で活動することになる。敬服するしかない。護衛艦では、艦隊艦ミサイル、魚雷、ヘリ格納庫などを見学した。甲板からは阪神基地隊所属の掃海艇2隻を望むことができた。以前に掃海艇に乗艦したこともあった。日本の海の守りという大切な任務をもつ阪神基地隊が兵庫県、神戸市にあることに感謝と誇りをもちつつ、自衛隊を県民、市民でしっかりと応援していきたいという思いを強く持った。見学後、基地隊調理委員長が開発した阪神基地隊カレーをいただいた。あまりの美味しさにお代わり希望が相次いだ。もちろん私もお代わりをいただいた。教員時代の給食でカレーのお代わりをしたことを思い出しながら。

日本会議神戸支部で井上和彦氏講演で日ポ秘話子連協 サッカー大会や東福寺弁財天まつりも

2023年12月04日

3日(土)、8時30分に加東市河高の滝野総合運動場に。加東市子ども会育成連絡協議会の親善サッカー大会が開かれた。インフルエンザのために急遽欠場したチームもあったなか、9チームが出場した。

11時頃、加東市松沢の大深山東福寺へ。今日は、4年ぶりの弁財天まつりが行われ、境内のお堂の前では、山伏さんたちが護摩焚きの準備をされていた。ご住職の藤村さんに秋の叙勲での瑞宝中綬章ご受賞のお祝いを申し上げ、勲記を見せていただいた。仏教哲学の研究、高野山大学学長として教育に携わられた氏から、

時代が大きく変化しているが、やはり大切なのは人間の教育とのお話を聞かせていただいた。

昼過ぎには神戸市へ。日本会議兵庫神戸支部の総会・記念講演会が湊川神社で行われ出席した。総会后、ジャーナリストの井上和彦氏が「感動の近現代史」の演題で講演した。氏は、ポーランドの学校訪問のようすを報告しながら、日



本とポーランドの深い結びつきについて、100年前のシベリアポーランド孤児救出の歴史、旧日本陸軍の人道主義に立った勇気ある行動などを紹介した。ポーランドの人々は、今もポーランドの子供達を救った日本への感謝と友好の思いを持ち、子供達に伝えている。一方、日本では、こうした歴史が隠されてきた戦後の教育のあり方を批判し、もっと日本の子供達に伝えなければならないことがあると強調された。ポーランドの子供達が自国国歌とともに「君が代」を大きな声で歌っている姿に感銘を受けた。総会では、天皇皇后両陛下のインドネシアご訪問、青年学生による全国縦断憲法キャラバンの報告なども行われた。

今日は、あらためて教育の大切さについて考えさせられた一日だった。

本会議代表質問日 自民党議員団勉強会

2023年12月07日

6日(水)、北播磨は霧が出ていた。8時30分過ぎには登庁した。9時から議会運営委員会が開かれ、本日の議事について協議を行った。

9時15分から自民党議員団総会。そして、10時から県公館大会議室で本会議が開かれた。

今日は代表質問日。まず、自民党政調会長の門間雄司議員（豊岡市）が登壇し、分収造林事業、但馬空港など9間について質した。次に維新の会の増山誠議員が質問。昼の休憩を挟んで、午後は公明党の島山清史議員、最後はひょうご県民連合の迎山志保議員が質問を行った。

代表質問では、分収造林事業、但馬空港、県立大学無償化、パートナーシップ制度などについて、斎藤知事の県政の姿勢、政策決定プロセスを問う質問が目立った。知事は県議会への叮嚀な説明をしていくと答えた。

本会議終了後、自民党議員団では、パートナーシップ制度について当局から説明を受けた。県の考えている制度の趣旨、内容等について各議員からきびしい質問が相次いだ。問題の多いこの制度を要綱で定め、議会の議決が要らなくなっていることへの不満が出た。

本会議一般質問1日目

2023年12月08日

7日（木）、9時過ぎには登庁。10時から県公館大会議室で本会議が開かれた。今日から一般質問が始まった。

公館駐車場に大型バスが止まっていた。大上和則議員（丹波篠山市）の傍聴バスだった。久しぶりに傍聴団があり、活気づいた。傍聴者の中に、小西隆紀前議長の姿があり、懐かしく、挨拶、握手を交わした。

トップバッターはその自民党の大上和則議員（丹波篠山市）。県議会初の一般質問への登壇だった。日本六古窯の一つ、丹波焼きの振興策、クマ対策等について質した。続いて、維新のなかい

議員が質問。

昼休憩の間に、自民党の日本会議議員連盟の臨時総会が開かれ、役員体制、当面の活動等が承認された。食後、議事課のレクを受けた。

午後1時本会議再開。公明党の大塚議員（神戸市北区）が質問の中で、神戸市と北播磨を結ぶ高速道路構想について質した。昨年の一般質問で私が質したことを紹介しながら、災害、観光、物流・人口対策等の観点からその必要性を強く指摘した。神戸と加東は、直線で結べば約30キロ、現在は高速道路を使うと迂回コースになり約58キロ。三角形の二辺を使っていると私も指摘し続けてきた。現在取り組まれている播磨臨海道路などの次は、ぜひ「北播磨道」（仮称）の実現へと進めていきたい。現在は、神戸加東線等の改修（加東市山国、三木市と加東市の境の桃坂）が進められている。

次は、ひょうご県民連合の竹内議員が登壇。県庁建て替えなしと4割出勤についての知事の姿勢と県職員の意識について質した。反対する県職員の声は知事に届いていないのかとのきびしい質問に対して齋藤知事は「私はこの道を行くしかない」と思っていると開き直ったかのような答弁だった。

最後は自民党の浜田知昭議員（淡路市）が登壇。地価調査地点数の減少など5項目について質した。

終了後、議長、副議長と一緒に財政課、国際課からレクを受け、続いて自民党議員団の警察部会の勉強会に出席した。県警本部のサイバー攻撃への体制についてだった。

一般質問2日目 県立大学無償化についての質問続く

2023年12月09日

8日（金）、今日は大東亜戦争開戦の日だ。昭和16年

(1941)、今から82年前に真珠湾攻撃で米英と戦争状態に入った。そのラジオ放送を何度耳にしたことか。もちろん、戦後生まれの私はその放送を聴いたわけでなく、中学の社会科歴史の授業で生徒に聴かせたものだ。当時の人々の思いはいかであったか。

8時30分過ぎには登庁。9時から議会運営委員会が開かれた。稲木財務部長から議案訂正等の説明が行われた。委員からの指摘があり、委員長としても議案の誤り、説明資料等について、以後十分注意を払うように注意をした。議事の順序、継続調査事件の申し出等について協議を行った。また、県公館への移動ルートについての注意をした。続いて、9時15分から自民党議員団総会が開かれ、議運の結果などが協議された。

10時から県公館大会議室で本会議が開かれた。一般質問2日目のトップバッターは自民党の松本裕一議員（加古川市）。防犯カメラの有用性、中学校の部活動地域移行など6問について質した。次に維新の北村議員が質問し、昼休憩に。昼の間に議事課のレクを受けた。また、自民党議員団の総務・幹事会、続いて2回目の議員団総会が開かれた。総会では、議案、請願の態度等について協議が行われた。

午後1時、本会議が再開。午後の1番は自民党の戸井田ゆうすけ議員（姫路市）が登壇し、物流の2040年問題への対応など7問を質した。続いて、公明党の菅議員が質問。

最後は自民党の藤田孝夫議員（養父市・朝来市）が登壇。県立大学無償化、若者支援、そして選挙の課題などについて質した。県立大学、芸術文化観光専門職大学の無償化の効果、公平性、財源、県政への影響などの質問に対して、齋藤知事は実行への自身の強い思い、決意を語った。若者の投票率の低さについて、石堂選管委員長は、選挙の争点のわかりにくさなどの課題を指摘しながらも、選ばれる候補者の魅力についても言及し、議員を激励し

た。石堂委員長らしい答弁だった。

本会議終了後、議運委員長室で執務し、5時過ぎには退庁した。

加東市柔道大会 遺族会語り部の会 やしろ歴史研役員会

2023年12月11日

10日(日)、9時30分から県立社高校武道場で4年ぶりに開催された第15回加東市柔道大会に出席し選手を激励した。社柔道少年団はじめ、県下各地の柔道教室などから、また、中学、高校生らが出場し、日頃の練習の成果を発揮し、熱い闘いを繰り広げた。

10時30分、加西市の鶉野飛行場跡へ。「sora加西」で開かれた兵庫県遺族会(青年部主催)の語り部の会に出席した。上空には気球が浮かび、飛行場跡には、陸上自衛隊の自走榴弾砲やミサイル発射装置車が展示され、多くの人が見学した。また、展示されている紫電改(実物大模型)が格納庫から滑走路に出され、ボランティアの説明にカメラを構えたり、拍手がおこるなど多くの人聞き入った。

多目的研修室では、遺族会による遺骨収集報告、遺児による戦争体験が語られ、多くの人話が聴いた。「父の顔も声も知らない。シベリア抑留中に亡くなったとの戦友の話を母親が泣いて聞いていた記憶がある」などの体験、鹿児島県の特攻基地から多くの若者が飛び立っていった話な



ど、戦争の体験を遺族の立場、思いから語り、平和の大切さをうったえる取り組みだった。

午後2時から社公民館で、やしろ歴史民俗研究会の役員会に出席した。移動研修の報告、今後の計画などを協議した。2月24日（土）には、今年度最後の研修会が予定されている。

今日は、昨日に続いて暖かい一日だった。s o r a加西で聴いた遺骨収集団の活動報告で、サイパン、テニアン島での収集のようすを映像で見たが、まだ祖国に帰ることの出来ない遺骨がジャングルの洞窟の中などに残っている。私の母方の叔父も南洋で戦死した。友人の父上のシベリア抑留の記憶を綴った絵と文を見せてもらったこともある。今日はそんなことを思い出しながらの一日だった。

第356回定例県議会閉会

2023年12月14日

13日（水）、9時過ぎには登庁し、10時から議会運営委員会、10時30分から自民党議員団総会が開かれた。

11時、県公館大会議室で本会議が開かれた。まず、補正予算案、条例案などの表決が行われ、可決、承認された。続いて、追加上程された土地利用審査会委員の同意人事案が可決された。次に請願が上程され、賛成、反対討論ののち、表決が行われ、「緊急事態に関する国会審議を求める意見書提出の件」「北朝鮮が生存を認めた兵庫県民拉致被害者及び特定失踪者をはじめすべての拉致被害者等の帰国を求める意見書提出の件」の2件が採択された。拉致の件は全会一致で意見書提出。緊急事態の件は、自民、維新の賛成で可決したが、全会一致とならず、意見書提出にはならなかった。続いて、意見書「ナガエツルノゲイトウ等の特定外来生物に係る抜本的対策を求める意見書」など8件が採択さ

れた。

最後に、選挙管理委員会委員と補充員の選挙が行われ、委員4名、補充院4名が議長の指名推薦によって選任され、13日間にわたる議会が閉じた。分収造林事業、地域整備事業、県立大学無償化など、大きな県政課題についての議論が行われた。

午後1時から私学総連合会の要望会が開かれ、私学振興議連役員として出席した。1時30分から自民党議員団の勉強会が開かれ、パートナーシップ制度についての2回目の説明と質疑が行われた。議員からは多くの問題点が指摘された。

その後は議運委員長室で執務し、4時から兵庫県測量設計業協会と協力議員団の意見交換会、懇親会に出席した。加東に戻ったのは8時30分を回っていた。

加東市赤穂義士祭

2023年12月15日

14日(木)、朝の登校見守りに立った。通学班の児童が少ないなど思っていたら、学級閉鎖が出ているという。週末には校内マラソン大会が予定されているが、天気予報も傘マークがでており、気がかりだ。



朝一番で加東市民病院へ。月に一度の検査と診察を受けた。知人や同級生にも出会い、まともや「元気そうやな」などとお互いに挨拶する始末。

10時過ぎ、すぐ近くの家原観音寺へ歩いて行く。今日は加東市赤穂義士祭が観音寺を中心に開催され、本堂、菩碑で線香をあげて義士の忠義を讃え、追慕した。毎年12月14日は義士祭

が行われる。午後には、市内中学校駅伝大会、剣道大会が行われた。小さな園児や高齢者まで、多くの人が訪れ、手を合わせてお参りをする姿が見られた。



観音寺の義士祭が始まったのは昭和のはじめ。そろそろ百年になろうとしている。父等が青年の時代に興し、新社町時代、加東市合併後の今日まで継承されている。

自民党の派閥パーティー券問題で安倍派の閣僚、党幹部の更迭、辞任で国政は大激震だ。検察の捜査はさらに続くと報じられている。岸田総理はじめ閣僚等から「国政に遅滞があってはならない」という言葉をよく聞くが、憲法審査会、拉致問題解決等、県議会の請願や意見書の内容は、これらの問題の「促進」を求めており、今回のパーティー券問題による混乱で、さらに「遅滞」するのではと考えると残念だ。国政を停滞させてはならない。特に国家の基本問題にかかる課題については、国会に委ねられている事柄であり、滞ることのないように国会議員がその責任を果たしてもらいたい。

加東市消防団年末警戒発団式

2023年12月30日

29日（金）、夜9時から、加東市消防団本部前駐車場で加東市消防団の年末警戒発団式が行われた。

式には、12小隊、各分団2名代表166名の消防団員が出勤。井上団長の訓示に続き、岩根市長、高瀬市議会議長、私、柏谷加東警察署長、森脇加東消防署長が激励の言葉を贈った。

今年は、29日、30日の2日間に短縮される。消防団員への

アンケート調査等からこれまでの3日間の実施を短縮し、試行されたもの。近隣の市、町の中には年末警戒をしていないケースもあるが、加東4万市民が安心して年末を過ごし、新年を迎えることができるよう、市内各分団が午後8時から12時まで、詰所待機、地区内巡視等の夜警を実施する。昼間は寒さが緩んでいたものの夜になるとさすがに冷え込んできた。



令和6年元旦 夕方に能登で大地震発生

2024年01月02日

令和6年の元旦は、氏神様である佐保神社の参拝の列に並んでいる時に迎えた。コロナ以前よりも多い初詣の人出のように思えた。境内にある鐘をつく人の列、拝殿参拝の列、おみくじや神札を求める人の列が長く伸びていた。



帰宅して仮眠を取り、午前5時から加西市の笹倉公民館で行われた実践倫理宏正会の元朝式に出席した。コロナ禍を経て、式も本部会場の式をリモートで上映する形での元朝式に変わっていた。

帰宅して少し休んで、午前7時10分過ぎに加東市山国の王子ヶ池の堤に向かった。毎年元旦の初日の出はこの場所で拝むことにしている。雨などで初日の出は諦めていたが、青空が広がり、池の東の林の切れ目辺りにまばゆい初日が光って見えた。

午前9時、加東市内の約100地区の中で一番早く初総会が開かれる福吉地区公民館へ。総会のはじめに新年の挨拶をさせていただいた。

一旦帰宅し、休んでから午後1時前に市内2番目の地区総会が行われる上田地区公民館へ。4年ぶりの対面形式の初総会で挨拶をさせていただいた。こうして、早朝から昼過ぎまで断続的に続いた公式行事も済み、ようやくわが家の正月行事を行うことができた。

今年は私と妻、末娘夫婦の大人4人。神棚、仏壇、床の間の神仏に礼拝し、歳をいただいた。子供の頃から変わらない元旦の行事だ。おせち料理をいただき、休息をとっていた時に、突然、家がゆらゆら揺れ、きしむ音がした。地震だ、と飛び起きて、テレビをつけると、石川県の能登地方で震度7の大地震が起き、「津波から逃げて！」とNHKの女性アナウンサーが絶叫していた。午後4時10分だった。その後もテレビでアナウンサーの呼びかけが続いた。能登半島を中心に北陸地方、近畿地方など広範囲で揺れ、加東市のある播磨南東部は震度3と表示されていた。ゆっくりとぐらぐら揺れ、長く感じた。夕方にやってきた娘と幼い孫達も地震の恐怖を味わった。

令和6年の元旦に新年の平穏を祈ったばかりの其の日に大地震が発生した。津波、地震の被害はまだ判明していないが、私たちは、地震国日本に生きていることをあらためて強く認識させられた。南海トラフ巨大地震や首都直下地震もいつ起きてもおかしくないと言われ、防災、減災の取り組みが急ピッチで行われているが、起きたあとの被害をできる限り減らし、被害の拡大を防いでいくことが必要だ。

輪島市はじめ能登地方は昨夏に、また石川県富山県は昨秋に訪れたばかりで、その街並みや風景が目に焼き付いている。火災が

起きている輪島市の朝市通り辺りもそうだ。まだ地震、被災の全貌が判明していない。

能登地震の被害広がる 羽田でジェット機炎上

2024年01月03日

2日（火）、夜が明けて明るくなるにつれ、能登半島大地震の被災地のようすが次第に見えてきた。TVの報道に映し出される現地の状況から、想像以上の大きな被害が出ていることが伝わってきた。今日も緊急地震速報が出て、震度5程度の強い地震が続いた。津波警報は解除されたが油断はできない状況だ。

夕方、テレビのスイッチをつけると、画面で飛行機の機体が炎上している場面が大映しされていた。羽田空港でJAL機と海上保安庁の飛行機がぶつかって燃えたとニュースが伝えていた。画面に釘付けになってニュースを見続けた。2日続きで起きた大災害だ。しかし、JAL機の乗客乗員は全員無事に脱出していたとの報道にほっとしたものの、炎上する機体の映像からは、とても信じられなかった。その後、海保機の乗員5名が死亡との報道があった。

新年の始めから大地震や航空機事故が起こり、皇居の一般参賀も中止となった。最早や正月のお祝い気分は吹き飛んでしまった。むしろ、気を引き締めて一年のスタートを切るという気持ちに切り替わった。

県庁で仕事 能登地震救援活動の発信

2024年01月05日

4日（木）。今日は官庁はじめ多くの会社などの仕事始めの日。私の事務所も今日から開いた。

午後に登庁。秘書課、自民党執行部室、控室などで新年の挨拶。

しかし、登庁議員は少なかった。議運委員長室で、議会事務局総務課と議連の会費についての確認をしたのち、県民躍動課から地域高齢者大学の運営について今後のスケジュール等について聞いた。続いて、藤原俊平教育長と新年の挨拶をし、特別支援教育等について意見交換を行った。登庁していた同僚議員とは、昨秋に常任委員会の管外調査で訪れた石川県の農村のことが話題になった。

能登地震の被災地支援などについて、兵庫県の取り組みを県民にもっと知らせるようになる必要があると財政課に伝えた。テレビニュースの映像で救出現場で捜索にあたっている近隣府県の警察、消防隊の姿や給水車の派遣、ペットボトル箱を搬送する場面が映し出されるのを見るにつけ、兵庫県は、すでに先遣隊を現地に送り、三木防災センターからいち早く救援物資を送っていると聞いているが、兵庫、HYOGOの姿が見えず、県民の皆さんからの問い合わせがある。阪神淡路大震災でお世話になった兵庫県として、先頭を切って救援、支援に駆けつけてこそ、支援の輪も早く広がるとの声も聞いた。

被災地では、72時間が過ぎても救命救出活動が続けられている。また、避難所では水、食料など物資が不足しているとの報道が続く。関西広域連合としての被災地支援の枠組みが決まった。現地は一刻も早い救援、支援を求めている。自衛隊も陸はもちろん、海から、空から救援活動を展開している。青野原駐屯地からも派遣隊が出発した。

夜、東条地域の有志の会に出席した。この会で昨年夏に能登方面を旅行してただけに今回の地震の被害、支援についての関心が高く、ここでも兵庫県の取り組みはどうなっているとの質問が相次いだ。

加東市新春交歓会

新春恒例行事のかかるた大会、書き初め大会も

2024年01月06日

15日（金）、冬の瀬戸内側の気候らしい、穏やかな晴れの日だった。

今日、加東市では新春恒例行事が続いた。まず、午前9時から滝野運動公園体育館スカイピアで第13回



伝の助かるた大会が開かれた。就学前の園児から小学生まで多くの子供達が参加して、伝の助かるたを楽しんだ。オープニングには踊りグループ滝っ呼のメンバーと伝の助の踊りも披露された。合併前の社町時代には道徳かるた大会が行われていた。その頃、わが家の子供たちも地区の子供会でチームを組んでよく練習し出場していたものだ。加東市になって新たに伝の助かるたがつくられ、子供達が歴史や文化、自然を読み込んだ句に親しんでいるのは素晴らしい教育だと思う。



午後2時から、同じ会場で、加東市子ども会育成連絡協議会の第18回新春書き初め大会が開かれ、励ましの言葉を申し上げた。小中学生約130名が参加し、それぞれ課題の言葉を書き上げた。折しも書道がユネス

コ世界遺産登録への申請が進められていることもあり、伝統文化に親しむよい機会になった。この書き初め大会も社町時代から継

続されており、正月5日の加東市の伝統行事になっている。

そして、夕方からは、市内のゴルフ場（牧野：ヤシロカントリー）のクラブハウスで新春交歓会が開かれた。平日の夕方、ゴルフ場



のクラブハウスでの開催は初めての試みで、実行委員長の藤井信孝加東市商工会長の発案によるものだ。会場からは西に沈む雄大な夕景を望むことができ、この時間帯のスタートも粋な計画だった。会には、加東市内の行政機関、各種団体、商工業関係者ら約120名が出席し、来賓には、岩根加東市長、高瀬市議会議長、片山兵庫県副知事、県選出衆参国會議員、地元県議の私等が出席した。始めに全員で能登地震で亡くなった方の冥福を祈り黙祷を行った。対面、立食などの通常の形式で行われたのは4年ぶりだった。

午後、事務所に来客があり、民間委託が始まる中での地域高齢者大学のあり方に就いて相談を受けた。

能登地震の被災地では困難な状況の中で、救出、救援活動が続けられている。自衛隊の青野ヶ原駐屯地からも隊員が派遣されている。兵庫県は本部を立ち上げ、能登半島の先端に位置する珠洲市の支援を行うことになった。道路が寸断されており、津波被害も受けているという現地、孤立集落もあり、まだ被害の全容が分かっていない中、時間との戦いで支援をしていくことになる。

加東市社協では、さっそく義援金の募金を開始したと聞いた。

新年福祉のつどいー兵庫県の福祉向上に向けて

2024年01月07日

6日（土）、午後1時から神戸市内で開かれた、兵庫県社会福祉協議会・社会福祉政治連盟の「新年福祉のつどい」に出席した。

齋藤知事、内藤県議会議長が来賓挨拶に立ち、能登地震への救援体制について県、県



議会としての取り組みについても述べ、協力を呼びかけた。「つどい」には、兵庫県議会社会福祉議員連盟の議員が出席し、参加した約300名の県内福祉関係者と懇談し交流を深めた。

能登地震が発生してから6日目。犠牲者の数は130名に迫り、避難者数も3万人に及び、安否不明者も200名を超えている。

現地では、警察、消防、自衛隊員らによる懸命の救助・救援活動が続けられているが、道路寸断、断水、停電等の困難な状況にあり、食料、燃料、水はじめ、衣類、毛布などの不足が限界に達しているという。そんな中、自衛隊の炊き出しや入浴の提供を始め、避難者が発災後はじめての暖かい食べ物と入浴に表情がゆるむ映像が報じられた。

兵庫県の支援相手の珠洲市は、人口1万2千人。うち、約8千人が避難生活をしている。能登半島の先端にある珠洲市への支援物資の搬送は困難を極めており、物資が届かず、孤立状況にあって避難者の不安は深まるばかりだ。あらゆる手だてで物資を送り込むことが最優先課題だ。

加東市二十歳の集い「耀」

2024年01月08日

7日（日）、加東市内では、成人式にあたる「加東市二十歳の集い」や、市内数地区で初総会が開かれた。

まず、朝8時30分、加東市の最北東部、丹波篠山市と境を接する御嶽山清水寺の麓、



平木地区の初総会に出席した。そのあと、移動し、福田地域の東実地区の初総会で年頭のご挨拶を申し上げた。

9時30分には上三草のやしる国際学習塾で開かれた「加東市二十歳の集い」に出席した。今年は393名に案内を出し、333名が出席したとのことだった。二十歳を迎える実行委員会メンバーが選んだ言葉は「耀」（かがやき）だった。他の誰でもない、耀く自分になる、という決意を込めたとのことだった。

式典終了後、再び地区総会に。吉馬地区、廻淵地区の初総会に、そして、午後1時から池之内地区の初総会に出席してご挨拶を申し上げた。

今日、訃報が届いた。前任期まで県議会自民党議員団の同僚議員として共に活動した春名哲夫氏（宍粟市）が急逝された。71歳という若さだった。突然の報せに、急には受け止められなかった。

政調会一日目 春名哲夫元副議長のお通夜に

2024年01月10日

9日（火）、9時15分には登庁。議員駐車場には入れず、2号館の駐車場に入れる。駐車スペースが足りない。

9時30分から令和6年度重要施策・当初予算案について政調

会が開かれた。自民党は7階の大会議室。今日から3日間、各部から説明を受け、質問や要望を行い、予算議会となる2月議会に臨むことになる。

今日は財務部から始まり、最後の農林水産部の午後5時まで



昼休憩をはさんでみっちり行われた。危機管理部からは、能登半島地震への対応についての報告もあった。兵庫県北部海岸地方への津波対応、能登地方への調査派遣、支援物資の搬送、関西広域連合での支援体制構築等の対応が報告された。そうした県の対応について県民への発信をもっと適時に行うことで、情報提供、支援への思いを盛り上げることができると指摘した。

政調会が終わり、一路穴粟市へ。穴粟市選出前県会議員で元副議長の春名哲夫先生のお通夜が行われた。家族葬で行われるため、その前に先生とのお別れをした。春名先生の急逝に驚き、また、残念な思いでいっぱいだった。自民党議員団で共に活動した同志だった。焼香し、安らかなお顔の春名先生とお別れをしながら、只々ご冥福を祈るばかりだった。

中国自動車道を走っている時、能登から新潟にかけて震度5弱の地震があった。被災地は9日目の夜を迎えている。

1.17 ひょうご安全の日のつどい

能登半島地震の中で迎えた29年目

2024年01月18日

17日(水)、午前5時46分、テレビで神戸の追悼のつどいを見ながら黙祷を行った。目を閉じると、29年前のこの時間のことがありありと蘇ってきた。

9時過ぎには登庁。そのあと、1.17ひょうご安全の日のつどいが行われるHAT Tこうべに向かった。

今日、平成7年の阪神・淡路大震災から29年目を迎えた。しかも、元旦に起きた能登半島地震の被災地での救援活動が行われている中で迎えることになってしまった。

会場にはつどいが始まる1時間ほど前に着いたので、防災フェアに出展している各関係団体のテントブースを回ってみた。自衛隊兵庫地方本部、海上自衛隊阪神基地、県立舞子高校や姫路商業高校などの高校生のブース。LPガス協会、タイガー炊飯器、おいしいごはんを食べよう県民運動本部、兵庫県栄養士会、日本赤十字社等々、つどいが始まるまで、同僚議員と一緒に回った。栄養士会、赤十字のブースでは、加東市や加西市の方が参加しておられた。また、タイガー炊飯器では、電気がなくても新聞紙だけでごはんを炊ける「魔法のかまど」の実演が行われていた。燃料は朝刊一紙分程度で、おいしいごはんが炊けるというもの。つどいのあと、試食をさせてもらったが、おいしく炊けていたので驚いた。写真は新聞紙をまるめてかまどに投入する黒川県議。

つどいでは、渚小学校の児童がメッセージ作文の中で、「普段の地域生活の中で人と人とのつながりがいざというときや避難所での生活で役に立つことを学んだ」と話していた。防災文化の地域づくりの大切さに納得した。最後に河田恵昭氏が宣言を力強く読み上げた。



新年保育のつどい 被災地での自衛隊の活動

2024年01月19日

18日(木)、午後5時から神戸市内で兵庫県保育推進連盟主催の「新年保育のつどい」が開かれた。

齋藤知事、内藤議長に続いて、県議会社会福祉推進議員連盟の会長としてご挨拶を申し上げます。



懇親会では、出席された地元加東市の民間保育園の園長さんから、保育現場の現状や課題などについて聞かせていただいた。

昼間のTV番組で、能登半島地震の被災地での自衛隊の活動を詳しく報じていた。昨日の1.17ひょうご安全の日のつどいでも、自衛隊のブースでは、阪神・淡路大震災の被災地での自衛隊の活動を紹介する映像が放映されていた。東日本大震災においても自衛隊員の活動に対して国民は感謝と信頼の思いをもって見つめた。今回の能登半島地震の被災地での救援活動においても、現地の困難な状況に対応しながら、孤立集落や安否不明者の搜索、救出、搬送、援助物資の輸送、避難所での温かい食事や入浴等の提供などに当たっている姿がある。被災者の前では食事はしないなど、被災者に寄り添う行動は徹底している。今日の番組はそうした自衛隊の活動を追跡していた。被災者の「自衛隊さん、ありがとう」の言葉が心にしみた。

北播磨県民局主要事業説明会

2024年01月24日

23日(火)、午後4時から、加西市にある「いこいの村はりま」

で、行われた北播磨県民局の主要事業説明会に出席した。県民局と各事務所から令和6年度の主要施策の説明を受け、北播磨県民局管内の県議と意見交換を行った。

山田錦の日本農業遺産登録をめざして申請準備が進んでいる。大阪・関西万博のFP（フィールドパビリオン）に認定されている北播磨の取り組みを6年度は磨き上げて備える。元気な北播磨をもっと打ち出していく必要があるとの意見も出た。「北播磨」はまだまだ認知が広がっていない。

能登半島の被災地の水道復旧のニュースが流れ、蛇口をひねると水が出て、手を合わせ、涙ぐみながら「ありがとう」と感謝する高齢者の姿が報じられた。地震発生から3週間。断水の避難生活はどんなに大変だったろうと思う。自宅避難を続けていた高齢者が自衛隊員に付き添われて2次避難所へと向かう途中、「何が大変でしたか」という記者のインタビューに「夜が長くて長くて」とつぶやく姿も忘れられない。電気もつかない自宅で、余震におびえながら過ごした夜の不安の大きさは想像もつかない。救援部隊の懸命の活動で、少しずつインフラが仮りではあっても回復しつつある。今日は警報級の大雪の予報も出ている。台湾では救援募金が30億円を超えたとも聞いた。本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。

4年ぶりの加東警察署術科始め一日頃の鍛錬の成果を披露

2024年01月25日

24日（水）、朝、登校見守りに立った。校長先生によると、インフルエンザとコロナが流行傾向になっていて、4年生で学級閉鎖が出ているという。

10時過ぎに加東警察署へ。4年ぶりに術科始め式が行え行われるというので、警察、防犯、友の会、警察協議会など関係団体

の長が出席した。

10時30分、開会式でご挨拶を申し上げた。柔道、逮捕術、剣道の三部門で白熱した試合が行われた。「悪は許さない」という頼もしい言葉が選手宣誓で聞かれた。



農政環境常任委の管内調査で 但馬、丹波の農林水産の現場などを調査

2024年02月03日

1月31日（水）から2月2日（金）までの3日間、農政環境常任委員会の管内調査で、但馬・丹波地方の農林水産の現場を訪れ、県民との意見交換や取り組み、また、県民局で事務調査を行った。

先週の雪がまだ残り、冷たい雨が降る中での調査になったが、若い農業者の熱い情熱や農業や漁食を通じた地域づくり、山間地の林業と防災など重要なテーマについて、その取り組みや課題について生の声を聞き、参考にすることができた有意義な調査になった。

主な行程は次の通り。

〈31日〉

- ①ひょうご農林機構県北事務所（朝来市和田山町）分収造林事業、主伐地
- ②若手畜産家との意見交換（美方郡新温泉町）但馬牛の飼育システム



- ③ 県立但馬牧場公園但馬牛博物館（美方郡新温泉町）大阪関西万博 F P

〈1日〉

- ④ 農事組合法人アイガモの谷口（美方郡新温泉町）自然循環農法・加工品製造



- ⑤ 香美町とと活隊・但馬水産技術センター〈（美方郡香住町）魚食振興で地域作り、調査船「たじま丸」
- ⑥ 豊岡オーガニックワークス（豊岡市出石町）有機農業に取り組む若手生産者
- ⑦ 但馬県民局（豊岡市）事務調査

〈2日〉

- ⑧ 兵庫県森林動物研究センター（丹波市青垣町）野生動物による被害対策等
- ⑨ 丹波県民局（丹波市柏原町）事務調査
- ⑩ 大山地区農・水・環の会（丹波篠山市大山下）多面的機能支払交付金による地区の取り組み

この管内調査で今年度の管内外調査は終了した。県庁に戻ってから、議事課、県民生活部からのレクなどを受け、5時過ぎに退庁した。

夜、李相烈駐神戸大韓民国総領事のお招きを受け、官邸で日韓議連役員との懇親会に出席した。日韓交流の歴史、文化理解、今後の展望などの話題に花が咲いた。

ライオンズクラブ献血奉仕活動

2024年02月07日

6日（火）、8時30分過ぎには加東市民病院へ。今日は加東



ライオンズ・クラブが行う献血奉仕活動が行われ、担当委員会のメンバーとして、開始前の愛の献血の幟立てや、献血者に配る卵パックの袋入れなどの作業を行った。今年は兵庫教育大学の女子学生も加わり、作業が捗

った。例年だと五峰山、千鳥川を吹き抜けてくる寒風の中での献血奉仕になるが、今年は風もなく、暖かい献血活動の日になった。

午後1時には登庁。今日は2月議会を前に、各部署、委員会などからの2月議会提出議案などについてのレクを受けた。まず、1時30分から総務部人事課、次に教育委員会、続いて、財政課、さらに土木部、産業労働部総務課、総務部教育課からの説明を受けた。説明が終わったのは午後5時を回っていた。

夜のテレビで、ローカル線のバス乗り継ぎの旅という太川陽介や蛭子能収らの珍道中の番組の中で、三宮から社へ神姫バスに乗る・・・という話が耳に入ってきた。目的地は広島県の安芸の宮島らしく、姫路に出るためにわざわざ社経由で、という話だった。神姫バス、社車庫、そして乗り継ぎ時間があったので、佐保神社に参拝。突然の番組での社の紹介に遭遇して驚いた。短時間だったが、社がTV画面で紹介されたのは嬉しいことだった。

北方領土の日

2024年02月08日

7日(水)、今日7日は、「北方領土の日」だ。学生時代から北方領土返還を訴え、また、教員時代は、特に力を入れて教えてきた。終戦直前にソ連軍が南樺太、千島列島に侵入し、終戦後も侵攻を続けた。サンフランシスコ平和条約で、我が国は、南樺太、千島

列島を放棄したが、北方四島は我が国固有の領土であって、放棄した千島列島には入らない。しかし、ソ連軍は、帰属が決まっていないこれらの土地を不法に占拠し続け、ソ連の領土とした。返還運動、日ソ交渉が粘り強く続けられてきたが、ロシアのウクライナ侵攻以後は、軍事拠点化が進められている始末だ。ウクライナのゼレンスキー大統領は、ロシアの侵略を受けているとして日本と共同戦線を提案した。ロシアはソ連から引き続き、我が国の領土を侵略し続けている。学生時代に観た「氷雪の門」の映画、占守島での抗戦を描いた本、そして、ソ連による北海道占領計画を阻止した樋口季一郎中將のことを知り、一層北方領土返還への思いは強まるばかりだ。江戸時代から幕府は北方の守りを固めてきた。先人が苦勞を重ねてきた歴史、近代におけるロシア、ソ連との領土の確定の歴史、そして、先の大戦の終戦時のソ連の侵略とその後の日ソ、日口の交渉史を教育の中でしっかり学ばせておかないと、北方領土は取り戻せない。2月7日を「北方領土の日」とする理由を日口間の領土確定の歴史、すなわち日本とロシアの境界を択捉島とウルップ島の間と決めた、安政元年（1855）2月7日の日口通好条約に照らすことで、北方四島は日本固有の領土であることを確認することができる。そうした意味で2月7日は、日本にとって大切な日だ。

井戸前知事の旭日大綬章受賞祝賀会 加東市高齢者大学閉講式

2024年02月11日

10日（土）、今日は加東と神戸で行われた2つの会に出席した。9時30分、加東市天神の東条文化会館コスミックホールで行われた令和5年度加東市高齢者大学の閉講式に出席した。ホールには約100名の受講者が出席し、式に続いて、学習発表会が行

われた。会場のエントランスには、高齢者大学のクラブ活動の作品が展示されていた。6年度の開講式では、記念講演をすることが決まっている。

昼前に神戸市内のホテルに。井戸敏三前兵庫県知事の旭日大綬章の受賞を祝う会が行われ、出席した。会場には、井戸氏に縁の深い政治、経済、文化の各界から多くの人が出席し、受賞をお祝いした。会では、井戸知事時代の兵庫県を支えた県職員、先輩議員、市町長ら懐かしい方々ともお出会いし、話が弾んだ。井戸氏も変わらずお元気だった。



建国記念の日を祝う会（神戸） 加東で厄神祭と大日祭

2023年02月12日

11日（日）、今日は建国記念の日。朝、玄関に国旗を掲げた。神武天皇が橿原の地で建国を宣言されてから数えて2684年。今年もその歴史を重ねることができたことを祝う日だ。

この日は加東市内の2地区でお祭りがある。9時前に河高の八幡神社へ。厄神祭が行われ、早朝から多くの人々が参拝した。好天に恵まれ、神社の背後の山頂で行われる厄除けの催事も賑やかに行われた。山頂の祠のある巨石から厄歳にあたる人が感謝の心を銭や餅などを投げ、それを地区の男子小中学生が拾うという行事だ。長い歴史を持つ地区の伝統行事で今も続けられている。八幡神社に参拝した後、名物のラーメンと温泉卵をいただきながら、話をするのも楽しみの一つだった。

もう一つの祭りは、上久米地区の東光寺の大日祭で、通称「だ

いにつたん」と呼ばれる祭りだ。午後から始まるこの祭りには参加できないので、昼前に参拝した。護摩焚きの準備もできており、ご住職と寺総代さんらに挨拶した。この祭りは農耕に欠かせない牛への感謝のお祭りで、かつては近郷近在から多くの参詣者が訪れ盛大に行われていた。

午後1時、県庁に隣接する県民会館の県民ホールで行われた建国記念の日を祝う会に出席した。第1部は記念講演で、皇室ジャーナリストの倉科明実氏による「天皇陛下と国民の絆—国民を『大御宝』と思われる皇室の



御精神」と題した講演が行われた。倉科氏は学生時代の皇居奉仕や奉迎活動などの体験をもとに皇室と国民の絆について話された。建国記念の日にふさわしい講演だった。

続く第2部の式典では、県議会日本会議議員連盟の会長としてお祝いを申し上げた。式典には議連の議員他、多くの県議が出席した。式典には衆参国会議員、県議、神戸市会、市議らが出席し、建国の日を祝うとともに憲法改正、皇位の安定的な継承への取り組みに向けた決意を表明した。第3部は参加者による奉祝パレードが行われた。

山田錦の日本農業遺産登録に向けた意見交換会

2024年02月15日

14日(水)、午後1時30分から、三木市吉川町の山田錦の館で「山田錦日本農業遺産に向けての意見交換会」に出席した。北播磨県民局、加東農林振興事務所が中心となって、酒米山田



錦の日本農業遺産登録をめざして準備を進めてきたが、登録申請書類がほぼまとまり、山田錦の語り部の皆さん、北播磨管内の県議らとの意見交換が行われた。小坂所長、佐藤副所長から申請内容について説明が行われ、語り部の皆さんからコメントが出された。山田錦の持つ優れた遺伝形質、生産者の立場から、高齢化、後継者不足の問題、儲かる農業、蔵元との関係、次世代への継承、新たな酒づくりの取り組み事例の紹介など、多くの課題や要望が提起された。SDGsの観点から見た生産システム、北播磨のため池の希少生物、疏水の役割や文化との関係性など、遺産登録に向けた積極的な内容も多く、登録実現に向けての期待が高まる意見交換会だった。

夜は、お通夜に参列した。通夜式の最後の喪主の謝辞の中で「父は最後までヒーローだった」との言葉があった瞬間、遺影の故人が一瞬微笑んだように見えた。

夜は、お通夜に参列した。通夜式の最後の喪主の謝辞の中で「父は最後までヒーローだった」との言葉があった瞬間、遺影の故人が一瞬微笑んだように見えた。

第366回定例県議会開会

2024年02月16日

15日（木）、8時30分頃には登庁。9時から議会運営委員会が開かれた。はじめに、各会派政務調査会長会座長の門間委員（自民政調会長）から、座長提案の能登半島地震被災地の復旧復興支援を最優先に取り組むことを求める意見書案が提出できなくなったとの報告があった。全会派合意が得られなかったためだ。

9時30分から自民党議員団総会が開かれ、議運の結果等が報告された。

10時前に県公館大会議室に移動。幸い雨が降っていなかった。今日は2月議会恒例の議場コンサートが行われ、傍聴席の約70名の県民の皆さんとともに兵庫県芸術文化センター管弦楽団の演奏を聴いた。指揮者の岩村力氏も県公館では初めての演奏会だと感想を話していた。

11時から第366回定例県議会が開会し、今日から3月22日までの37日間の会期で令和6年度予算案や条例案などを審議する。続いて県選挙管理委員会の新任役員の紹介が行われた。新委員長には、永田秀一氏が就任した。そのあと、齋藤知事が議案の提案趣旨説明を行った。

昼の時間に、県庁一号館前広場で開かれた能登半島被災地応援ミニマルシェが開かれ、パンや菓子、納豆などを買った。

午後は自民党議員団総会、警察本部や議事課のレク、土木部のレクなどを受けた。議員団総会では、各党派政調会長会の座長試案の意見書案が合意に至らなかった経緯の説明を受けた。意見書案の文中にあった大阪・関西万博の建設工事に関する文言について、維新の会の合意が得られなかったとのことだった。

昨日、今日と気温が上がり、所によっては、春一番が吹いたとの報道もあった。雨も降ったが、加東と神戸の往復路にある吞吐ダムの水位は依然として低いままであり、加東市の防災放送でも節水を呼びかけている。

齋藤知事の提案説明と吉田松陰

2024年02月17日

16日（金）、今日は加東で一日を過ごした。

昨日の本会議で齋藤知事が提案趣旨説明のはじめに、吉田松陰の松下村塾を取り上げ、「人賢愚ありといえども、各々一、二の才能なきはなし、湊合して大成する時は必ず全備する所あらん」

という松陰の教育思想の言葉を例に引いて、塾生の個性を重視し、その能力を引き出すものであったこと、その結果、日本の近代化に立派な業績を残す人間を輩出したとし、「固定観念に捉われ、若者の可能性の芽が摘まれるような環境であったなら、日本の近代化の歩みは遅れていたかも知れません」と述べ、「誰もが望む学びや働き方、暮らし方ができ、夢を持って生き行きと自分の物語を歩むことができる、そんな兵庫をめざす」と、県政への思いを表明された。

格調高い話ではあるが、ちょっと違うのではないかなという印象を持った。「人賢愚ありといえども云々」は松陰が野山獄にあって囚人を相手に講義、すなわち勉強会をした時の思いを記したもの（福堂策上）で、松陰は、西欧列強の迫り来る国難状況にあって、高まる危機感の中で、日本を守っていくかを追究するために学問をし、行動し、教育をしたのであって、孟子を学んで孟子に阿らず、日本の国の歴史と天皇を中心とした国柄を学び、忠孝の道、独立精神を自ら培うことを第一とするのが松陰の教育であり、生き方そのものだった。松下村塾の教育もそうした思想で貫かれていた。松陰にとっては、獄であろうと、相手が誰であろうと、祖国の危機の中にあって皇国の尊く素晴らしい歴史と忠孝の大義にめざめ、国を護る覚悟と志を固め、行動する人となるのがすべてだった。

若い齋藤知事が「攻めの県政」への思いを松陰の教育思想を引いて語られたことに少し驚いたが、大切なのはその内容であり、松陰の生き方、維新に与えた影響などについて一度じっくりお考えを伺いたいと思った。

山田錦の里の酒蔵「神結酒造」で蔵まつり 秋津窯の焼き物も

2024年02月18日

17日（土）、朝、教え子からの連絡で、同級生の教え子が亡くなったことを知った。急いで葬祭会館に行き、対面した。兵教大附属中草創期の生徒で、女子ソフトボール部の部員だった。安らかな寝顔のようだったが、こんなに早く逝ってしまうとは。残念でならなかった。

今日は、加東市唯一の酒蔵である神結酒造の蔵まつりだった。開店前の準備がほぼ終わった頃に蔵を訪れた。小瓶6本入りのお得なセットを購入した。加東市産の山田錦を使い、滝野の水でつくったまさに地酒



中の地酒だ。蔵まつりでは、いつも加東市の秋津窯の焼物が販売される。箱から出してテーブルに並べられるのを見ながら、ぐい呑みやカップなどを見定める。毎年一、二点購入するが、今年は湯呑みとコーヒーカップを購入した。秋津窯では、山田錦の栽培田の土を使って焼き、山田錦の藁を釉薬にした焼き物が特色。大阪・関西万博のフィールド・パビリオンにも認定され、焼き物体験を受け入れることになっている。山田錦の里の加東市産山田錦でつくった日本酒と、その栽培田の土で焼いたぐい呑みと片口をセットにして販売する話に盛り上がった。神結の長谷川社長、秋津窯の藤村兄弟とともに兵教大附属中の教え子だ。

竹島の日

2024年02月23日

22日（木）、10時から本会議が開かれ、まず自民党の伊藤栄介議員（神戸市中央区）がトップバッターを務め、県と神戸市の協調、連携など7項目を質した。次に維新の住本議員が登壇。昼休憩をはさんで、午後1時30分から公明党の松尾議員、県民連合の小西議員が登壇。休憩再開の後、自民党の水田裕一郎議員（姫路市）が登壇し、法人県民税や整備など整備などについて質した。

小西議員の4割出勤についての質問に、齋藤知事は4割ありきではなく、順序的にこのやり方しかないと考えており、それが「この道しかない」というこれまでの言葉の意味だと答弁。この言葉へのきびしい質問が続いているので、説明されたのか。本会議終了後は議運委員長室で執務し、午後5時に退庁した。

ところで、今日は「竹島の日」だ。島根県では式展が行われているはずだが、政府式展は未だ行われていない。2月7日の「北方領土の日」への国民の関心が薄れているとの報道があったばかりで、竹島への関心はどうか。どちらもわが国の固有の領土だが、韓国、ロシアが不法に占拠したまま。実態は占領。もっといえば侵略されたままになっている。ウクライナは侵略者ロシアと戦っているが、わが国は外交交渉で返還を求め、抗議している。領土主権に対する意識の違いは明らかだ。これは、教育によって教え、高めていくしかないのだが、2月22日は「猫の日」なんてNHKが朝から言っているようでは、それ以前の話だ。



樋口季一郎陸軍中將がソ連の北海道占領計画を阻止した、とか、千島列島の最北の島、占守島でソ連の侵攻に対して徹底抗戦した守備隊の話なんかをしっかりと教えていかないと、ロシアの「愛国教育」に負けてしまう。中国に狙われている尖閣諸島についても、わが国が実効支配をしないと、竹島、北方領土の二の舞になってしまう。そういう意味でも門田隆将氏の『尖閣1945』は読み応えがあった。写真は、事務所のドアのガラス窓に貼ってある竹島の日のポスター。

天皇誕生日

2024年02月24日

23日（金）、朝、玄関に国旗を揚げて、天皇誕生日を祝う。残念ながら天気はよくなく、日の丸が朝日に映えて、とはいかなかった。

皇居一般参賀は雨の中だったが、多くの国民が傘を差して列をつくり、日の丸の小旗を手して万歳を



唱える光景が報じられた。また、天皇皇后両陛下のご会見の様子もテレビで拝した。いつも国民に心を寄せ、安寧を祈られる天皇陛下のお姿に、国民の一人としてありがたく尊く思った。愛子内親王がそうした両陛下のお姿から、ご自身もそうありたいと思っておられることに感銘を受けた。

来月には能登半島地震の被災地を訪れられるとのこと。きっと被災地の皆さんも力づけられることだろう。

やしろ歴史民俗研究会の研修会

2024年02月25日

24日(土)、午後1時、社中央公民館へ。やしろ歴史民俗研究会の今年度最後の研修会が開かれ、30名が出席した。

講師は、加西市にある鶉野飛行場資料館館長の上谷哲朗氏。海軍姫路航空隊が訓練した鶉野飛行場、



特別攻撃隊白鷺隊などを当時の様子を伝える写真資料を示しながら詳しく話された。また、会場には、加東市在住の服部武司氏の嬉野飛行場の水彩画が展示され、出席者が見入っていた。

今日、ロシアがウクライナ侵略を始めてから2年になる。戦況はウクライナの反転攻勢から膠着、最近ではロシアの攻勢も伝えられている。戦闘が長引き、欧米諸国のウクライナ支援疲れが見えるとも伝えられるが、ウクライナ国民の7割は領土を守る決意を持っているとの報道もある。

ウクライナは、砲弾や武器の支援を強く求めている。我が国は復興支援を約束している。もし、我が国がウクライナの立場だったらどうだろう。

2年前の2月議会で、ロシアのウクライナ侵略非難決議をし、抗議文とともに在大阪ロシア総領事に手渡した。その後、駐日ウクライナ大使の訪問を受け、避難民の受け入れなども実行してきた。しかし、ロシアのウクライナ侵略は今も続いており、ウクライナに撃ち込まれているロケット弾の中には北朝鮮製も発見されている。

プーチン大統領は3月の選挙での再選をめざしている。アメリカの大統領選挙の行方も気がかりだ。ロシアの侵略を止めさせる

ために支援国は結束を強めなければならない。日本ならではの支援は復興だけだろうか。もしウクライナが負ければ、ロシアの侵略は正当化され、日本政府のいう力による現状変更は世界のあちこちで起こり、我が国にもその危機が及ぶだろう。

本会議一般質問で登壇 パートナーシップ制度など6問を質す

2024年02月27日

26日（月）、今日は本会議で一般質問に登壇した。

10時に本会議が開かれ、午前中に2議員、休憩、午後1時再開後は3議員が質問に立った。トップバッターは自民党の白井かずや



議員（三田市）。地域医療構想の実現に向けた取組み、有機農業についてなど7問を質した。次に維新の会の脇田議員、午後は、公明党の麻田議員、県民連合の橋本議員が質問に立ち、私が最後を務めた。私の質問項目は、以下の通り。

- 1 パートナーシップ制度について
- 2 県庁再整備に伴う議場のあり方について
- 3 県立文化会館等の指定管理者公募による地域高齢者大学のあり方について
- 4 忠魂碑等の慰霊施設の維持管理について
- 5 地域医療構想の実現に向けた取組について
- 6 県民の安全な生活を守るための無人航空機対策について



パートナーシップ制度について、答弁に立った齋藤知事は、同性婚の公認もしくは公認につなげるものではないこと、制度により生起する問題等については、相談窓口を設けて丁寧に対応すると答えた。

また、地域高齢者大学の4年制の存続について、井ノ本部長は、柔軟に対応していくとの答弁だった。

無人航空機対策について、杉浦土木部長が答弁に立ち、今後は加東市の対応を支援していくと答えた。これまで、ドローン等無人航空機の問題を所管する部署なかったが、土木部が窓口となっていくことと受け止めた。

忠魂碑の維持管理について、行安福祉部長から、令和5年度から国の補助制度が拡充されており、その活用を市町に周知することだった。

議場のあり方について、県庁差整備の中で考えていくとの小橋総務部長の答弁だった。再質問で齋藤知事の議場についての考えを問うと、県政の大事な場所との認識を示された。昨年4月の突然の使用不可の報せから10ヶ月が経ち、仮議場が続いている。議会における議論を促進していく必要があるが、県政の殿堂として兵庫県にふさわしい品格と機能を備えた新しい時代に合った新議場をつくっていきたい。齋藤知事には、そうした思いを持ってもらいたいと思った。

いつもの反省になるが、最後に時間が足りなくなり、コメントの時間が足りなくなって端折ってしまった。教師時代の研究授業でも時間が足りなくなることが少なくなかった。議員になってもなかなか思い通りにはいかないものだとつくづく思った。

加東市酒米生産者大会

2024年03月03日

2日（土）、昼過ぎには、加東市上三草のやしろ国際学習塾L.O.C.ホールで開催された令和5年度加東市酒米生産者大会に出席し、お祝いを申し上げた。大会では酒米品評会入賞者の表彰、第1回の藤川楨次特別賞の表彰式も行われた。また、加東市産山田錦を使って日本酒をつくらしている全国の蔵元から12の蔵元も出席した。



ところで、今日、加東市久米地区の練習場で飛行したラジコン機



が墜落し、地区住民の通報で警察、市役所なども現場へ駆けつけたとの連絡が入った。先月26日の県議会本会議の一般質問で取り上げた事案の一つであり、今回の件についても県当局に厳正な対応を強く申し入れなければならない。県民の安静な生活を脅かす危険な無人飛行機の飛行を放置しておくことはできない。



加東市の歴史と文化を学ぶ会で講演

2024年03月04日

3日（日）、朝、懐かしい来客があった。兵庫教育大学附属中学校の元同僚が訪ねてきてくれた。しかも、40年近く前に譲った愛車、ホンダシビックシャトルに乗って。まだ現役で走っていることが信じられなかった。運転席に座り、ハンドルを握ると、

この車で長女を乗せて遠出したことや、女子ソフトボール部の部員を乗せて練習試合に行った日のことが蘇ってきた。



10時から加東市社公民館で開かれた「加東市の歴史と文化を学ぶ会」の第3回目が開かれ、講師を務めた。テーマは、「ふるさと加東の歴史の魅力」。50名の受講生に約45分、ふるさと加東の身近な歴史再発見

を歴史ブログの記事を紹介しながら講演した。こうした機会をつくって下さった加東市観光協会に感謝。

午後1時には、明石市内で兵庫県ソフトボール協会の理事総会が開かれ出席した。会長として議事を進行し、また、役員改選で令和6、7年の会長に選出された。6年度事業案、予算案始め、改革案などを協議。終了後、永年功労、終身審判員証などの表彰、懇親会が行われ、終了したのは午後8時前だった。

うれしの学園生涯大学卒業式

2024年03月06日

5日（火）、10時から加東市下久米の県立嬉野台生涯教育センターで行われた、令和5年度うれしの学園生涯大学の4年制大学、大学院の修了証書授与式に出席し、お祝いを申し上げた。



今年は、大学28名、大学院9名が卒業した。大学の卒業生は、令和2年入学だったため、新型コロナウイルス感染症のために開講式が9

月、講座や活動も遅れ、制約の多い学園生活だった。しかし、そこで得た同窓の繋がりは貴重だったとの話もあった。

4月から同センターは公募による民間事業者に委託管理される。4年制大学講座の存続、単年度制の並立について、県当局は柔軟に対応していくとの本会議答弁もあったところだ。半世紀に及ぶ老人大学、高齢者大学の伝統を大切にしながら、社会変化に対応した形で活性化が進むことを期待する。

予算特別委員会総括審査 自民党提出の付帯決議成らず

2024年03月15日

14日（木）、9時30分頃には登庁。10時から予算特別委員会が開かれ、傍聴した。齋藤知事が出席して総括審査が行われ、まず、自民党を代表して奥谷謙一議員が質問に立った。

「若者・Z世代応援パッケージ」について、県立大学の授業料無償化、奨学金返済支援制度の拡充などについて質した。齋藤知事は、今後、議会と話し合いながら、よりよいものにしていきたいと答えた。次に維新の飯島議員が質問した。飯島議員が学生時代に尚志館（兵庫県出身学生の寮）で暮らしことを初めて知った。私も久元神戸市長も同館で学生時代を過ごした。

昼休憩時間に自民党議員団総会が開かれ、総括審査の結果を踏まえ、委員会、本会議での態度、対応等を協議した。終了後、議運委員長室で、人事案件、繰越予算案件についての説明を受けた。午後は議運委員長室で予算特別委員会の中継を視聴した。ひょうご県民連合の黒田議員が県立大学授業料無償化、県庁再整備等についてきびしく知事を質した。質疑が終わり、表決の場面から再び大会議室で傍聴した。

県民連合が県立大学授業料を奨学金返済支援に編成替えを、共産党が予算案の組み替え動議を提出したが、賛成少数で否決され

た。令和6年度当初予算案は、自民、維新、公明が賛成し、原案通り可決された。続いて、自民党から県立大学授業料無償化など若者・Z世代支援応援パッケージについて、特別委員会などで議会とていねいに議論していくことを求めた付帯決議案の動議が提出されたが、自民以外の賛成を得られず、否決された。

今日の総括審査の各党派の質問では、知事が力を入れる県立大学の授業料無償化をめぐる質問が目立った。付帯決議は成らなかったが、自民、県民連合、公明の意見は基本的にあまり違っていないように思われた。知事は指摘された点を重く受け止め、今後議会にていねいに説明し、議論をしていくようにしてもらいたいと思った。

今日は、国会では参議院で政倫審が行われ、同性婚についての札幌高裁の判決が出るなど、気がかりなニュースが続いた。

日本会議地方議員連盟役員総会

2024年03月18日

17日（日）、今日は、日本会議地方議員連盟拡大役員総会に出席するために上京した。すぐ近くのホテルでは、自民党大会が開かれたが、各県連の出席者が制限されているらしく、私は日本会議地方議員連盟の会議だけに出席した。品川駅前では、日の丸の旗がはためく中、右翼政党の街宣が行われていた。自民党大会にあわせた街宣で、警察の警備も厳重だった。周辺には右翼団体の街宣車が並び、こういった風景を久し振りに見た。

日本会議地方議員連盟の会議では、役員会、記念講演会、役員総会、懇親会が行われ、全国



から出席した地方議会議員と情報交換や交流を深めることができた。特に高市早苗経済安保担当大臣のセキュリティ・クリアランスについての講演は、高市氏が長い間手がけてきたものだけに、その必要性、効果などを詳しく知ることができた。週明けから国会での審議入りということだった。

続いて、谷口智彦氏が講演した。氏は、安倍晋三元首相のスピーチライターとして安倍首相を支えてきた。当時の安倍首相の仕事ぶりを通じて感じていた首相の深い国家観、人間観などを、その口ぶりを再現されるなどして多くのエピソードを紹介された。その上で、緊迫する台湾情勢など、危機に立つ日本の政治家の資質と覚悟が問われていると強調された。

谷口氏には、4月12日に兵庫県にお招きし、兵庫県地方議員連盟の設立を記念して講演をしていただくことになっている。

加東に戻ったのは午後8時頃だった。新幹線は往復とも自由席だったが、混雑していた。新神戸、品川間は約2時間30分。自宅と新神戸は車で約1時間なので、移動だけで7時間だった。

令和6年度予算案成立も県立大無償化への反対論の波紋も

2024年03月20日

19日(火)、8時30分頃には登庁。9時30分から農政環境常任委員会が開かれ、令和6年度関係条例案の付託議案審査が行われ、可決すべきものと決せられた。10時から議会運営委員会。冒頭に県民連合からの修正動議提出、議長から議員提出議案、財務部長から追加提出議案が説明され、本会議の議事順序などを協議した。10時15分から自民党議員団総会が開かれ、議運の結果や表決について協議を行った。

11時から本会議が開かれた。門間予算特別委員長から審査報告がなされたあと、ひょうご県民連合の迎山議員が修正動議の提

案説明を行った。県立大授業料無償化に要する約5億2千万円を国公立、私立大学に通う学生への修学支援に付け変えるというものだ。続いて行われた討論で、自民党の山口幹事長は、予算案に賛成の立場から討論を行、予算特別委員会で提出した付帯決議案の内容にふれながら、今後の本会議、県政特別委員会などで県立大授業料無償化を含む若者・Z世代応援パッケージについて議論していくことを求めた。

長い討論が終わり、表決が行われた。予算案は、自民、維新、公明などの賛成多数で可決され、県民連合の修正動議は、否決された。表決では、自民党議員団の4名の議員が退席した。議員団の中でもさまざまな意見があり、各議員が自分の判断で行ったものだった。

議員提出の報酬・費用弁償等の特例減額に関する条例の一部改正案は、自、公、県民連合の共同提案の改正案が賛成多数で可決され、維新の案は否決された。また、議会運営委員会提出の委員会会議規則、条例の一部改正案は可決された。

本会が終了したのは、午後2時前だった。急いで弁当を食べ、2時15分から、議会運営委員会が開かれ、オンライン委員会に関する議会改革を検討し、最終案をまとめることができた。

続いて、自民党議員団の勉強会が開かれた。パートナーシップ制度に関するもので、当局からの説明を聴いた。内容は同制度の施行により県職員の扶養手当等の改定をしようとするものだった。質疑ではまず私が発言した。知事は2月本会議における私の同制度に関する質問の答弁で「同性婚を認めるものではない、他に法的効果を及ぼすものではない」と答弁しているにもかかわらず、法的に認められていない同性婚の状態にある者に対して、手当を出そうとするのはおかしい。そのために、通知を出し、それを根拠として、条例によらずとも手当を出せるなどするのは、同制度

の趣旨や範囲に関する当初からの説明や知事の答弁と違う、と強く指摘した。他の議員からも同様の発言が続き、「知事の答弁と矛盾する」ことが強く指摘された。当局の説明、やり方には全く納得できない。

齋藤知事は、夕方の記者会見で（今議会で）「丁々発止の議論ができたことで、県民に政策をよく知ってもらおう契機にもなった」と、議会で予算案の修正動議が提出され、県立大無償化への反対があったことをむしろ、よかったとも受け止めているかのような評価をした。しかし、「丁々発止の議論」だったか？。本会議、予算特別委員会、そして、今日の修正動議の提案説明にもあったが、質問と知事の答弁はかみ合っていなかった。数字を挙げて、公平性、効果を問う議員の質問に、知事は自身の決意とやることの意義を強調したが、具体的なことは答えていない。

2月議会の本会議で私の一般質問の議場問題の質問に対する答弁の中で、知事は、本会議での議論、決定は「重い」と答弁したが、「かみ合わない」議論には、質問側の議員がいらだちをつのらせたばかりだった。議会での議論は、知事の政策を県民に知らせるための舞台、道具ではないことを申しておきたい。

本会議終了後に議長室で知事の挨拶を受けた際、今定例会中の議運で、知事は政策などの立案の過程で、もっと議会に対して丁寧な説明、対応をしてもらいたいとの意見が出たことを伝えた。記者会見で議会も知らされていないことが知事から発表され、そのあとで、議会で審議していくという今のパターンでは、審議しにくいことが多々ある。知事はこうした議会側の意見を重く受け止めてもらいたい。

第366回定例県議会が閉会 県政改革特別委員会が設置される

2024年03月23日

22日（金）、10時から議会運営委員会が開かれ、意見書案の報告、追加提出議案説明、本会議の議事順序、議会改革のまとめの報告などが行われた。10時15分から自民党議員団総会が開かれた。

11時、本会議が開かれ、繰越予算案、同意人事案が可決。請願では、「北方領土返還に向けた啓発活動の更なる推進を求める意見書提出」、「はり、きゅう、あんま、マッサージ及び指圧の東洋医学の養成学校の改善を求める意見書提出」の2件が可決された。意見書案では、南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対策強化を求める意見書はじめ、委員会発議の北方領土、はり、きゅう関連の意見書を含め、9件が可決された。続いて、県政改革特別委員会が設置され、12名の委員が選任され、2月15日から37日間にわたった第366回定例県議会が閉会した。

午後、自民党議員団総会、農政環境部会勉強会、総務部会が開かれ出席した。総務部会では、LGBT当事者から女性の安全をどう確保していくかなどの課題について声を聞くことができた。

閉会後は、議運委員長室に異動の挨拶に来室された県幹部職員への対応、県政報告紙の校正などの作業等で夕方まで執務した。

午後6時30分から自民党議員団懇親会が開かれ、出席した知事はじめ県幹部職員と懇親の一時を過ごした。コロナ禍で久しく行われていなかった議員団新年懇親会が延期となり、2月議会閉会日の開催となったものだ。ある幹部職員とは、子供達にもっと伝記、人物伝を読ませたいという話になり、自分は「吉田松陰」に憧れ、親が心配するほどのめり込んでいたとの話を聞き、嬉しくなった。長く、日程が詰まった一日だったが、いい話題で終えることができた。

第366回(令和6年2月)定例会 一般質問・答弁

県政の重要課題について2月定例県議会一般質問で 県当局の姿勢を質す

令和6年2月定例県議会(第366回定例会)で、藤本百男議員は一般質問に登壇し、パートナーシップ制度や議場問題、地域高齢者大学、忠魂碑等慰霊施設の維持管理、地域医療圏計画、無人飛行機問題など、県政の重要課題や地元加東市の問題について県当局を質し、県民の安全な生活の確立に向けた答弁を引き出しました。以下に要約して紹介します。

質問日：2月26日(月)

はじめに—明日2月27日は、88年前の昭和11年、酒米山田錦が正式に誕生した記念すべき日です。めでたく米寿を迎えます。今日は知事はじめ県当局、議員の皆さんと山田錦の米寿を祝いながら、分割方式で6間をお尋ねします。



1 パートナーシップ制度について

1月11日付神戸新聞朝刊に「県が性的少数者と事実婚公認」という見出しが躍っていた。

パートナーシップ制度については、昨年6月に齋藤知事が記者会見で「県としても、早ければ来年度からの運用に向け、検討を加速させたい」と発言し、我々議会には唐突感があった。

パートナーシップ制度と名付けられた制度の目的と中身は何なのかについて、これまで自民党議員団では数度にわたる勉強会を開き、担当部局ときびしいやりとりを重ねてきた。

説明によれば、制度の目的は「法的に婚姻が認められていない同性カップルや、様々な事情により婚姻の届け出をしない、あるいはできないカップルの日常生活の困りごとや不安を解消につなげる」、「法的に効果はないが、誰もが人生のパートナーと協力しながら、安心して暮らせる環境づくりをめざす」とある。

これは、性的マイノリティのカップル、事実婚のカップルを対象とし、届出をすれば、パートナーシップの証明を（県が）発行するというもので、入院、公営住宅への入居、子どもの保育所への送迎等の場面で拒否されることへの不安といった困りごとを解消しようというものである。

すなわち、同性カップルや事実婚を県の要綱により証明し、日常生活の不安や困りごとの解消をめざすというこの制度である、この目的を、頭から否定するわけではないが、法律に認められていない同性カップルの婚姻や事実婚の人たちの困りごとを解消するために、自治体が要綱で制度として実質的に認めていこうとするのは、現在の法制度に基づく婚姻制度や家族制度、相続制度など、法治主義の原則によって営まれている我が国の社会の法的秩序、これを支える国民の遵法精神への影響は大きすぎるといわざるをえない。

また、「パートナー」と偽って届け出し、証明するなど、本制度を悪用されないか心配する声も聞いている。さらに、法律で認められていない同性婚の事実上の公認につながらないかも危惧するところである。

また、「要綱」であるため、法的効果はないとの説明であるが、県が発行した証明書の及ぶのは飽くまでも県の行政事務の範囲に限られ、市町、民間事業者等に及ぶ対外的な効果はないと考えるが、制度を

認めないケースも考えられ、「差別だ」との攻撃や訴訟などのリスクも考えられる。

このように本制度は、未来社会に対してさまざまな影響が想定されるため、県がパートナーシップ制度と大々的に銘打ち、率先してつくるには、問題点が多すぎるといわざるをえない。理由に挙げられている保育園などの送迎や病院、介護施設などの面会、付き添い場面での「お困りごと」の解消は、それぞれの場面、施設の判断で、柔軟に運用、対応できるよう、理解を深めていくことが良いのではないかとも思う。

そこで、本制度の悪用への対応、懸念される事項などにどう対処されようと考えているのか、当局の所見を伺う。

齋藤知事 【答弁】：

パートナーシップ制度は、全国の自治体で導入が進み、県レベルでは21都府県、県内市町では17市町で既に実施されている。全国で400近い自治体が制度を導入し、9割以上の自治体は、要綱により実施している

本県では、4月からの運用開始をめざし、1月に制度の素案を公表、パブリック・コメントを実施した。528件の意見があり、約73%は制度に賛成、そして約15%が反対という状況だった。

パブリック・コメントでは、「多様性を認め合う社会の大きな一歩になる」という賛成意見などが多い一方で、反対意見もあり、「家族制度に対する不安が生じる」といった声もある。

この制度は、婚姻制度などの現行の法制度に何か影響を直ちに与えたり、同性婚を法的に公認するというものではない。その中で、当事者が抱える困難、そして不安を解消し、誰もが安心して暮らせる環境づくりにとって大事な、それにつなげていく制度であるということを、我々も県民の皆さんに対しこれからも丁寧に周知してい

きたいと思っている。

制度の悪用の指摘があった。届出時に、住民票、そして戸籍謄本やマイナンバーカード等本人確認書類を厳格に審査します。もし偽造等の不正があれば、刑法等の公文書の偽造の罪にも問われるということもしっかり伝えていくことが大事だと考えている。

今後、制度に対する県民や事業者の皆さんからの問合せ、相談については、「兵庫県LGBT専門相談」等の窓口を活用して丁寧に対応するなど適切な運用を図り、一人ひとりが尊重され安心して暮らせる社会づくりに努めていく。

藤本議員：

パートナーシップ制度は困りごとを解消するものであり、これを否定するものではありません。しかしながら、困りごとを解消する策が、新たな困りごと、大きな困りごとをまた引き起こしてくることもある。

それには相談窓口で対応していくということであろうが、そもそも、そういうことが起こらないように、この制度の趣旨、同性婚への道を開くものではない、そういう法的な効果を他に及ぼすものではないという答弁が知事からあったが、ぜひ、県民に対して、その趣旨と制度のもたらす効果の範囲をしっかりと事前に周知していただきたい。

2 県庁再整備に伴う議場のあり方について

議場棟が、詳細な耐震診断の結果、大規模な直下型地震には耐えられず、倒壊・崩壊に至る可能性があり、使用することができなくなった、との報告が届いたのは、昨年4月の県議選の始めだった。唐突な連絡に驚いたが、選挙戦に入っており、その時は、選挙が終わってからのことと受け止めた。

それから10ヶ月目を迎えている。本会議場が使用できないために、仮議場として、県庁と県公館の大会議室を使用してきた。本定例議会もこうして公館大会議室を使用している。住めば都ではないが、人間はその環境に適応する能力があり、段々と違和感がなくなりつつあるのも事実だ。

しかし、あくまでも仮議場であり、本会議場としての機能を備えているものではなく、臨時的に仮設しての使用がやむなく続いているという状況だ。

これに対して、議会としても新議会世話人会の段階から、議場のあり方について、議論する場を設け、各会派代表者会議のメンバーで、検討を行うことになった。現在、各会派の意見を聞きながら、議会として主体的に議場のあり方を考える検討会が設置されている。

検討の中で、本会議場の耐震工事を行うことも検討されたが、免震、補強などの工事は多くの費用や補強材が必要で選択肢とならないことになり、他の検討が必要となっている。

議場のあり方は県庁舎整備と深く関連しており、県庁舎の再整備については、ダウンサイジングの方針は示されているものの、未だ明らかになっていない。このような状況では、新築、県公館の改装、他の施設の改修など多くの方法が予想され方向性を定めるのに苦慮しているというのが現状だ。

県議会は、二元代表制の一翼を担い、県民からの負託を、県民の代表として県政を推進する場である。その意味で私は、広く県民に開かれ、県民の意思がそこに伝えられる場として、民主主義の象徴的な場でなければならないと考えている。

現在の使用できなくなった本会議場は、明治15年に建てられた初代の八角議事堂から数えて3代目の議事堂である。2代目議事堂の前には、元県庁だったこの公館の一部に議場が置かれていたこともある。現在の議場は、昭和46年に完成したもので、すでに築後

53年が経過している。その議場が使えないとなれば、今は仮議場住まいに甘んじなければならないとしても、150年余の長い歴史を持つ兵庫県政に相応しい議事堂の建設が必要であることは避けて通れない。

そもそも齋藤知事就任前には、県庁舎等再整備事業の中で、新議場の計画も描かれていた。県庁舎が小規模であっても建てられるのであれば、議場を併設することも考えられる。また、公館の改修、施設の有効活用から閉会時には県民が使用できる議場として、県民会館など他の施設に設置する選択肢もある。

そこで、議会内の議論を深めていくためにも、議場のあり方について当局はどのようにお考えか、認識を問う。

小橋総務部長 【答弁】：

県議会は民主主義の根幹である。その議論の場となる議場は県政にとって必要不可欠なものであると我々も認識している。その整備の検討にあたっては、本庁舎のあり方検討と一体的に行う必要があると考えている。

議場のあり方については、県議会において、各会派の代表者からなる「議場のあり方検討会議」を設置して議論が進められている。我々も今後とも必要なデータと情報提供は行っていきたい。

今後、1、2号館を撤去し、3号館等の既存庁舎を活用して、県民サービスの向上、災害への備えも踏まえながら、出勤率4割を目指したテレワーク、ペーパーレス化など、働き方改革、業務改革の取組を進めていく。その中で、生じた課題への対応や財政状況も考慮に入れながら、庁舎のあり方を議論していく中で議場のあり方についても、庁舎のあり方の検討をふまえ、県議会と丁寧な議論を進めていきたい。

藤本議員：

県庁再整備と一体となってこれは考えていかなければいけないというのはよくわかっている。これまでも説明があり、そのように受けとめているが、議場というのは県政の殿堂であり、どの県議会を訪れても、殿堂に相応しい品格と、機能を備えている。我々は、それがそれぞれの都道府県民の誇りなんだろうと思う。兵庫県にとっても、議事堂を持つということは、その役割は非常に大きいと思う。私たちは早く実現する必要があると考えているが、知事は、この議会・議場・議事堂といったものに対して、どのようにお考えなのか、まだお伺いしたことがないような気がしているので、この機会に一言でもお願いしたい。

齋藤知事 【答弁】：

今後の方向性については先ほど部長からも答弁させていただいたとおり、令和7年度下期には我々本庁舎の方は退去しますので、そのような中4割出勤を目指しながらテレワークなどをやりながら、あり方を検討していくということです。

議場についてもその中で、議会と議論しながらどうするかということになるかと思いますが、やはり議場というものは、私も20年近く地方公務員含めてやらせていただきましたが、やはり議会と執行部側の民主主義の二元代表ということで、そこでの議論というのは大変重いということだと思っています。この議場も、議員ご指摘の通り、すばらしい雰囲気ではありますが、議場のあり方はこれからも、議会側とも話をしながら、丁寧に進めてまいりたいと思っています。

3 県立文化会館等の指定管理者公募による地域高齢者大学の将来について

昨年12月議会で、県立文化会館等の新たな指定管理者として、公募選定された民間事業者が決まり、現在は新年度の運営開始に向けて、引き継ぎや準備作業が行われている。県立文化会館等の施設や事業の活性化を図るという目的で実施された指定管理者公募に私としても期待をしているところである。

その中で、地域高齢者大学のあり方や運営、将来については、令和6年度から8年度にかけて、年次進行計画により、今ある4年制高齢者大学と大学院を解消し、全て単年度制の生涯学習講座とし、年度途中の受講も可能にすることで、活性化を図っていこうという計画になっている。

この4年制高齢者大学、大学院が廃止になるという、非常に大きな変更について、これまで在学生や卒業生、地域住民に対して、県から幾度か説明があったということだが、十分に周知されてきたかについては、今も大きな疑問が残っている。「単年度制への移行」という文言、説明はあったものの、4年制高齢者大学と並行して運営が行われるのか、クラブ活動や同窓会の運営、学園行事はどうなるのか、などといったことに関しては、早くから在学生の側から質問が出されていた。

しかし、事務の引き継ぎや来年度の準備が行われる中で、6年度の開講準備の遅れなどで、高齢者大学の在学生から今後の運営に対する不安、混乱が生じていると聞いている。通常であれば、前年の末から新年度受講生の募集案内が行われ、在学生による勧誘活動も盛んに行われ、受講生確保のための努力がなされてきているはずである。しかし、今年は、そうした募集案内が行われず、新入生確保に大きな遅れが生じている。そのため、入学を躊躇する方や市町の高齢者大学への受講を選択する高齢者、また、他の高齢者大学への

転学を考えている在學生もあると聞いている。

老人大学から続いてきた高齢者大学の40年余りの歴史の幕が閉じられようとしている中、4年制、そして大学院の地域高齢者大学が時代、社会の変化の中で果たしてきた歴史的社会的役割を終えたのであろうか。これまでの老人大学、高齢者大学で学ばれた方々は、かつて、戦争、敗戦、占領の時代に少年期を送り、高度成長時代にはそれを支える労働者として懸命に働き、定年を迎えた高齢期に、大学と言う名の学びの場に憧れと意欲を持って参加され、学園生活や地域貢献活動に青春の花を咲かせた世代であった。そこには、学びとクラブ活動を通じた学生同士の交流と連帯感が満ちあふれていた。そうした中で積み重ねられてきた高齢者大学の価値とは、草創期から発展期を経て、今の時代に受け継がれてきた「同窓」という人の繋がりであり、蓄積されてきた学びと活動の成果である、大学で紡がれてきた人の繋がりというかけがえのない宝は、兵庫の地域づくり、人づくり、豊かな文化創造の原動力となってきたと考えている。

この4年制高齢者大学のよき伝統を継承しつつ、柔軟に単年度制も受け入れながら、時代に即した新たな形の高齢者大学を創り上げていくことが、指定管理者を公募し民間事業者の運営による活性化の趣旨にも合うのではないかと考える。現役の学生、同窓会などと十分な話し合いを重ね、柔軟に対応していくことが求められているが、当局の考えを伺う。

井ノ本県民生活部長 【答弁】：

県では、高齢者の学びの場として、地域高齢者大学を文化会館等に開設してきた。受講者の交流や地域活動を促進することで、高齢者の生きがいづくりのみならず兵庫の人づくりに貢献してきたところだ。

一方で、働く高齢者の増加やオンライン講座など学習環境の多様化、入

学年齢の高まりといった受講生の変化もあり、受講者数が減少し、活性化が課題となっていた。このため、誰もがいつでもどこでも学べる生涯学習の理念を踏まえまして、高齢者学習も民間の力を活用し、誰もが学びやすく、そして時代に即した多様な講座を目指してきた。

そこで、地域高齢者大学の見直しについては、受講者へのアンケートや対話を行った。アンケートでは、受講者確保には、講座の充実が必要との回答をはじめ、4年制については、必ずしも必要でないという意見もあった。一方、対話の中では、4年制は、受講の励みになるといった声もあった。

こうした意見を踏まえ、来年度から講座充実を図るとともに単年度講座を導入しつつ、単年度講座を4年履修すれば卒業できるという枠組を設けることとしている。

今後は、高齢者大学で得られるかけがえのない连带感も大切にしながら、これまでの枠組で守るべきは守り、その上で、事業者と新たな展開も議論し、ニーズを踏まえた高齢者学習を柔軟に展開していきたいと考えている。

藤本議員：

高齢者大学について、柔軟に対応していくという、井ノ本部長の答弁があったが、それは4年制大学の存続も含めて、これから柔軟に対応していくというふうに受けとめてよろしいか。

井ノ本県民生活部長 【答弁】：

来年度の募集につきましては、単年度制での募集とともに、ご指摘の地域高齢者大学につきましてはニーズを踏まえ、また、学生の意見も多く聞きながら、高齢者大学での学びを柔軟に展開していく。

藤本議員：

ぜひ、在学生、それから同窓生、地域の声もしっかり聞きながら、そして事業者と相談しながら、柔軟に対応していただきたい。

4 忠魂碑等の慰霊施設の維持管理について

昨年12月10日、加西市の鶴野飛行場跡の「soraかさい」で兵庫県遺族会青年部主催の第1回語り部の会が開催された。戦後80年を目前にし、遺族会会員の高齢化が一段と進み、戦争体験の風化が心配される中、遺族の立場、思いから「遺児の戦争体験」を自らが語り部となって語り、次の世代に平和の大切さを伝えていこうとする新たな取り組みだった。



昨年の9月議会では、わが自民党の伊藤傑議員が遺族として遺骨収集、DNA鑑定について質問をした。また、令和4年の9月議会において、私は「忠魂碑などの慰霊施設の維持管理について」質問をした。質問の趣旨は、遺族会の高齢化により、忠魂碑や慰霊施設の維持管理が困難な状況になっており、国や県、市などがその補修等に補助を考えていけないかということだったが、これに対して生安福祉部長からは、移設、埋設などの場合は補助対象となるが、補修や建替え等は対象外であるとの答弁だった。

2年前に私の地元の忠魂碑の補修を遺族会が中心となって行おうとされたが、実現していない。また、別地区で2つの忠魂碑を1ヶ所に移設するという動きもあったが、これも実現していない。このままでは、高齢化がさらに進行し、維持管理はさらに厳しい状況になるのは火を見るよりも明らかだ。

忠魂碑などの慰霊施設は、大正時代から昭和前期にかけて、英霊

の顕彰、慰霊を目的として在郷軍人会などを中心に建立されたものだ。しかし、戦後78年を経て、遺族会などの高齢化により、また、戦争の風化により、維持管理は限界にきているというのが現実である。

これら慰霊施設は先の大戦をはじめ日本の近代史における戦争の歴史を、身近な郷土出身兵の戦没者への慰霊という行為を通して知ることのできる貴重な歴史遺産であるともいえる。敗戦、占領という時代制約の中で、軍に関わるこうした施設の維持管理に国や自治体の関与が叶わない中で、今日、大きな転換の時を迎えているのではないだろうか。

今、忠魂碑や慰霊施設などの歴史遺産の保存について、国の関与を求める議論も出ている中、戦争の時代の歴史を風化させないためにも大震災や豪雨災害などの被害に遭われ亡くなられた人々を慰霊し、記憶を風化させないのと同様に、県から、国の補助制度のさらなる拡充を働きかけ、利用しやすい制度にすることで、歴史遺産とも言える忠魂碑等慰霊施設の維持、継承を図るべきではないかと考えるが所見を伺う。

生安福祉部長 【答弁】：

慰霊施設の維持管理は、建立者・管理者において行われるべきものとされている。しかしながら、老朽化や管理状況が不良なものが増えてきたことを踏ま、管理者等が不明や高齢等のため維持管理を行うことが困難な場合に限定された国補助制度が、平成28年度に創設された。

しかしながら、創設当初の補助対象は、自治体が移設や埋設を行う事業に限定されていた。このため、県としては補修に要する費用も補助対象に含めるよう国に強く要望し、その結果、今年度より原状回復のための1回限りの補修も対象とされた。

このことから、市町に対しまして、これらを周知・徹底し、さら

に来月開催の会議においても他府県の事例をもとに情報交換をし、制度の活用を促してまいります。

また、国に対しましては、補修回数の制限撤廃や現地調査にかかる事務費も加えるよう要望を行っている。今後は補修後の維持管理費用も補助対象となるよう、さらなる制度の拡充を働きかけていく。

加えて、戦争の悲惨さと教訓を次世代に継承するため、昨年から、高校生の協力を得て制作した沖縄慰霊祭に関する動画をひょうごチャンネルにおいて発信している。さらに今年も、県立歴史博物館の特別展での常時放映など、様々な機会を活用し、積極的な発信に取り組んでいく。

5 地域医療構想の実現に向けた取組について

「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切に必要な医療を受けられる」地域医療の提供体制、すなわち「地域完結型医療」を構築することを目的として、平成28年10月に「地域医療構想」が策定された。

兵庫県では、高齢化の進展による医療・介護の需要増大という社会状況に対応し、限られた医療資源を適正・有効に活用するため、各医療圏域において高度急性期、急性期、回復期、慢性期ごとに病床数を推計し、地域の各医療機関等が参加した地域医療構想調整会議にて病床の機能分化・連携に向けた協議を行っている。

先月までパブリックコメントが実施されていた、令和6年から11年までの次期兵庫県保健医療計画（案）では、良質で効率的な医療提供体制の確立をめざし、計画の基本方針に機能分化と連携強化が挙げられている。

各医療圏域において、県立病院を始めとする公立病院と、民間病院の体制が整い、機能分化と連携の強化によって、その目的が達成されるものと信じる。

しかし、圏域の中には、私の北播磨圏域もそうであるが、県立病院がない圏域があるのも事実である。北播磨においては、急性期医療を担う北播磨総合医療センターが急性期医療の中心的機能を担っているとの認識がある。とはいえ、同医療センターは、三木市民病院、小野市民病院の合併によりできた病院であるという経緯もあり、自治体病院であることも確かである。大規模な病院合併であり、高度な医療設備と医師団を備えた急性期病院として、同医療センターが北播磨医療圏域で果たしている機能は高く評価されるものであることは揺るがない。また、高度急性期医療については、県立加古川医療センター、県立はりま姫路総合医療センターもあり、それぞれ機能を発揮している。

これまで病床の機能分化については、急性期中心の病棟からリハビリや在宅復帰に向けた医療を行う回復期病棟への転換が、医療機関の自主的な取組のもと整ってきているが、目標に掲げられている連携強化、すなわち、患者の受け入れ、転院が円滑に行われているかという問題がある。

地域連携は、その要であるといえるが、例えば、県立病院から回復期の公立病院への転院時の患者の医療情報の提供が丁寧に行われているか、休日や時間外の救急の対応について、医師数、診療科の整っている県立病院の受け入れが行われているのか、といった問題は、まさに地域医療における機能分化と連携強化の現場の日常的なことであり、スムーズかつ丁寧に行われなければ、「住民が、住み慣れた地域で生活しながら、状態に応じた適切で必要な医療を受けられる」地域医療構想も魂のこもったものにはならないと考える。

そこで、地域医療構想を実効性のあるものにするため、どう取り組んで行かれるのか、当局の考えを伺う。

齋藤知事 【答弁】：

県では、中核的医療を行う地域の基幹病院に急性期機能を集約し、その他の病院や診療所等で回復期（機能）や初期救急（医療）等を分担するなど、（地域医療）構想に沿った機能分化の明確化・連携強化の取組を進めている。

北播磨保健医療圏域では、県立病院はないが、北播磨総合医療センターが中核機能を担い、圏域の他の医療機関等と協力し、役割分担で地域の医療（提供）体制を維持している。

圏域における病院間の役割分担や、今後、医療需要が増加していく中で、入院（医療）から在宅医療への移行が円滑に進むよう、加東健康福祉事務所が中心となって、（地域医療構想）調整会議で議論が進めている。この議論のベースとなるように、患者の受療動向や、将来の医療需給推計データを提供することで、機能分化・連携強化の取組を支援している。

地域での役割分担が十分機能するためには、地域住民の理解が不可欠であり、県民も含めた（地域医療の）現状そして課題を認識し、（地域医療の）将来像を描けるようこれからも努めていく。

6 県民の安全な生活を守るための無人航空機対策について

来年に迫った大阪・関西万博の準備が急ピッチで進められているが、目玉の一つは移動手段としての「空飛ぶクルマ」の登場である。ドローン技術の発達により、人の移動手段、物資の輸送手段としてドローンが活躍する新しい時代の幕開けとして期待が高まっている。

ドローンの利活用については、兵庫県においても次世代産業の創出や新しいビジネスモデルの確立等をめざし、これに取り組む民間企業の実証試験を支援する事業を進めてきた。さまざまな分野でのドローンの利活用によって、県民の更なる安全な暮らしの実現に向けて促進しようとするものだ。

こうしたドローンが開く新しい時代、社会への期待を私も抱くものであるが、その一方で、ドローンなどの無人航空機の飛行が、県民の生活を脅かす問題を引き起こしていることを指摘しなければならない。

私の地元加東市の久米地区に於いて、ここ数年間、民間のドローン練習場でのドローン、ラジコン機の飛行をめぐって、地区住民との間でトラブルが多発している。この問題は、昨年、市議会でも取り上げられ、住民の関心も高い。

問題事案は、地区と合意している飛行区域を逸脱したエリアでのラジコン機の飛行や山林への墜落、地区集落の家屋上空の飛行、部品の落下事故が発生し、住民の安全と平穏な生活を脅かしているというものである。住民の中には、不安、ストレス、不眠などの健康被害や引っ越しを選んだケースも出ている。また、田圃で農作業中の住民の頭上をラジコン機が飛行することもあり、その都度、住民が警察へ通報し、経営者に注意をするなどし、抗議を行ってきたが、問題は解消されていない。

地区住民有志は、ラジコン機の飛行を映像機器で監視し、地区との合意違反の事実の記録を行い、兵庫県警察や市役所、管轄官庁である国土交通省大阪航空局管制課などの行政機関に持ち込み、対処を要請したが、映像のみでは、位置や高度を特定することが困難とされ、飛行許可の取り消し要請を行うも住民の要請は取り上げられなかった。警察も取り締まる根拠となる法令がないとして、現場での注意にとどまってきたというのが事実だ。

ドローンやラジコン機といった無人航空機が、150m以上の高さを飛行する、夜間に飛行するなどの特定の飛行をする場合には、航空法で、飛行中に操作が不可能な際の緊急停止やパラシュート装置などの安全装置の装着が義務づけられているが、その飛行に当たらない場合には、その義務づけがない。また、令和4年6月20日以降は、

国に機体登録する場合に、位置、速度、高度、時刻などを電波で遠隔発信するリモートIDの装備が義務づけられているが、加東市の事例では、それより以前に機体が登録されたため、リモートIDの装備が免除されていると聞いている。

そこで、このような問題事案を解決し、今後、ドローンやラジコン機などの無人航空機の飛行がさかんになっていくことが想定される中で、県民の生活と安全を守るための対応が必要となってくると考えるが、当局の考えを伺う。

杉浦土木部長 【答弁】：

ドローン・ラジコン等の無人航空機については、150m以上の空域、ビルに換算すると40階以上に相当するが、150m以上の空域については、航空法による飛行が禁止されているという状況で、国の許可が必要となっている。

一方、150m未満のドローンやラジコンがよく通る飛行区域については、基本的に航空法の規制が及びにくいという状況になっていて、民法の条文である「土地の所有権は、その土地の上下に及ぶ」の条文を適用するということになる。しかしながら、この条文については、国の協議会が、令和3年に示した考え方によると、「土地の所有権が上空に及ぶ範囲は、一律に設定することは困難」と、民法での飛行規制は難しいとされており、問題解決についての見解は「自治体等が、第三者の立場から、土地所有者をはじめとする地域の理解と協力を得ることが適切」ということになっている。

ご質問のドローン練習場については、住民と事業者が対立し、話し合いができないという状況になっていましたが、加東市が令和2年末から、第三者の立場で間に入り、協議の場を設定するなど働きかけを行っており、ようやく状況が改善しつつある状況になっている。

今後、県としても、市からの相談にしっかりと応じていくことに

加え、また話し合いだけでは解決できない等の事案が発生した場合には、解決のための手法について、国（大阪航空局）とも相談するなど、適切に対応していきたい。

藤本議員：

先日も連絡がありまして、農道散歩中の人の上空を飛んでいたという。私も何度か目視している。やはり、話し合いはなかなか前に進んでいないというのが現状である。県の窓口が、土木部空港政策課ということ、そして加東市の取り組みをしっかりと対応、支援していただくということになり、今後よろしく願います。

令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| 月 日 | 曜 | 活 動 内 容 |
|-------|---|--------------------------------------------------|
| 5月1日 | 月 | 川開き神事（闘龍灘） 新議会設立世話人会 |
| 5月2日 | 火 | 兵庫県立美術館恐竜図鑑・ゴッホ展鑑賞 |
| 5月3日 | 水 | 花まつり・鮎まつり・花火を愛でる会 |
| 5月4日 | 木 | うれしの春のフェスティバル（生涯教育センター） |
| 5月5日 | 金 | 朝光寺本尊千手観音立像ご開帳法要 |
| 5月6日 | 土 | 加東事務所 |
| 5月7日 | 日 | 加東市連合婦人会総会 |
| 5月8日 | 月 | 加東事務所 |
| 5月9日 | 火 | 新議会世話人会 団総会 |
| 5月10日 | 水 | 県ソフトボール協会臨時常任理事会 加東警察署、北播磨県民局 |
| 5月11日 | 木 | 加東事務所 |
| 5月12日 | 金 | 自民党県連拡大幹事会 県庁執務 |
| 5月13日 | 土 | 加東市高齢者大学開講式 |
| 5月14日 | 日 | 北播磨自衛隊家族会総会 |
| 5月15日 | 月 | 議員団総会 |
| 5月16日 | 火 | 第362回臨時県議会（開会） 議会運営委員長に選出される |
| 5月17日 | 水 | 加東事務所 |
| 5月18日 | 木 | 加東事務所 |
| 5月19日 | 金 | 本会議 議運 各会派代表者会議 |
| 5月20日 | 土 | 3女結婚式（神戸市） |
| 5月21日 | 日 | 加東市家庭バレーボール連盟会長杯争奪大会 |
| 5月22日 | 月 | 県庁執務 兵庫県測量設計業協会懇親会 |
| 5月23日 | 火 | 加東市商工会通常総代会 北播政経懇話会 |
| 5月24日 | 水 | 加東土木事務所の説明（加東事務所） |
| 5月25日 | 木 | 農政環境常任委員会 |
| 5月26日 | 金 | 兵庫県釣針協同組合総会 加東市異業種交流会総会 |
| 5月27日 | 土 | 加東市花と緑のまつり「花き盆栽展」 東播磨文化団体連合会 やしろ歴史民俗研究会総会・研修会 |
| 5月28日 | 日 | 青野原駐屯地創設47周年記念行事 |
| 5月29日 | 月 | 加東事務所 |
| 5月30日 | 火 | 加東市シルバー人材センター定時総会 |

Ⅳ 令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| | | |
|-------|---|----------------------------------------------------|
| 5月31日 | 水 | 議会運営委員会 団総会 自民党加東支部幹事会 |
| 6月1日 | 木 | 兵庫県LPガス協会総会 加東市交通安全協会総会 |
| 6月2日 | 金 | 加東事務所 |
| 6月3日 | 土 | 加東市立社小学校オープンスクール参観 |
| 6月4日 | 日 | 織物感謝祭（西脇市機殿神社） |
| 6月5日 | 月 | 草引き作業、溝掃除等 |
| 6月6日 | 火 | 自民党農政環境部会 北播磨政策懇談会 |
| 6月7日 | 水 | 第363回定例県議会（開会） 自民党議員団総会 |
| 6月8日 | 木 | 兵庫県土地改良事業連合会北播支部総会 齋藤知事社高校訪問 日本会議北播磨支部役員会 |
| 6月9日 | 金 | 加東市民病院（診察）院長と地域医療政策の懇談 |
| 6月10日 | 土 | 加東市久米地区で地元要望を受ける |
| 6月11日 | 日 | 加東市消防操法大会 |
| 6月12日 | 月 | 本会議（代表質問日） 各会派代表者会議 加東市経済懇話会総会・懇親会 |
| 6月13日 | 火 | 本会議（一般質問日①） 超党派議連の総会 |
| 6月14日 | 水 | 本会議（一般質問日②） 土地改良議連の総会 |
| 6月15日 | 木 | 本会議（一般質問日③） 議会運営委員会 けやき会総会（加東市） |
| 6月16日 | 金 | 農政環境常任委員会（付託議案審査） 県庁巳年の会 |
| 6月17日 | 土 | 「いのちの講演会」（神戸市） 兵庫県薬剤師会懇親会 |
| 6月18日 | 日 | 加東市天神地区県道沿道花壇の苗植付作業 |
| 6月19日 | 月 | 第363回定例県議会閉会 兵庫県保育交流会 |
| 6月20日 | 火 | 農政環境常任委員会（閉会中審査） 社高校評議員会 加東LC例会 |
| 6月21日 | 水 | 自民党議員団建設部会（若手との意見交換） 総会 |
| 6月22日 | 木 | 北播政経懇話会 |
| 6月23日 | 金 | 佐保神社秋祭実行委員会 |
| 6月24日 | 土 | 福田地区ふれあい敬老会 自衛官募集相談員東播連合会総会 みのりJA総代会 加東警察署友の会総会 |
| 6月25日 | 日 | 加東事務所 |
| 6月26日 | 月 | 診察日 |
| 6月27日 | 火 | 加東事務所 |
| 6月28日 | 水 | 社高校110周年記念事業実行委員会 |
| 6月29日 | 木 | 各会派代表者会議 加東市防犯協会総会 |

| | | |
|-------|---|------------------------------------------------------|
| 6月30日 | 金 | 加東事務所 |
| 7月1日 | 土 | 加東市まとい会・消友会総会 |
| 7月2日 | 日 | 県ソフトボール協会常任理事会 |
| 7月3日 | 月 | 加東市商工会、JAみのり訪問 加東警察署要望 |
| 7月4日 | 火 | 東条川疏水インフォコーナーリニューアル式典（東条湖おもちゃ王国） 日本会議近畿ブロック会議（大阪） |
| 7月5日 | 水 | 県庁執務（議会事務局、県警本部） |
| 7月6日 | 木 | 加古川改修促進期成同盟会総会 |
| 7月7日 | 金 | クリーンキャンペーン事前作業 忠魂碑生垣剪定 |
| 7月8日 | 土 | 安倍晋三元首相の志を継承する集い（東京） |
| 7月9日 | 日 | 初日会旅行（北陸） |
| 7月10日 | 月 | 〃 |
| 7月11日 | 火 | 加東事務所 |
| 7月12日 | 水 | 県庁執務 自衛隊兵庫地方本部長来室 |
| 7月13日 | 木 | 各党派代表者会議 県議会公文書管理委員会 愛媛媛県議会議会運営委員会来庁 |
| 7月14日 | 金 | 加東事務所 |
| 7月15日 | 土 | 自民党兵庫県連大会 選対委員長に選任される |
| 7月16日 | 日 | クリーンキャンペーン |
| 7月17日 | 月 | 日本会議兵庫県本部総会・記念講演（川西市） |
| 7月18日 | 火 | 農政環境常任委員会 自民党議員団政策委員会 |
| 7月19日 | 水 | 加東事務所 |
| 7月20日 | 木 | 総務常任委員会管内調査に地元議員として出席 |
| 7月21日 | 金 | 北播政経懇話会7月例会 県政資料シリーズ第X集刊行 |
| 7月22日 | 土 | 東播磨保育研究大会 社歴史民俗研究会例会 |
| 7月23日 | 日 | 末松信介参議院議員政経セミナー |
| 7月24日 | 月 | |
| 7月25日 | 火 | 東条川疏水の講演（うれしの生涯大学サークル） |
| 7月26日 | 水 | 文教常任委員会管内調査に地元議員として出席 加東土木事務所からの報告・説明 |
| 7月27日 | 木 | 夏の高校野球県大会決勝戦応援 社高校優勝 |
| 7月28日 | 金 | 自民党議員団建設部会 議運委員長室執務 |
| 7月29日 | 土 | 上田地区夏まつり |
| 7月30日 | 日 | |
| 7月31日 | 月 | 農政常任委員会管内調査（西播磨）① |

Ⅳ 令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| | | |
|-------|---|-----------------------------------------------|
| 8月1日 | 火 | 農政環境常任委員会管内調査（西播地区）② |
| 8月2日 | 水 | 自民党議員団建設部会 加東市花火大会 加東LC例会 |
| 8月3日 | 木 | 日本会議兵庫北播磨支部総会・記念講演 |
| 8月4日 | 金 | 8月政調会 県専修学校各種学校と議連の意見交換会 |
| 8月5日 | 土 | 社高校甲子園出場激励会 光明寺地区夏まつり 社中リサイクル運動 フォトクラブ櫻写真展 |
| 8月6日 | 日 | 加東市子連協親善ドッジボール大会 |
| 8月7日 | 月 | 自民党県連八役会議 運転免許高齢者講習 |
| 8月8日 | 火 | 健康福祉常任委員会北播磨県民局の調査に出席 |
| 8月9日 | 水 | 甲子園球場で応援－社高校初戦で日大三高に敗退 |
| 8月10日 | 木 | 社地区区長会 |
| 8月11日 | 金 | |
| 8月12日 | 土 | |
| 8月13日 | 日 | 貞守地区夏まつり |
| 8月14日 | 月 | 河高地区盆踊り |
| 8月15日 | 火 | 台風7号通過（加西市辺り） |
| 8月16日 | 水 | 加東土木事務所来所 高岡地区盆踊り |
| 8月17日 | 木 | |
| 8月18日 | 金 | 議会運営委員会 自民党議員団総会・勉強会 |
| 8月19日 | 土 | ソフトボール国体近畿ブロック大会（豊岡市） |
| 8月20日 | 日 | ソフトボール国体近畿ブロック大会（豊岡市） |
| 8月21日 | 月 | 農政環境常任委員会 |
| 8月22日 | 火 | 加東LC例会 加東事務所 |
| 8月23日 | 水 | 北播磨地域ビジョンフォーラム |
| 8月24日 | 木 | 農水省と県議会土地改良推進議連の意見交換会 |
| 8月25日 | 金 | 加東事務所 |
| 8月26日 | 土 | 加東市夏のおどり・佐保の夏まつり in やしろ |
| 8月27日 | 日 | 加東事務所 |
| 8月28日 | 月 | 加東事務所 佐保神社秋祭り各地区役員会 |
| 8月29日 | 火 | 加東事務所 |
| 8月30日 | 水 | うれしの学園生涯大学役員との意見交換会 |
| 8月31日 | 木 | 産業労働常任委員会北播磨県民局調査 美しい日本の憲法をつくる県民の会役員会 |
| 9月1日 | 金 | 天神八朔祭り 加東市内回り |
| 9月2日 | 土 | 加東事務所 久米地区 |

| | | |
|-------|---|----------------------------------------------|
| 9月3日 | 日 | |
| 9月4日 | 月 | 農政環境常任委員会管内調査（阪神地区）① |
| 9月5日 | 火 | 農政環境常任委員会管内調査（阪神地区）② |
| 9月6日 | 水 | 登庁 議運委員長室執務 |
| 9月7日 | 木 | 自民党と友好団体との意見交換会① 社高校110周年実行委 |
| 9月8日 | 金 | 自民党と友好団体との意見交換会② |
| 9月9日 | 土 | 加東市内中学校、小中一貫校の体育大会 |
| 9月10日 | 日 | 全日本空手道ジュニア新人育成選手権大会（加東市） 兵測協前会長叙勲祝賀会（神戸市） |
| 9月11日 | 月 | かだ裕之参議院議員政経セミナー（神戸市） |
| 9月12日 | 火 | 議会運営委員会 自民議員団総会 観光振興議連と旅館ホテル生活衛生同業組合と意見交換 |
| 9月13日 | 水 | 加東市内回り |
| 9月14日 | 木 | 加東LC地区合同例会 佐保神社秋祭り上組実行委 |
| 9月15日 | 金 | 県私学会館開所式 加東美術家協会展 |
| 9月16日 | 土 | 加東市内小学校秋季運動会回り 日本会議兵庫女性の会教育講演会（神戸市） |
| 9月17日 | 日 | 鳴川地区体育祭 社高校同窓会学年幹事会 |
| 9月18日 | 月 | |
| 9月19日 | 火 | 農政環境常任委員会 |
| 9月20日 | 水 | 第364回定例県議会（県公館大会議室） 議運等 |
| 9月21日 | 木 | 県立社高校体育大会 |
| 9月22日 | 金 | |
| 9月23日 | 土 | 加東事務所 |
| 9月24日 | 日 | 加東市山田錦乾杯まつり 東条山田錦探訪ウォーク 加東市ふれあいパークゴルフ大会 |
| 9月25日 | 月 | 本会議（代表質問） 自民党県連役員会議 社会福祉議連と保育連盟・協会との役員懇談会 |
| 9月26日 | 火 | 本会議（一般質問） |
| 9月27日 | 水 | 本会議（一般質問） |
| 9月28日 | 木 | 本会議（一般質問） 決算特別委員会設置 |
| 9月29日 | 金 | 農政環境常任委員会 議会運営委員会（議会改革） |
| 9月30日 | 土 | 加東事務所 |
| 10月1日 | 日 | 県高校野球秋季大会準決勝応援（社対報徳） |
| 10月2日 | 月 | 榎倉香邨氏追悼作品展 |

Ⅳ 令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| | | |
|--------|---|----------------------------------------------------|
| 10月3日 | 火 | 本会議 議会運営委員会 阪神基地隊司令来訪 |
| 10月4日 | 水 | 加東事務所 |
| 10月5日 | 木 | 加東事務所 |
| 10月6日 | 金 | 加東事務所 佐保神社秋祭り 社上組屋台前夜祭 |
| 10月7日 | 土 | 佐保神社秋祭り 宵宮屋台巡行 加茂こども園運動会 |
| 10月8日 | 日 | 佐保神社秋祭り 本宮（4年ぶり） |
| 10月9日 | 月 | 播磨中央公園サイクリングコースグランドオープン |
| 10月10日 | 火 | 加東事務所 社高校特別後援会役員会 |
| 10月11日 | 水 | 加東事務所 運転免許更新 |
| 10月12日 | 木 | 加東LC60周年記念ゴルフコンペ（懇親会出席） |
| 10月13日 | 金 | 県庁執務 自民党県連役員会 |
| 10月14日 | 土 | 北播磨子ども発達支援センターわかあゆ園運動会 社小リサイクル運動 |
| 10月15日 | 日 | 加東事務所 |
| 10月16日 | 月 | 令和5年度地域安全兵庫県民大会 県庁執務 |
| 10月17日 | 火 | 海上自衛潜水艦進水式 加東土木事務所長来所 |
| 10月18日 | 水 | 決算特別委審査傍聴 自民党加東市支部幹事会 |
| 10月19日 | 木 | 加東市内回り・事務所作業 |
| 10月20日 | 金 | 加東事務所 |
| 10月21日 | 土 | 第29回全国戦没学徒追悼祭「南あわじ市若人の広場」 |
| 10月22日 | 日 | 河高地区コスモスマつり 加東市家庭バレーボール連盟選手権 |
| 10月23日 | 月 | 第364回定例県議会閉会 議会運営委員会（議会改革） 各会派代表者会議 議会政調懇話会・研修会 |
| 10月24日 | 火 | 農政環境常任委員会（閉会中調査） 県庁執務 |
| 10月25日 | 水 | 加東事務所 |
| 10月26日 | 木 | 北播政経懇話会例会 社高校110周年記念実行委員会 |
| 10月27日 | 金 | 県庁執務 自民党県連勉強会 |
| 10月28日 | 土 | 東条川疏水ポート下り 東条学園小中学校文化祭 佐保神社秋祭上組太鼓屋台保存会帳やぶり |
| 10月29日 | 日 | 三木山森林公園30周年 |
| 10月30日 | 月 | 農政環境常任委員会管外調査① |
| 10月31日 | 火 | 農政環境常任委員会管外調査② |
| 11月1日 | 水 | 農政環境常任委員会管外調査③（北陸） |
| 11月2日 | 木 | 議会運営委員会 議会ペーパーレス化検討小委員会 自民党議員団総会 地方議員有志懇談 |

| | | |
|--------|---|-----------------------------------------------------|
| 11月3日 | 金 | 加東ライオンズクラブ結成60周年記念式典・演奏会 |
| 11月4日 | 土 | 北播磨農と食の祭典 加東市長杯親善中学軟式野球大会 |
| 11月5日 | 日 | 加東市秋のフェスティバル 加東市文化連盟祭 |
| 11月6日 | 月 | 加東事務所 加東土木事務所長来所 |
| 11月7日 | 火 | 農政環境常任委員会管内調査①(東播淡路地区) |
| 11月8日 | 水 | 農政環境常任委員会管内調査②(東播淡路地区) |
| 11月9日 | 木 | 加東事務所 佐保神社秋祭事項委員会反省会 |
| 11月10日 | 金 | 加東事務所 |
| 11月11日 | 土 | 自民党兵庫県連政経文化パーティー 加東市金婚夫婦を祝う会 安全安心加東市民大会 |
| 11月12日 | 日 | 加東フィル定期演奏会 2023ばかちから大会(加西市) 末廣流いけばな展 加東市ふれあい球技大会 |
| 11月13日 | 月 | 加東事務所 教え子との懇談会 |
| 11月14日 | 火 | 加東事務所 加東LC奉仕委員会 |
| 11月15日 | 水 | 加東事務所 |
| 11月16日 | 木 | 加東市民病院診察 |
| 11月17日 | 金 | 農政環境常任委員会 議運委員長室執務 |
| 11月18日 | 土 | 兵庫県立社高校創立110周年記念式典・講演会 |
| 11月19日 | 日 | 県庁加東クラブ総会(加東市) 農業祭(加西市) |
| 11月20日 | 月 | 加東事務所 |
| 11月21日 | 火 | 加東事務所 |
| 11月22日 | 水 | 自民党加東市支部移動研修会(淡路方面) |
| 11月23日 | 木 | 東条川疏水ネットワーク博物館活動発表会 和心会書道展 天神地区敬老会 |
| 11月24日 | 金 | 議会運営委員会 各会派代表者会議 自民党議員団総会 |
| 11月25日 | 土 | 加東事務所 |
| 11月26日 | 日 | 県ソフトボール協会常任理事会 |
| 11月27日 | 月 | 加東事務所 |
| 11月28日 | 火 | 各会派代表者会議 議運委員長室執務 地方議員有志の会 |
| 11月29日 | 水 | 加東事務所 |
| 11月30日 | 木 | 兵庫県私立学校理事長会創立五十周年記念式典 |
| 12月1日 | 金 | 第365回定例県議会開会 議運 日韓親善懇親会 |
| 12月2日 | 土 | 海上自衛隊阪神基地隊開隊71周年記念行事 |
| 12月3日 | 日 | 日本会議兵庫神戸支部総会・記念講演会 加東市子ども会親善サッカー大会 東福寺弁財天まつり |

Ⅳ 令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| | | |
|--------|---|---------------------------------------------|
| 12月4日 | 月 | 加東事務所 |
| 12月5日 | 火 | 加東事務所 |
| 12月6日 | 水 | 本会議（表質問日） 兵庫県宅建政治連盟と意見交換 |
| 12月7日 | 木 | 本会議一般質問① 日本会議議員連盟総会 神道政治連盟講演会・懇親会 |
| 12月8日 | 金 | 本会議一般質問② 議運委員長室執務 |
| 12月9日 | 土 | 加東事務所 市内回り 社農会忘年会 |
| 12月10日 | 日 | 加東市柔道大会 兵庫県遺族会語り部の会 やしろ歴史民俗研究会役員会 |
| 12月11日 | 月 | 農政環境常任委員会（議案審査） 議運（議会改革） |
| 12月12日 | 火 | 登庁 県専修学校各種学校連合会要望会 |
| 12月13日 | 水 | 本会議（閉会） 県私学総連合要望会 県測量設計業協会との意見交換・懇親会 |
| 12月14日 | 木 | 加東市赤穂義士祭 |
| 12月15日 | 金 | 県農産物直売（県庁） 議運委員長室執務 |
| 12月16日 | 土 | うれしの学園生涯大学加東支部作品展 北朝鮮による拉致事件を知る集い（神戸） |
| 12月17日 | 日 | 加東子連協寄せ植え教室 内藤議長祝賀会 諸行事委員会役員会・懇親会（社） |
| 12月18日 | 月 | 農政環境常任委員会 各会派代表者会議 自民党議員団勉強会 常任委員と当局の懇親会 |
| 12月19日 | 火 | 加東市内 加東土木事務所インフラ整備計画説明 |
| 12月20日 | 水 | 加東ライオンズクラブクリスマス訪問（市内こども園等） |
| 12月21日 | 木 | 県立はりま姫路総合医療センター（受診） |
| 12月22日 | 金 | 福岡県議会議会運営委員会来訪 尚友会役員会 |
| 12月23日 | 土 | 加東事務所 |
| 12月24日 | 日 | 加東事務所 |
| 12月25日 | 月 | 県庁執務 公教育を考える会 |
| 12月26日 | 火 | 県庁執務 有志の会 |
| 12月27日 | 水 | 年末整理 |
| 12月28日 | 木 | 年末整理 |
| 12月29日 | 金 | 加東消防団年末警戒発団式 |
| 12月30日 | 土 | 年末整理 |
| 12月31日 | 日 | 除夜の鐘（持寶院） |
| 1月1日 | 月 | 地区初総会回り 4時10分能登半島大地震発生 |

| | | |
|-------|---|-------------------------------------------|
| 1月2日 | 火 | 持寶院年賀 佐保神社初詣 羽田空港飛行機衝突事故 |
| 1月3日 | 水 | 地区初総会回り 兵教大附属中5期生同窓会 |
| 1月4日 | 木 | 登庁 議運委員長室執務 |
| 1月5日 | 金 | 加東市伝の助かるた大会 子連協新春書き初め大会 加東市新春交歓会 |
| 1月6日 | 土 | 新年福祉のつどい(兵庫県社協) |
| 1月7日 | 日 | 地区初総会回り 加東市二十歳の集い |
| 1月8日 | 月 | 地区初総会回り 事務所執務 |
| 1月9日 | 火 | 政調会① 春名哲夫元副議長通夜 |
| 1月10日 | 水 | 政調会② 日台親善議連 中華民国留日華僑総会来訪 |
| 1月11日 | 木 | 政調会③ 自民議員団総会 建設部会 進藤参議院議員来訪 |
| 1月12日 | 金 | 加東事務所 加古川流域土地改良事務所から説明 |
| 1月13日 | 土 | 社小リサイクル運動 加東事務所 |
| 1月14日 | 日 | 地区初総会回り |
| 1月15日 | 月 | 議会運営委員会 各会派代表者会議 議員団総会 近畿非破壊検査連合会新春交歓会 |
| 1月16日 | 火 | 農政環境常任委員会 自衛隊兵庫地本来訪 自民勉強会 |
| 1月17日 | 水 | 1.17ひょうご安全の日のつどい 県庁執務 |
| 1月18日 | 木 | 新年保育のつどい 加東事務所 |
| 1月19日 | 金 | 加東市山口地区ため池調査 兵測協新年会 専修学校各種学校連合会新年会 |
| 1月20日 | 土 | 加東市連合婦人会新春の集い 市内地区有志来所 |
| 1月21日 | 日 | 地区初総会回り |
| 1月22日 | 月 | 兵庫県私学総連合会新年互礼会 県庁執務 |
| 1月23日 | 火 | 北播磨県民局令和6年度主要施策説明会 |
| 1月24日 | 水 | 加東警察署術科始め式 県庁執務 |
| 1月25日 | 木 | (静養) |
| 1月26日 | 金 | 東・北播磨地域多面的機能保存向上活動発表会 北播政経懇話会新春例会 |
| 1月27日 | 土 | やしろ歴民研役員会 社高校尚友会役員会打ち合わせ |
| 1月28日 | 日 | 地区総会回り 光風流いけばな展・演奏会 |
| 1月29日 | 月 | 県庁執務 自民別意見交換会 公明党国政報告会 |
| 1月30日 | 火 | 加東事務所 |
| 1月31日 | 水 | 農政環境常任委員会管内調査(但丹地区)① |
| 2月1日 | 木 | 農政環境常任委員会管内調査(但丹地区)② |

Ⅳ 令和5年5月～令和6年3月の活動記録

| | | |
|-------|---|----------------------------------------------|
| 2月2日 | 金 | 農政環境常任委員会管内調査（但丹地区）③ 駐神戸大韓民国総領事と夕食会（日韓議連） |
| 2月3日 | 土 | 加東軟式野球協会総会 加東市人権を考える市民の集い |
| 2月4日 | 日 | 兵庫県ソフトボール協会常任理事会 |
| 2月5日 | 月 | 加東事務所 |
| 2月6日 | 火 | 加東L. C. 献血奉仕活動 県庁執務 |
| 2月7日 | 水 | 加東事務所 |
| 2月8日 | 木 | 議会運営委員会 議員団総会 勉強会 |
| 2月9日 | 金 | 加東事務所（加東土木事務所長来所） 県庁執務 |
| 2月10日 | 土 | 加東市高齢者大学閉講式 井戸前知事叙勲を祝う会 |
| 2月11日 | 日 | 建国記念の日を祝う会（神戸） 河高八幡神社厄除け祭 上久米東光寺大日如来祭 |
| 2月12日 | 月 | 加東事務所 |
| 2月13日 | 火 | 農政環境常任委員会 県庁執務 |
| 2月14日 | 水 | 山田錦の日本農業遺産登録に向けた意見交換会 |
| 2月15日 | 木 | 第366回定例県議会開会 議運、団総会、レク等 |
| 2月16日 | 金 | 加東事務所 |
| 2月17日 | 土 | 神結酒造蔵まつり |
| 2月18日 | 日 | 三草ふれあい広場避難訓練 加東市いけばな展 |
| 2月19日 | 月 | 加東事務所 |
| 2月20日 | 火 | 本会議 議会運営委員会 レク等 |
| 2月21日 | 水 | 本会議 代表質問 |
| 2月22日 | 木 | 本会議 |
| 2月23日 | 金 | 加東事務所 |
| 2月24日 | 土 | やしろ歴史民俗研究会研修会 |
| 2月25日 | 日 | 北播磨もち麦研究大会 社公民館交流会 |
| 2月26日 | 月 | 本会議一般質問に登壇 |
| 2月27日 | 火 | 本会議 |
| 2月28日 | 水 | 本会議 議会運営委員会 議員団総会 |
| 2月29日 | 木 | 農政環境常任委員会 |
| 3月1日 | 金 | 農政環境常任委員会 |
| 3月2日 | 土 | 加東市酒米生産者大会 加東カップ中学生バレーボール大会 |
| 3月3日 | 日 | 加東市の歴史と文化を学ぶ会で講演 兵庫県ソフトボール協会理事総会（明石市） |
| 3月4日 | 月 | 加東事務所 |

| | | |
|-------|---|----------------------------|
| 3月5日 | 火 | うれしの学園生涯大学卒業式 自民党議員団総会 |
| 3月6日 | 水 | 自民党議員団総会 議運委員長室執務 |
| 3月7日 | 木 | 加東事務所 |
| 3月8日 | 金 | 島守の広場（神戸須磨区） |
| 3月9日 | 土 | 東播磨文化フェスティバル 加東市スポーツ賞・文化賞 |
| 3月10日 | 日 | |
| 3月11日 | 月 | 加東事務所 |
| 3月12日 | 火 | 加東事務所 |
| 3月13日 | 水 | 自民党議員団総会 議運委員長室執務 |
| 3月14日 | 木 | 予算特別委員会総括審査傍聴 自民党議員団総会 |
| 3月15日 | 金 | 自民党各種友好団体との意見交換会① 自民議員団総会 |
| 3月16日 | 土 | 加東事務所 |
| 3月17日 | 日 | 日本会議地方議員連盟拡大役員総会（東京） |
| 3月18日 | 月 | 自民党各種友好団体との意見交換会② |
| 3月19日 | 火 | 本会議 議運 議員団総会 |
| 3月20日 | 水 | K G 高等学院卒業式 自民党加東市支部幹事会 |
| 3月21日 | 木 | 農政境常任委員会 自民党議員団警察部会 土地改良議連 |
| 3月22日 | 金 | 第366回定例県議会閉会 議会運営委員会 |
| 3月23日 | 土 | 加東事務所 |
| 3月24日 | 日 | 加東事務所 |
| 3月25日 | 月 | 加東事務所 |
| 3月26日 | 火 | 加東事務所 |
| 3月27日 | 水 | 加東事務所 加東土木事務所長説明来所 |
| 3月28日 | 木 | 加東事務所 |
| 3月29日 | 金 | 加東事務所 |
| 3月30日 | 土 | 自民党県連女性局「りぶるの会」総会（神戸市） |
| 3月31日 | 日 | 兵庫ビジョンの会（神戸市） |



◆著者紹介

藤本百男 ふじもと ひゃくお

【学歴・職歴・社会活動歴等】

- 昭和28年10月31日 兵庫県加東郡社町社生（現加東市社）
- 兵庫県立社高等学校、早稲田大学法学部卒業
- 国立学校教員（兵庫教育大学附属小学校、同附属中学校教諭、兵庫県加古川市立小学校、滝野町立滝野東小学校教諭）
- 兵庫教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）
- 神戸商科大学・兵庫県立大学非常勤講師（学校教員と兼職）
- 社町史編纂委員、社小学校PTA会長、社3区副区長等

【議員歴】

- 平成19年4月 兵庫県議会議員初当選
農政環境常任副委員長、総務常任副委員長
- 平成23年4月 兵庫県議会議員2回目当選
自民党県議団副政調会長、副幹事長、文教部会長
健康福祉常任委員長
- 平成27年4月 兵庫県議会議員3回目当選
文教常任委員長 自民党県議団文教部会長
第124代兵庫県議会議長（平成28年6月11日～29年6月9日）
議員定数等調査特別委員 自民党県議団農政環境部会長
自民党県議団政務調査会長（30年4月～31年4月）
行財政構造改革特別委員 決算特別委員 予算特別委員長
- 平成31年4月 兵庫県議会議員4回目当選
関西広域連合議会議員 自民党議員団総務部会長
自由民主党兵庫県連政務調査会長（令和元年6月～）
自民党県議団幹事長（令和2年5月8日～令和3年4月26日）
第124代兵庫県議会議長（令和3年6月9日～令和4年6月9日）
議会運営委員長（令和4年6月9日～5年4月29日）
- 令和5年4月 兵庫県議会議員5回目当選
議会運営委員長（令和5年5月15日～）

【議員連盟等】

- 兵庫県議会日本会議議員連盟会長 兵庫県議会防衛議員連盟会長
兵庫県議会社会福祉推進議員連盟会長 兵庫県議会酒米日本酒振興議員連盟会長

【団体役職等】

- 自民党加東市支部支部長、日本会議兵庫北播磨支部支部長、加東軟式野球協会会長、
兵庫県ソフトボール協会会長、県立社高等学校尚友会会長、兵庫県釣針協同組合顧問等

【県政シリーズ既刊】

- 県政シリーズⅠ「東条川疏水」
- 県政シリーズⅡ「終戦70年 慰霊を考える 加東市内の忠魂碑・慰霊塔」
- 県政シリーズⅢ「ふるさと加東の道標・道路元標」
- 県政シリーズⅣ「加東四国八十八ヶ所霊場・議会改革一年の歩み」
- 県政シリーズⅤ「加東の近代史を彩る人物像・29年度議会活動報告」
- 県政シリーズⅥ「神と仏と人の出会う里加東・30年度後半議会活動報告」
- 県政シリーズⅦ「ふるさと加東の伝説・伝承」・令和元年～2年の議員活動報告」
- 県政シリーズⅧ「ふるさと加東の教育あらかると」・令和2年～3年の議員活動報告」
- 県政シリーズⅨ「ふるさと加東の歴史に刻まれた青春・令和3年～4年の議員活動報告」
- 県政シリーズⅩ「ふるさと加東の推し景観」令和4年～5年の議員活動報告」

県政資料 ふるさと加東の歴史再発見シリーズ XI

ふるさと加東の「学校の歴史遺産」

—未来に伝えたい教育・歴史遺産—

5期目がスタート 仮議場の1年

—2年連続の議会運営委員長に—

- ◆ 郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より
- ◆ 議員活動ブログ「百聞百見」より

発行日 令和6年5月吉日

著者 兵庫県議会議員 藤本百男

発行所 藤本百男事務所

〒673-1431 兵庫県加東市社1491-1

TEL(0795)43-8270 FAX(0795)20-6675

印刷所 株式会社 吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL(0794)63-4011 FAX(0794)62-5252

非売品
